

令和5年度

中期目標・中期計画の進捗に係る

自己点検・評価報告書

令和5年6月

福井大学

全学内部質保証委員会

目 次

1. 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価の概要	1
2. 法人評価対応部会 部会員一覧	6
3. 自己点検・評価結果の概要	7
4. 自己点検・評価結果（中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・ 評価シート）	10
別表：評価指標一覧とその達成状況	39

1. 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価の概要

【実施に当たり】

「中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価」は、福井大学内部質保証規程（令和3年1月27日 福大規程第1号）第8条の規定に基づき、福井大学全学自己点検・評価実施要項（令和3年3月22日 学長裁定）により実施するものである。

第4期中期目標期間における4年目終了時及び中期目標期間終了時評価に係る業務実績評価（達成状況評価も含む）では、主に、①中期計画に係る評価指標の達成状況、②優れた実績・成果によって評価される。特に、十分高い評価を得るには、全ての評価指標についてその達成が必須であり、さらに予め設定したそれぞれの目標値を大きく超えることが求められる。そこで、高い評価に繋がる中期目標・中期計画の達成並びに優れた実績・成果の創出の一助となるよう、本自己点検・評価では、主に評価指標の達成状況並びに優れた実績・成果に着目し、毎年度、以下の視点から中期目標・中期計画の進捗を検証する。

- 1) 設定された評価指標が目標値を達成しているか。達成していない場合、達成に向けた適切な改善対応が図られているか。
- 2) 評価実施前年度に策定された改善に向けた取組みがある場合、それが実施され、当該評価指標が目標値を達成できたか。
- 3) 中期計画の達成に資する取組等が実施され、さらに、優れた点・特色ある点が創出されているか。

特に、前年度に目標値を達成していない評価指標が当該年度の目標値を達成できているか、または達成が十分見込まれるかを確認すると共に、優れた点・特色ある点、またはそれに繋がる取組については、中期計画の評定を引き上げるために必要であることから、検証実施に際して積極的に抽出することとする。

全学的な内部質保証の一環として実施する「教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価」において、IR機能を活用した客観的なデータに基づく自己点検・評価として、IR室（経営戦略課）で収集しているファクトブックのデータを分析し、大学の現状も含む教育研究活動等を、毎年度、自己点検・評価している。分析するデータには、中期目標・中期計画の進捗を示す定量的な評価指標に相当する「特徴データ」が含まれ、これら評価指標の達成状況の検証は本自己点検・評価で実施することとしている。

本自己点検・評価では、全学を挙げて中期目標・中期計画の達成を推進するため、その進捗状況を全学的に情報共有するよう、各中期計画の担当部局による自己点検・評価結果を全学的な視点から評価し、それら結果に基づき、改善・向上を含め達成に向けた方策等を策定・実施することとしている。このように、本自己点検・評価は点検・評価・改善のプロセスを形成しており、全学内部質保証の一環として機能する。そこで、本自己点検・評価は、「中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価」として、全学自己点検・評価の一環として位置付けている。

【実施手順等】

本自己点検・評価は、基本的に、「中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価の実施ガイドライン」に沿って、以下のように実施している。

(1) 実施体制

内部質保証実施小委員会の下に「法人評価対応部会（以下、「部会」という）」を設置し、部会は本自己点検・評価を毎年度実施する。

(2) 自己点検・評価の対象

本自己点検・評価では、評価実施前年度の実績を対象とする。

(3) 実施方法

- ①本自己点検・評価は、「中期目標・中期計画進捗管理システム（以下、「進捗管理システム」という）」を利用して実施する。その際、以下の視点から、進捗状況を点検・評価する。
 - 1) 設定された評価指標が目標値を達成しているか。達成していない場合、達成に向けた適切な改善対応が図られているか。
 - 2) 評価実施前年度に策定された改善に向けた取組みがある場合、それが実施され、当該評価指標が目標値を達成できたか。
 - 3) 中期計画の達成に資する取組等が実施され、さらに、優れた点・特色ある点が創出されているか。
- ②担当部局は、進捗管理システムに評価実施前年度の実績（評価指標の実績値、中期計画の実施状況、優れた点・特色ある点など）及び自己評価の結果等を評価実施年度5月中旬までに入力する。なお、担当部局による自己評価は以下の評点及び評語により実施する。

《担当部局による自己評価における評点及び評語》

（個々の評価指標）

- 1) 中期計画に設定された評価指標の達成状況
 1. 評価指標が目標値（目標）を達成している
 2. 評価指標が目標値（目標）を達成していない
- 2) 評価指標が未達成の場合の改善方策「目標達成に向けた取組等」の策定状況
 1. 改善方策等を策定している
 2. 改善方策等を策定していない
 3. 該当なし（達成済み）
- 3) 前年度未達成の評価指標の改善状況
 1. 評価指標が改善（達成）されている
 2. 評価指標が改善（達成）されていない
 3. 該当なし（達成済み）

(中期計画全体)

4) 中期計画の達成度

- Ⅳ：当年度の計画を上回って実施している
- Ⅲ：当年度の計画を十分に実施している
- Ⅱ：当年度の計画を十分には実施していない
- Ⅰ：当年度の計画を実施していない

③経営戦略課は、進捗管理システムの入力に基づき、中期計画ごとの「中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価シート」(以下、「自己点検・評価シート」という。)を作成し、部会に5月下旬までに提出する。

④部会は、別に定める「中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価の実施手順」に沿って、以下の3名ずつのグループA~Dに分かれて、自己点検・評価シートに判定及びコメントを記入する形(Google ワークスペースにより共同編集)で、2段階の評価を実施する。

第1段階評価

グループ	担当範囲	備考
A	教育(国際を除く)	中期目標(2)~(6)
B	社会との共創、研究、その他	中期目標(1)、(8)、(9)、(10)
C	教育(国際)、業務運営	中期目標(7)、(11)~(15)

参考：各グループの担当数

グループ	中期目標数	中期計画数	評価指標数
A	5	12	26
B	4	13	24
C	6	12	21

第2段階評価

グループ	担当範囲	備考
D	第1段階評価結果の取り纏め	中期目標全体

部会では、各グループ3名の部会員が提出された自己点検・評価シート(担当分)の内容を確認し、6月上旬までに中期計画ごとに評点を付すとともに、必要に応じて、進捗の検証結果に基づき、今後取組が必要な事項及び望ましい事項を含めコメントを付記する。なお、法人評価対応部会による評価は、以下の評点及び評語により行う。

《部会による評価における評点及び評語》

(評価指標全体)

- 1) 中期計画に設定された評価指標の達成状況
 1. 全ての評価指標が目標値を達成している
 2. 一部の評価指標が目標値を達成していない
 3. 全ての評価指標が目標値を達成していない
- 2) 評価指標が未達成の場合の改善方策「目標達成に向けた取組等」の策定状況
 1. 改善方策等が策定されている
 2. 改善方策等が策定されているが、十分ではない
 3. 改善方策等が策定されていない
 4. 該当なし（達成済み）
- 3) 前年度未達成の評価指標の改善状況
 1. 評価指標が改善（達成）されている
 2. 一部の評価指標が改善（達成）されていない
 3. 評価指標が改善（達成）されていない
 4. 該当なし（達成済み）

(中期計画全体)

- 4) 中期計画の達成度
 - Ⅳ：当年度の計画を上回って実施している
 - Ⅲ：当年度の計画を十分に実施している
 - Ⅱ：当年度の計画を十分には実施していない
 - Ⅰ：当年度の計画を実施していない
- 5) 優れた実績・成果が認められる取組等の有無
 1. 優れた実績・成果が認められる取組等がある
 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある
 3. 優れた実績・成果が認められる取組等がない

(4) 自己点検・評価結果等の決定

- ①部会は、上記自己点検・評価シートを取り纏め、「〇〇年度中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価報告書（以下「報告書」という）」を作成・確認し、全学内部質保証委員会に提出する。
- ②全学内部質保証委員会は、報告書に基づき自己点検・評価結果を審議する。その際、当該委員会は、必要に応じて、其々の中期計画にコメントすることができる。
- ③学長は、上記②の自己点検・評価結果等を必要な法定会議の議を経て決定する。なお、全学内部質保証委員会が重大な課題や改善事項等がないと判断し学長が認めた場合は、必要な法定会議へは報告することに代える。

【改善に向けた取組】

- ①学長は、決定した今後の改善・向上に資する事項を含め、関係部局等に報告書を送付

- するとともに必要な措置を関係部局等に指示し、もって自律的な改善・向上を図る。
- ②関係部局等は、報告書に基づき、必要に応じて、評価実施年度（中期目標期間の最終年度を除く）の目標値、改善対応「目標達成に向けた取組等」を適宜修正する。上記に沿って対応措置を実施し、対応を含めた進捗状況を評価実施翌年度の5月中旬までに進捗管理システムに入力（上記(3)-②）することにより改善状況を全学内部質保証委員会へ報告する。
- ③部会は、当該年度自己点検・評価の実施に併せて報告された進捗・改善状況を確認・評価する。

【評価結果等の公表等】

- ①上記(4)-③で評価結果等が決定された後、報告書をHP、関係委員会等で公表し、中期目標・中期計画の進捗状況について全学的な周知を図る。
- ②報告書は経営協議会に提出し、学外委員からの意見聴取を行う。

【自己点検・評価実施期間】

本年度の本自己点検・評価は、令和5年4月から令和5年6月に実施した。

2. 法人評価対応部会 部会員一覧

令和5年4月

所 属	氏 名	備 考
理 事（教育，評価担当）／部会長	安田 年博	
教育・人文社会系部門	浅原 雅浩	
教育・人文社会系部門	松田 和之	
医学系部門 教授	定 清直	
医学系部門 教授	中本 安成	
工学系部門 教授	岡田 将人	
工学系部門 教授	櫻井 明彦	
経営企画部長（経営戦略課長事務取扱）	中村 智夫	
経営戦略課評価担当 主査	山田 和弘	
教育・人文社会系部門 准教授	半原 芳子	その他、部会長が必要と認めた者
教育・人文社会系部門 准教授	磯崎 康太郎	その他、部会長が必要と認めた者
工学系部門	山田 徳史	その他、部会長が必要と認めた者

3. 自己点検・評価結果の概要

本年度の自己点検・評価結果の概要は以下のとおりである。

結果の詳細はそれぞれの「自己点検・評価シート」、特に、評価指標の達成状況は別表「評価指標一覧とその達成状況」に記載したとおりである。

【評価指標の達成状況】

(1) 定量的な評価指標

定量的な評価指標総数 1)	目標値を達成	目標値を未達成	該当せず 2)
6 4	5 1	3	1 0

1) 評価指標の中に複数の指標がある場合、別個の取り扱いとした

2) 当該年度に取組の予定がないもの、基準値を設定することとしているもの。

本年度、設定した当該年度の目標値を達成していない評価指標は次のとおりである。

- ・ (3)-2-B 多職種連携教育科目数
- ・ (7)-1-A 正規留学生数
- ・ (8)-2-A Science Citation Index (SCI) 論文数

他方、目標値を達成した評価指標の中には、設定した当該年度の目標値を大幅に上回るものが散見される。これら指標は、4年目終了時評価において「iii:達成水準を大きく上回ることが見込まれる」と高く評価されるよう、次年度の目標値を上方修正することが望まれる。

(2) 定性的な評価指標

定性的な評価指標総数	目標を達成	目標を未達成	該当せず 1)
2 6	2 1	1	4

1) 当該年度に取組の予定がないもの、基準値を設定することとしているもの。

本年度、設定した当該年度の目標を達成していない評価指標は次のとおりである。

- ・ (14)-2-C 戦略的に分類した各ステークホルダー区分との意見交換会等

なお、定性的な評価指標についても目標の達成は必須であるが、より高い評価を得るためには、その成果・実績を示す必要がある。このため、成果・実績を示すエビデンス（定量的なものを含め）をご検討いただき、それらのフォローをお願いしたい。

【中期計画の達成度】

中期計画総数	中期計画の達成度 1)			
	IV	III	II	I
37	5	28	4	0

1) 中期計画の達成度

IV：当年度の計画を上回って実施している III：当年度の計画を十分に実施している

II：当年度の計画を十分には実施していない I：当年度の計画を実施していない

本年度、「II」または「I」と判定した中期計画は次のとおりである。

大項目	中期計画	判定	判定理由
教育	(3)-2	II	評価指標(3)-2-B(多職種連携教育科目数)が目標値を達成していない。
	(7)-1	II	評価指標(7)-1-A(正規留学生数)が目標値を達成していない。
研究	(8)-2	II	評価指標(8)-2-A(Science Citation Index(SCI)論文数)が目標値を達成していない。
業務・運営	(14)-2	II	評価指標(14)-2-C(戦略的に分類した各ステークホルダー区分との意見交換会等)において当初予定していたホームカミングデーが実施されていない(コロナ禍の影響によるもの)。

【優れた実績・成果が認められる取組等】

本年度、優れた実績・成果が認められる取組等と思われるものは、次のとおりである。

大項目	中期計画	優れた実績・成果が認められる取組等の内容
社会との共創	(1)-1	評価指標(1)-1-Aによって、「社会共創機構の組織的機能拡充」を実施し、高い地域イノベーション関与指数(実績値 371>目標値 241)を達成したことが優れている。
	(1)-2	組織整備により学長自らが主導する社会共創機構を創設し、配下の地域創生推進本部に「附属嶺南地域共創センター」を設置している。さらに、ステークホルダーのニーズに応えた嶺南地域の課題解決に向けたプロジェクト件数(実績値 17>目標値 5)、相手先を福井県、嶺南自治体等とする共同研究、受託研究及び受託事業の受入金額(実績値 6,230千円>目標値 1,500千円)において、目標値を大きく超越して優れている。
	(1)-4	本学で実施したプログラムがガイドラインの主な取組事例に挙がるなど高く評価されている。
教育	(2)-1	全国的にも極めて高い実就職率を記録してきた中で、過去17年間で最も高い就職率を達成している。加えて、その就職先において、全国平均から大幅に下回る離職率であり、これらが的確なキャリアサポートシステムが構築されていることを裏付けている。また、これら学生の出口の成果に繋げるための「各学部の養成人材像を踏まえた調査・分析」につ

		いても滞りなく目標値に向かって取り組まれている。
	(5)-1	<p>長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目割合について、目標達成に向けて計画的に向上策が取られている。加えて、その効果の多面的評価のための準備状況も良好である。加えて、新たな拠点として富山国際大学の R6 年度からの参画も計画されており、取組内容の充実化が期待される。</p> <p>教員養成フラッグシップ大学の指定の獲得により、目標の達成がすなわち全国の教師教育改革のモデルとなる。そのための優れた実績・成果が認められ、なかでも専門職としての教師の長期に渡る力量形成に係る評価に着手している点は高く評価できる。</p>
	(6)-2	<p>医学教育分野別認証受審に向けて、的確な自己点検の取組が機能しており、着実に準備が進められている。学生の達成度自己評価における評価指標についてもベースとなるアンケートが実施され、適切な目標設定に向けて取組が進められている。</p> <p>新たな取組（自己点検）により、これまでの取組の課題（教学 IR データの散在）が発展的に解消され、更にそれが新たな取組・成果へとつながっているプロセスそのものが高く評価できる。</p>
その他	(10)-1	<p>臨床研究に関する基礎から応用までの広い範囲を対象としたセミナー・講習会を実施し（実績値 22>目標値 12）、加えて大学院生も対象とした総合的な統計相談に拡充するなどの支援を実施した点（実績値 31>目標値 12）は優れている。</p>

4. 自己点検・評価結果（自己点検・評価シート）

第4期 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価シート

【社会との共創】

【参考】自己点検・評価結果のコメントについて
 ○(丸) : 評価結果、評価者による所感。今後の取組の参考としてのコメントなど。
 ●(黒丸) : 部局に具体の対応や検討を依頼するもの。

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和4年度		令和5年度	取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	実績状況	実施予定		①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況
中期目標(1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業(農林水産業、製造業、サービス産業等)の生産性向上や雇用の創出、地域医療の向上、文化・教育の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。	中期計画(1)-1 地域に科学技術イノベーションを創出するとともに、具体的な事業化戦略を地域産学官金で共有、協働して社会実装に挑み、複数の実践、成功事例に関する情報蓄積、その効果的な発信を行い、地域の様々な企業や団体との連携のもとでコトづくりとモノづくりを運動させた新たな価値創造への取組を推進し、地域の持続的発展に貢献する。	(1)-1-A 地域イノベーション関与指数(※)：第3期(235)より増加(第4期の平均) ※ 地域イノベーション関与指数は、地域企業等との共同研究契約件数+地域の諸機関との共同研究件数+地域活性化のための公募研究の実施件数+地域イノベーション対話参加件数+技術相談件数×0.1(重み係数)+保有する特許のうち収入をもたらした件数×2(重み係数)とする。重み係数は、第3期の実績を積算・精査し、要素間の数比率を参考に決定した	地域イノベーション関与指数	基準値:235 対象期間:H28~R2の平均	目標値:基準値以上 対象期間:R4~R9の平均	【目標値】241(令和4年度) 【実施予定】地域企業からなる産学連携本部協力会会員約240社のほか、FOIPと密接に連携し、地域企業、自治体や国研等との対話を推進し、地域の課題抽出や、技術相談等を通じて、共同研究等のプロジェクト研究を推進することにより、新たなイノベーションを創出する。	【実績状況・成果】 地域の包括的な産学官金連携体制であるふくいオープンイノベーション推進機構における中核拠点としての役割を担うとともに、イノベーションの創出・推進のための「知の拠点」としての機能を強化することを目的として、以下の取組によって、「社会共創機構の組織的機能拡充」を実施した。 1)社会共創機構において、産学官連携本部附属社会実装研究センターを通して、オープンイノベーション及びスペーステクノロジーのユニットを置いてそれぞれ研究を推進し、地域と協働した社会ニーズに基づく研究・技術開発を推進した。特に、令和3年度に終了した文科省地域イノベーションエコシステム形成支援事業の成果を事業化に結びつけるため、地域企業と組織的な共同研究を実施した。また、超小型人工衛星製造技術開発に関する因プロに地域企業と共同して取組み、地域の産業競争力強化に貢献した。 2)社会共創機構において、地域創生推進本部を通して、DX人材育成のためのインターンシップを含むリカレント教育プログラムに、文科省事業としての採択を得て地域連携体制を構築して取組み、地域における産業人材育成に関してコミットした。 3)社会共創機構において、産学官連携本部を通して、文科省委託事業「もんじゅサイトに設置する新たな試験研究炉の概念設計及び運営の在り方検討」に参画し、新試験研究炉の地域企業による利用及び集積する様々な知識や人材を活用した地域活性化施策に関する調査を行った。中長期にわたる教育、人材育成や、人的ネットワークの形成とそ利用の仕組みづくり、先通知と組み合わせた地域企業技術力のPR等に関する提案を行った。 4)ふくいオープンイノベーション推進機構及び産総研との連携により、地域産学官民が連携する新しい価値創造のための対話、「i-GarageHUB」活動を推進し、新しい漆製品や繊維製品を案出、試作して市場受容性を調査した。	【目標値】248(令和5年度) 【実施予定】地域企業からなる産学連携本部協力会会員約240社のほか、FOIPと密接に連携し、地域企業、自治体や国研等との対話を推進し、地域の課題抽出や、技術相談等を通じて、共同研究等のプロジェクト研究を推進することにより、新たなイノベーションを創出する。	研究推進課	①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している <<コメント>>	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <<コメント>>	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) <<コメント>>
	中期計画(1)-1				中期計画の達成状況 研究推進課	【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】達成度：IV 【達成状況・成果】実績値：37 地域の包括的な産学官金連携体制であるふくいオープンイノベーション推進機構における中核拠点としての役割を担うとともに、イノベーションの創出・推進のための「知の拠点」としての機能を強化することを目的として、以下の取組によって、「社会共創機構の組織的機能拡充」を実施した。 1)社会共創機構において、産学官連携本部附属社会実装研究センターを通して、オープンイノベーション及びスペーステクノロジーのユニットを置いてそれぞれ研究を推進し、地域と協働した社会ニーズに基づく研究・技術開発を推進した。特に、令和3年度に終了した文科省地域イノベーションエコシステム形成支援事業の成果を事業化に結びつけるため、地域企業と組織的な共同研究を実施した。また、超小型人工衛星製造技術開発に関する因プロに地域企業と共同して取組み、地域の産業競争力強化に貢献した。 2)社会共創機構において、地域創生推進本部を通して、DX人材育成のためのインターンシップを含むリカレント教育プログラムに、文科省事業としての採択を得て地域連携体制を構築して取組み、地域における産業人材育成に関してコミットした。 3)社会共創機構において、産学官連携本部を通して、文科省委託事業「もんじゅサイトに設置する新たな試験研究炉の概念設計及び運営の在り方検討」に参画し、新試験研究炉の地域企業による利用及び集積する様々な知識や人材を活用した地域活性化施策に関する調査を行った。中長期にわたる教育、人材育成や、人的ネットワークの形成とそ利用の仕組みづくり、先通知と組み合わせた地域企業技術力のPR等に関する提案を行った。 4)ふくいオープンイノベーション推進機構及び産総研との連携により、地域産学官民が連携する新しい価値創造のための対話、「i-GarageHUB」活動を推進し、新しい漆製品や繊維製品を案出、試作して市場受容性を調査した。 5)令和4年度産学連携推進事業費補助金(地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備)が採択された。これにより、地域企業や地域の諸機関等とのオープンイノベーションが今まで以上に促進され、研究開発及び実用化による経済におけるイノベーションの創出や地域経済活性化に向けた波及効果等が見込まれている。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】		④達成度 IV:計画を上回って実施している <<コメント>> ○令和4年度の実績値37に比べて目標値を低値とすることに理由が必要かと思われる。 ●当該中期目標は今回の目玉であり、最終的に高い評価を期待したい。そのため、実績値が目標値を大きく上回ったと評価できたらと思います。そのために、次年度以降の目標値を上方修正してはどうか。	⑤優れた実績・成果等の有無 1. 優れた実績・成果が認められる取組等がある <<コメント>> ○評価指標(1)-1-Aによって、「社会共創機構の組織的機能拡充」を実施し、高い地域イノベーション関与指数(実績値37)目標値241)を達成したことが優れている。 ○様々な取組みが進められており、その成果が十分期待できる。そこで、よりアピールできるような実績の見える化をご検討いただきたい。	
	中期計画(1)-2	(1)-2-A 令和5年度までに福井県、嶺南自治体等と連携して、人員を配置した地域共創拠点(嶺南地域共創センター)を設置 経営戦略課 (1)-2-B ステークホルダーのニーズに応えた嶺南地域の課題解決に向けたプロジェクト件数：30件以上(第4期の合計) 地域連携推進課	地域共創拠点(嶺南地域共創センター) (R4設置予定)	基準値:- 対象期間:-	目標値:福井県、嶺南自治体等と連携して、人員を配置した当該拠点の設置 対象期間:R4~R5の間 中	【目標値】- 【実施予定】福井県、嶺南自治体等と連携して、人員を配置した嶺南地域共創センターを敦賀市と小浜市に設置する。	【実績値】 【実施状況・成果】 組織整備により学長自らが主導する社会共創機構を創設し、配下の地域創生推進本部に自治体の協力も得て、活動の主なフィールドとなる福井県嶺南地域の敦賀市及び小浜市に「附属嶺南地域共創センター」教員サイト及び小浜サイトを設置した。 また、新規採用や学内配置換えなどによりセンターに専任教員を配置して、機能の実質化を図った。 【自己点検・評価】 ① ②③ ③③	【目標値】- 【実施予定】-	経営戦略課	①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している <<コメント>> ○(1)-2-B、Cともに目標値を大きく上回る実績値となっています。設置初年度のご祝儀かもしれませんが、目標はもう少し高くても良いのでは？ ○令和5年度の前記に記載された「プロジェクトの複数市町への展開」を見込む場合、目標値は令和4年度より上がるのではないかと？ ●(1)-2-Cについて、実績値が目標値を大きく上回っており、次年度以降の目標値を上方修正してはどうかか ●プロジェクトが17件となっているが、17件の全てをプロジェクトと呼ぶにふさわしいか、確認できない(プロジェクトの名称、関係者、期間などは明確か)。4年目終了時評価のことを考えると、どのような要件を満たすものが「プロジェクト」と呼ぶのか、明確においていただきたい。 ○受け入れ金額に関する記載は(1)-2-Cだけでよいのではないかと。(1)-2-Bでは、(1)-2-Cの記述を引用すれば十分である。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <<コメント>>	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) <<コメント>>

	(1)-2-C 相手先を福井県、嶺南自治体等とする共同研究、受託研究及び受託事業の受入金額 地域連携推進課	相手先を福井県、嶺南自治体等とする共同研究、受託研究及び受託事業の受入金額	基準値:9,129千円 対象期間:H28~R2の合計	目標値:基準値以上 対象期間:R4~R9の合計	【目標値】1,500千円 【実施予定】地域創生推進本部に嶺南地域共創センターを設置する。 嶺南2市4町の課題と本学のシーズを基に、各市町と協働し地域課題に取り組むプロジェクトを立ち上げ、共同研究、受託研究、受託事業等を推進する。	【実績値】6,230千円 【実施状況・成果】組織整備により学長自らが主導する社会共創機構を創設し、配下の地域創生推進本部に「附属嶺南地域共創センター」を設置した。また、新規採用や学内配置換えなどによりセンターに専任教員を配置して、機能の実質化を図った。活動の主なフィールドとなる福井県嶺南地域には、自治体の協力も得て教養サイト、小浜サイトの2拠点を構え、若狭町とは新たに包括連携協定の締結を行った。嶺南2市4町の課題と本学のシーズを基に、各市町と協働し地域課題に取り組むプロジェクトを立ち上げ、共同研究、受託事業等を推進した。令和4年度の外部資金受入金額の内訳は、教養市との受託事業1件で1,496千円、共同研究の実績として、美浜町3件973千円、若狭町1件3,257千円、おおい町1件504千円の合計4,734千円。総計で6,230千円を受入れた。これは年間目標値の4倍を超える特筆すべき実績であり、また基準値であるH28~R2年度までの実績合計額9,129千円の68%に及ぶ水準となっている。 なお、これに加え教養市より1件1,226千円の補助金も獲得しており、当該概算要求の事業の中で定めたKPIである「令和9年度末までに、補助金等の外部資金受入金額を第3期中期目標期間の受入総額9,129千円の2倍(18,258千円)以上獲得する。」の目標値の、実に40%に達する実績となった。 【自己点検・評価】 ①1 ② ③	【目標値】1,500千円(累計3,000千円) 【実施予定】嶺南2市4町の課題と本学のシーズを基に、各市町と協働し地域課題に取り組むプロジェクトを立ち上げ、共同研究、受託研究、受託事業等を推進する。 また、プロジェクトの複数市町への展開を検討する。	地域連携推進課			
中期計画(1)-2				中期計画の達成状況 経営戦略課	【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】達成度Ⅲ 【達成状況・成果】組織整備により学長自らが主導する社会共創機構を創設し、配下の地域創生推進本部に「附属嶺南地域共創センター」を設置した。また、新規採用や学内配置換えなどによりセンターに専任教員を配置して、機能の実質化を図った。活動の主なフィールドとなる福井県嶺南地域には、自治体の協力も得て教養サイト、小浜サイトの2拠点を構え、若狭町とは新たに包括連携協定の締結を行った。嶺南2市4町の課題と本学のシーズを基に、各市町と協働し地域課題に取り組むプロジェクトを立ち上げ、共同研究、受託事業等を推進した。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】		④達成度 IV:計画を上回って実施している 【コメント】 ○令和5年度のそれぞれの目標値(5件:1,500千円)について、令和4年度の実績値(17件:6,230千円)に比べて低値とすることに理由が必要かと思われる。	⑤優れた実績・成果等の有無 1. 優れた実績・成果が認められる取組等がある 【コメント】 ○当該中期計画は今回の目玉であり、最終的に高い評価を期待したい。そこで、達成を示す具体的な成果を予め想定いただければと思います。 ○そのためにも、高い成果が及びそうなプロジェクトについては、取組内容を多少具体的に記載して頂きたい。	
中期計画(1)-3	(1)-3-A 総合診療・総合内科医や感染症専門医等の幅広い視点を持つ人材育成、地域医療推進体制の構築、健康のまちづくりを目指し、総合的な診療能力を持つ医師の養成事業、地域臨床研修システムの活性化、地域イノベーションセンターの設立、プレホスピタル救急・感染症医療の連携強化、感染症専門医の育成プログラムの実施等を地方自治体とともに推進して、高齢者に寛容で、感染症に強い、安全で安心な全人的地域医療を実現する。 松岡キャンパス運営管理課	令和2年度に開設した医学部総合診療・総合内科センターにおける総合診療・総合内科医育成コースの専門医療General道場の研修を修了した者	基準値:- 対象期間:-	目標値:12名以上 対象期間:R4~R9の合計	【目標値】2名 【実施予定】医学部総合診療・総合内科センターの教育プログラムである総合診療・総合内科医育成コースに登録し専門医療General道場の研修を修了する。	【実績値】2 【実施状況・成果】医学部総合診療・総合内科センターの教育プログラムである総合診療・総合内科医育成コースに登録し専門医療General道場に2名が登録し、それぞれ3か月間の研修を修了した。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3	【目標値】2名(累計4名) 【実施予定】医学部総合診療・総合内科センターの教育プログラムである総合診療・総合内科医育成コースに登録し専門医療General道場の研修を修了する。	松岡キャンパス運営管理課	①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している 【コメント】	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み)	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) 【コメント】
	(1)-3-B 松岡キャンパス運営管理課	本学で育成・輩出した感染症専門医数 6名以上(第4期の合計)	基準値:- 対象期間:-	目標値:6名以上 対象期間:R4~R9の合計	【目標値】1名 【実施予定】受験資格を持つ教員を確保し、病歴要約等書類作成の指導や受験に向けサポートを行い認定試験に合格させる。	【実績値】2 【実施状況・成果】受験資格を持つ教員を確保し、病歴要約等書類作成の指導や受験に向けサポートを行い認定試験に合格した。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3	【目標値】1名(累計2名) 【実施予定】受験資格を持つ教員を確保し、病歴要約等書類作成の指導や受験に向けサポートを行い認定試験に合格させる。	松岡キャンパス運営管理課			
	(1)-3-C 松岡キャンパス運営管理課	①「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットの開催回数 ②当該サミット参加自治体数 松岡キャンパス運営管理課	基準値:- 対象期間:-	目標値: ①1回 ②延べ180自治体 対象期間: ①R4~R9の毎年度	【目標値】年度内1回開催、30自治体が参加 【実施予定】「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットをハイブリット形式で開催する。また、登録する自治体を増やす取組をする。	【実績値】1, 31 【実施状況・成果】「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットを開催し、登録する自治体を増やした。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3	【目標値】年度内1回開催、30自治体(延べ60自治体)が参加 【実施予定】「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットをハイブリット形式で開催する。また、登録する自治体を増やす取組をする。	松岡キャンパス運営管理課			
中期計画(1)-3				中期計画の達成状況 松岡キャンパス運営管理課	【法人評価対応】 【達成状況・成果】A.総合医育成プロジェクト「地域勤務型研修 General道場」に2名が登録し、協力12医療機関の中から必要な研修現場(令和4年度はNHOあわら病院、国保藤田病院)を選択し、勤務医として3か月間の研修を修了した。 B.感染症専門医の受験者を2名確保し、2名の合格者を輩出することができた。また、令和4年8月11日に開催した公開講座「ウイルスコロナ時代のアレルギー」において、感染症専門医の教授が「新型コロナウイルス感染症を振り返って」と題し講演を行い、令和5年2月23日に開催した公開講座「考えよう! withコロナ時代のライフスタイル」では、昨年感染症専門医を取得した救命助教が「withコロナ時代のむけて」と題して講演を行い、県民にわかりやすく啓発活動を行った。 C.令和4年度は推薦方式にて新規加盟自治体を募り、新規1自治体の加盟を得た。令和4年11月5-6日に、健康のまちづくり友好都市連盟の年1回の会合「健康のまちづくりサミット」を北海道稚内市において現地とオンラインのハイブリット方式で開催し、全国31の自治体から75名が参加し、全国各地で取り組まれている地域ぐるみの健康増進活動・政策およびまちづくり活動・政策について意見を交わした。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】	④達成度 III:計画を十分に実施している 【コメント】 ○中期計画には「地域医療推進体制の構築、健康のまちづくりを目指す」、総合的な診療能力を持つ医師の養成事業、地域臨床研修システムの活性化、地域イノベーションセンターの設立、プレホスピタル救急・感染症医療の連携強化)を上げていますが、関連する取組は実施されているのでしょうか。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある 【コメント】 ○本学において育成・輩出することが容易ではない感染症専門医数が、目標値を超越している(実績値2名)目標値1名)。 ●(1)-3-B.Aの人数輩出数は、全国的に見て、どの程度評価できるものなのか。全国的にもアピールできるような取組があればその点も踏まえて記載ください。			

<p>中期計画(1)-4 現代社会が求める知識・技能を必要に応じてタイミングよく持続的に学ぶことのできる母港型学びの枠組み構築を目指す。地域の発展を支える専門職の生涯にわたる職能成長を支えるリカレント教育や、地域が求めるリカレント教育を整備することにより、ステークホルダーのニーズに対応するリカレントプログラムを実施する。</p> <p>地域連携推進課</p>	<p>(1)-4-A 令和9年度までに「未来協働プラットフォームふくい」における「学生/社会人教育部会」等での議論に基づき実施したリカレントプログラムを複数実施 ※ 福井県版地域連携プラットフォーム。 地域連携推進課</p>	<p>「未来協働プラットフォームふくい」における「学生/社会人教育部会」等での議論に基づき実施したリカレントプログラム数</p>	<p>基準値:- 対象期間:-</p>	<p>目標値:2件以上 対象期間:R4～R9の合計</p>	<p>【目標値】- 【実施予定】「未来協働プラットフォームふくい」学生教育、社会人教育実行部門会議での議論に基づく地域ニーズに対応するリカレントプログラムの構築を検討する。</p>	<p>【実績値】1件 【実施状況・成果】「未来協働プラットフォームふくい」実行部門会議「学生教育、社会人教育」での議論に基づき、リスキリングプログラムの実行を実施することとなり、福井大学並びに愛媛大学がそれぞれ社会人向けのリスキリング講座を企画した。本学が実施した「地域企業および、自治体におけるカーボンニュートラル実現に向けた第一歩を学ぶ～産学官金の連携を通じて～」の講座には、二日間に及ぶプログラムに延べ23社56名の参加があった。また、受講料は2万円を設定し、44万円の収入があった。当該プログラムは、プラットフォームの下で、福井県による経費支援のほか、参加する大学、産業界や金融界などとの協働より実施されたものであり、受講者アンケートにおいても96%をこえる高い満足度を得た。</p> <p>【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3</p>	<p>【目標値】- 【実施予定】「未来協働プラットフォームふくい」学生教育、社会人教育実行部門会議での議論に基づく地域ニーズに対応するリカレントプログラムの構築を検討する。</p>	<p>地域連携推進課</p>	<p>①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している <コメント> ●「実施状況・成果」の記載にあたっては、「職能成長を支えるリカレント教育」ど「地域が求めるリカレント教育」に分け、取組がないものについてはその旨がわかるように記載ください。なお、1-4-Aとして「職能成長を支えるリカレント教育」の実施予定がないのであれば、中期計画1-4の【達成状況・成果】欄に記載ください。</p>	<p>②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント></p>	<p>③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) <コメント></p>
<p>中期計画(1)-4</p>				<p>中期計画の達成状況 地域連携推進課</p>	<p>【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>【進捗状況】達成度 Ⅲ 【達成状況・成果】 本学が掲げる母港型学びの枠組みは、総理大臣によるリスキリングに関する発言により大きく話題となったほか、教育未来創造会議の提言(令和4年5月10日)を始め様々な場で求められる、生涯学び続け、自らの能力をアップデートし続ける人材像の構築にも繋がる取組である。時代の潮流を先取りし、これから求められる最先端の知の枠組みにアクセスできる場所として、地域の大学はその中心となり、知のアップデートセンターとしての役割を果たしていくことが求められる。当本部では、「未来協働プラットフォームふくい」実行部門会議「学生教育、社会人教育」において、地域産業界、金融界を交えた議論を重ね、社会的に関心の高いSDGsに関連するテーマとして「カーボンニュートラル」に焦点を当てた講座を実施した。本講座は「未来協働プラットフォームふくい」の試行プログラムとして受講料(2万円)を徴収する有料講座として実施し、平日午後の開催にも関わらず、23社56名の参加があった。これは事前にステークホルダーとのニーズのすり合わせを踏まえて講座を設定したことが、想定した定員を上回る参加につながったものとみている。 また、文部科学省からの委託事業、令和3年度補正「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」に採択され、就職や転職を希望する34名の受講者に対し約2か月間にわたり、「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム(DX人材養成)」を提供した。就業のニーズとなる「コア科目」を24時間、DXの基礎知識となる「スキル養成科目」を56時間、多くの企業から強いニーズのある「サイバーセキュリティ」、「システム開発・設計」、「DX-現代社会のデジタル化」の3つのクラスに分かれ、更に就業体験としてインターンシップや事業化可能性調査を含む「アプレンティス科目」を56時間、合計136時間にわたるプログラムを展開し、34名中33名がプログラムを修了した(未修了の1名は県外企業への就職が決定し途中で受講を辞退)。その取組は高く評価を受けており、文部科学省のホームページで公開されている「大学等におけるリカレント教育の持続可能な運営モデルの開発・実施に向けたガイドライン」に主な取組事例としてピックアップされた。</p> <p>【特記事項】 ・令和3年度補正「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」に関し、文部科学省のホームページで公開されている「大学等におけるリカレント教育の持続可能な運営モデルの開発・実施に向けたガイドライン」に主な取組事例としてピックアップされている点。</p>	<p>【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>④達成度 IV:計画を上回って実施している <コメント> ○本学で実施したプログラムがガイドラインの主な取組事例に挙がるなど高く評価されている</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無 1. 優れた実績・成果が認められる取組等がある <コメント> ○令和3年度補正「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」に関し、文部科学省のホームページで公開されている「大学等におけるリカレント教育の持続可能な運営モデルの開発・実施に向けたガイドライン」に主な取組事例としてピックアップされている点が優れた実績・成果に繋がると期待される。 ○試行プログラムはすでに十分に評価に値すると考えられるので、今後のさらなる成果への接続が期待される。</p>		

第4期 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価シート

【教育】

【参考】自己点検・評価結果のコメントについて
 ○(丸) : 評価結果、評価者による所感、今後の取組の参考としてのコメントなど。
 ●(黒丸) : 部局に具体的な対応や検討を依頼するもの。

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和4年度		令和5年度	取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	実施状況	実施予定		①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況
中期目標(2) 学生の能力が社会でどのように評価されているのか、調査、分析、検証をした上で、教育課程、入学者選抜の改善に繋げる。特に入学者選抜に関しては、学生に求められる意欲・能力を明確にした上で、高等学校等で育成した能力を多面的・総合的に評価する。	中期計画(2)-1 社会から求められる高い能力を有する卓越高度専門職業人の輩出を目指し、全学的な教育内部質保証体制のもと、ステークホルダーに対する意見聴取の在り方を見直し、学修成果・教育成果をより精確に把握する仕組みを構築するとともに、教学IRを整備・活用し、輩出した人材が社会で求められる能力を身に付けているか調査・分析し、その結果を踏まえ、3ポリシーの見直しを含む教育課程や入学者選抜の改善を行う。	(2)-1-A 各学部・養成人材像を踏まえた調査・分析を実施(第4期の毎年度)	各学部の養成人材像を踏まえた調査・分析	基準値:- 対象期間:-	目標値:実施 対象期間:R4~R9の毎年度	【目標値】- 【実施予定】・教学IR部門の設置 ・教学IR体制の構築 ・学修成果・教育成果の可視化ツールの開発・試行 ・在学生の各種アンケートの内容の見直しと調査の実施・分析 ・卒業生のアンケート調査方法の見直し ・就職先等のアンケート調査方法の見直しと実施 ・令和7年度入試改革に向けたAPの見直しの検討 ・教学IRデータの公表方法の検討	【実績値】各学部の養成人材像を踏まえた調査3件(うち2件分析済)を実施した。 【実施状況・成果】 ○教学IR部門の設置 令和4年10月1日付け、高等教育推進センターに教学IR部門を設置した。 ○教学IR体制の構築 令和3年度に設置された教学IR推進プロジェクトチームによる教学IRの推進に取組んできたが、高等教育推進センターへの教学IR部門設置により、全学的な教学IR体制の構築が完了した。また、学生調査・分析を軸とするIRを適じた連携大学間での相互評価結果を教育の質の向上に活用することを目的とし、一般社団法人大学IRコンソーシアムへ加入した。 ○学修成果・教育成果の可視化ツールの開発・試行 医学部については可視化した学修成果を学生の教育指導に活用。工学部については、令和3年度に2学科の可視化ツールを開発。令和4年度においては、可視化ツールの検証による機能改善を実施後、残りの3学科の可視化ツールを開発した。教育学部と国際地域学部については、令和5年度中の可視化ツール開発に向けた検討を開始した。 ○在学生の各種アンケートの内容の見直しと調査の実施・分析 「学生生活実態調査」について、学生の負担を軽減するために、「教育・研究に対する意識・満足度調査」と重複する項目を見直す(削減)とともに、回答方法に選択式を多く取り入れ、自由記述を少なくする等の見直しを行った上で、Web方式で実施した。分析結果では、これまで取組んできた就学環境の充実に対し、「図書館・自習室などの学習支援施設」の満足度が高い結果となり、全国調査結果と比べても福井大学の満足度は高かった。また、「就職・進路への支援」についても全国調査結果と比べて福井大学は満足度が高く、本学のきめ細やかな就職支援に対する高評価が見て取れた。今年度加入した一般社団法人大学IRコンソーシアムが実施する「学生調査(本学名:在学生調査)」を1・3年生を対象に実施し、これまでに高い回収率(1年平均88.3%、3年平均74.2%)を達成した。今後、分析結果をステークホルダーに公表するとともに、各学部において教育の質の向上に向けた改善に活用する。また、文部科学省の「全国学生調査(第3回施行)」を2・4年生を対象に実施した。 ○卒業生のアンケート調査方法の見直し 以下の学部・研究科において実施した。 (教育学部) 実施時期:令和4年7月 設問見直し:行っていない。 分析:今後行う予定 (医学部) 実施時期:令和5年3月 設問見直し:教育成果に関する質問項目を「アウトカム基盤型教育のコンピテンシー小領域」に変更 分析:今後行う予定 (連合教職開発研究科) 実施時期:令和5年2月 設問見直し:行っていない。 分析:今後行う予定 (医学系研究科) 実施時期:令和5年3月 設問見直し:初めての実施ということで「大学院で修得した能力を活用できているかどうか」を基本として質問項目を構成 分析:今後行う予定 ○就職先等のアンケート調査方法の見直しと実施 キャリアセンターにおいて設問内容の見直しを検討したが、前回調査結果との比較を行うため見直しは行わないこととした。実施に際しては、回答時の利便性を考慮し、従来のFAXおよびメールでの回答に加え、Googleフォームでも回答できるよう改善を行った上で実施し、分析結果を全学委員会等で報告した。 ○教学IRデータの公表方法の検討 令和3年度において文部科学省が実施した「全国学生調査(第2回施行)」の結果を「数字でみる福井大学のいま」としてポスター化し、学内の主要な掲示板上に貼付することにより、ステークホルダーへのアピールを行った。 ※公表項目:アンケート回答率、専門分野に関する知識・理解度、授業外学修(予習・復習・課題)時間、大学生活についての相談状況など	【目標値】- 【実施予定】・教学IR体制の運用 ・学修成果・教育成果の可視化ツールの開発・試行と運用 ・在学生の各種アンケート調査の実施 ・卒業生のアンケート調査の実施 ・教学IRデータの精選 ・教学IRデータの分析に基づく教育課程と入学者選抜の点検 ・令和7年度入試に向けたAPの見直し ・教学IRデータの公表方法の検討	教育課	①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している <コメント> ○評価指標(2)-1-Aに関する令和4年度の実施予定項目8点については、「学修成果・教育成果の可視化ツールの開発・試行」と「卒業生のアンケート調査方法の見直し」において、部局間で取組状況に差が見られるが、概ね順調に進捗しているように思える。特に教学IR体制の構築には大きな前進があったと言える。○2つの評価指標とも目標値が明確に達成されている。次年度の目標値については、今年度の値が十分に高いだけに、現状維持との判断は妥当であるとする。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) <コメント>
						(2)-1-B 就職率:高い水準(概ね96%前後)を維持(第4期の平均)	就職率 (定義) ・全学部・研究科における就職率の平均 キャリア支援課	就職率 基準値:概ね96%前後 対象期間:H28~R2の平均(実績値:97.8%)	就職率 目標値:基準値を維持 対象期間:R4~R9の平均	【実績値】(5/1現在)就職希望者に対する就職率は99.3%となり、目標値の就職率概ね96%前後より高い数値となった。 【実施状況・成果】 ランキングに用いられる実就職率(卒業生数-大学進学者数に対する就職者数)についても、98.4%と17年間で最高の数値となった。 ・R1(2019)年度~R3(2021)年度卒・修了生就職先に対しアンケートを実施し、分析を行った。「本学学生の採用に満足しているか」については、前回の調査よりも2pt高い、99%の企業が満足していると回答した。離職率についての調査では、本学卒業生の3年以内の離職率は10.4%と、全国平均31.5%を下回っている。更に1年以内の離職率では、全国平均11.8%のところ、本学卒業生は0.8%と1/10以下の状況となっている。企業の満足度の高さ、本学学生の離職率の低さから社会ニーズにマッチングした人材が輩出されていると言える。 語学力については、採用時に語学力を重視しているか否かでは、重視している企業が11%、重視していない企業が89%ではあったが、TOEICの項目については、必須ではないが、文理共に600点以上を取得目標としている。「採用時、語学力は重視していないが、採用試験で、資格加点制度(語学)がある」とした意見もあるなか、本学学生の語学力に対する採点が他の項目よりも低かったことから、語学教育が重要であることがわかる。 ・学生からの情報・意見収集として、新キャリアサポートシステムを積極的に活用。学生が入力した活動報告書によりダイレクトに他の学生への情報提供とすることができ、就職活動の一助とすることができた。 ・2022年12月発行の企業向け大学紹介にディプロマポリシーを記載し、本学が輩出する人材の能力を周知した。 ・AI模擬面接を正式に導入し、就職ガイダンスやメール等にて利用の周知を行った。利用学生数は49人となり、進路相談に利用された事例もあった。	【目標値】就職率概ね96%前後 【実施予定】・アンケートや意見聴取の結果を分析し、次年度以降の就職活動支援に活用する。 ・AI模擬面接利用者を増加させる。	キャリア支援課

<p>中期計画(2)-1</p>				<p>中期計画の達成状況 教務課</p>	<p>【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>【進捗状況】達成度 -Ⅲ 【達成状況・成果】 ●優れた実績・成果 1)令和4年度における就職希望者に対する就職率は99.3%となり、目標値の就職率概ね96%前後より高い数値を達成した。ランキングに用いられる実就職率(卒業生数-大学進学者数に対する就職者数)についても、98.4%と17年間で最高の数値となった。(3/24現在の暫定状況) 2)新たな取り組みとして、一般社団法人大学IRコンソーシアムへ加入し、加盟する連携大学が共通で実施する「学生調査(本学名:在学生調査)」を実施した。各学部の協力を得て、高い回収率(1年平均88.3%、3年平均74.2%)を達成した。今後は、連携大学間での相互評価も含めた分析結果を教育の質の向上に活用していく。 ●評価指標にない中期計画記載の取組の状況 1)排出した人材が社会で求められる能力を身に付けているかを調査するため、R1(2019年度)～R3(2021)年度卒・修了生就職先に対しアンケートを実施し、分析を行った。結果、「本学学生の採用に満足しているか」については、前回の調査よりも2pt高い、99%の企業が満足していると回答した。離職率についての調査では、本学卒業生の3年以内の離職率は10.4%と、全国平均31.5%を下回っている。更に1年以内の離職率では、全国平均11.8%のところ、本学卒業生は0.8%と1/10以下の状況となっている。企業の満足度の高さ、本学学生の離職率の低さから社会ニーズにマッチングした人材が輩出されていると言える。 2)教学IRの整備として、高等教育推進センターに教学IR部門を設置し、全学的な体制を整備した。この体制の下、ステークホルダーに対する意見聴取として、「学生生活実態調査」、「福井大学の教育と卒業生についてのアンケート調査」を継続的に実施した。 3)学習成果の可視化として、先行する医学部のツールを参考に、工学部の可視化ツールの構築を完了し、学生の履修指導に活用する体制を整備した。</p>	<p>【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>		<p>④達成度 Ⅳ:計画を上回って実施している <コメント> ○評価指標となっていない中期計画記載の取組として、「学修成果・教育成果をより精確に把握する仕組みを構築すること」が挙げられるように思えるが、これについては、達成状況欄に「評価指標にない中期計画記載の取組の状況」として記載されている3点のうち2)と3)が特に該当するのではないかと考えらる。 ○就職率が目標値を上回っている。 ●実施予定にある「卒業生のアンケート調査方法の見直し」について、R4年度に見直しを行っていない部局はR5年度の実施に先立ち見直しを検討していただきたい。なお、令和4年度において見直しを実施した結果変更しなかった部局については、その旨わかるように追記修正ください。 ●R5年度に卒業生へのアンケート調査を行う際に、共通指標で求められていることも踏まえよう。部局に要請する。R5年度の計画を、その点も考慮して修正してはどうか。 ○教育成果の可視化についても取組を進める。</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無 1. 優れた実績・成果が認められる取組等がある <コメント> ○全国的にも極めて高い実就職率を記録してきた中で、過去17年間で最も高い就職率を達成している。加えて、その就職先において、全国平均から大幅に下回る離職率であり、これらの高い就職率・低離職率が構築されていることが挙げられる。また、これら学生の出口の成果に繋げるための「各学部の養成人材像を踏まえた調査・分析」についても滞りなく目標値に向かって取り組まれている。 ○目標値に向かうアプローチを発展させている。そのアプローチは、就職率の向上、離職率の低下という成果にとどまらず、就職先及びステークホルダーとのネットワークの構築ならびに本学のキャリアサポートに関する多角的かつ長期的評価を実現するものである。 ○工学部の可視化ツールの構築に教育学部や国際地域科学部への波及効果が見込めるのであれば、「優れた実績・成果」に繋がり得るだろう。 ○中期計画では「その結果を踏まえ、3ポリシーの見直しを含む教育課程や入学者選抜の改善を行う」としており、当該中期計画の最終的な着地点はこれではないでしょうか。今後の関係する取組を期待したい。</p>
<p>中期計画(2)-2</p>	<p>(2)-2-A 入試課</p>	<p>高等学校における探究活動の支援回数 入試課</p>	<p>基準値:- 対象期間:-</p>	<p>目標値:46回以上</p>	<p>【目標値】支援回数30回 【実施予定】課題設定に対する助言 ・探究活動の質問に対する助言 ・中間発表会・最終成果発表会での助言及び講評 ・探究活動の成果をまとめるための論文の書き方の助言 ・高校教員と大学教員による高大連携探究教育研究会を設立し、併せて、支援する高校数を増加させる。</p>	<p>【実績値】支援回数 95回 【実施状況・成果】 ・高等学校における探究活動の支援活動について、令和4年度はのべ95回(20校、うち県内は18校)実施した。令和5年度入学者選抜における県内入学者の占める割合が増加した。特に工学部の総合型選抜についてはこの傾向が顕著に見られている。全体 33.2%→43.5%、総合型選抜(工学部)56.6%→66.7% ・化学を専門とする高校教員と大学教員による高大連携化学教育研究会を設立し、高校と大学の連携体制を構築した。取り組みとして、高大双方による意見交換会や大学教員が高校の授業を参観した。今年度については既存の高校への支援回数は増加したが、新たに支援する高校数は増加できなかった。今後も引き続き、新たに支援する高校について検討することとした。 【自己点検・評価】 ① ② ③</p>	<p>【目標値】支援回数40回 【実施予定】課題設定に対する助言 ・探究活動の質問に対する助言 ・中間発表会・最終成果発表会での助言及び講評 ・探究活動の成果をまとめるための論文の書き方の助言 ・以上の成果や実施状況を検証し、改善を図る。 ・高校教員と大学教員による高大連携探究教育研究会を開催し、併せて、支援する高校数を増加させる。</p>	<p>入試課</p>	<p>①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している <コメント> ○(2)-2-Aについては、令和4年度の実績値が対象期間の目標値の倍以上の数値を記録しているが、目標値の設定は適切だったのだろうか。 ●令和4年度に実施予定とされている「高大連携探究教育研究会」の設立は実現したのだろうか。令和5年度の実施予定では、同会に関する「設立」という言葉が「開催」という言葉に置き換えられているため、令和4年度中に設立が叶ったものと思われるが、だとすれば、実施状況欄にその旨を記入しておくべきだろう。 ●研究会の設立が当初の計画通り進んでいない場合は、R5年度以降の評価を見直す。 ●(2)-2-Aについて、実績値が目標値を大幅に上回っていますが、最終的に高い評価をえるため、次年度以降の目標値を上方修正してはどうか。</p>	<p>②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント> ③前年度末達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) <コメント></p>
<p>中期計画(2)-2</p>	<p>(2)-2-B 入試課</p>	<p>学内における探究プロジェクトの開催回数 入試課</p>	<p>基準値:- (参考) 第3期実績値:11.8回 対象期間:-</p>	<p>目標値:16回以上</p>	<p>【目標値】実践回数12回 【実施予定】探究プロジェクトの実施にあたり、アドミッションセンター運営委員会等で各学部で担当するプロジェクトの内容を確認し、センターと各学部の連携体制の充実を図る。 ・探究プロジェクトに参加した生徒の本学受験状況や高校時代に探究プロジェクトに参加した学生の学業成績等の追跡調査を行い、各学部に報告する。 ・探究プロジェクトに参加した生徒の受験状況等を追跡調査した結果、看護学科の探究プロジェクトに参加した生徒のうち6割が志願した。この成果を全国大学入学者選抜研究連絡会大会(第17回)で研究発表を行った。そして、論文にまとめ、査読付き原著論文として採用され、大学入試研究ジャーナルで公表を行った。当該取りまとめた調査結果はアドミッションセンター運営委員会(開催時期未定)にて各学部選出の委員に対し報告予定である。さらに、医学部看護学科については令和5年6月開催予定の医学部教育委員会にて報告予定である。また、今後、入学した学生の成績についても追跡調査する予定である。 【自己点検・評価】 ① ② ③</p>	<p>【実績値】実践回数 14回 【実施状況・成果】 ・探究プロジェクトの実施にあたり、アドミッションセンター運営委員会等で各学部で担当するプロジェクトの内容を確認し、センターと各学部の連携体制の充実を図る。 ・探究プロジェクトに参加した生徒の本学受験状況や高校時代に探究プロジェクトに参加した学生の学業成績等の追跡調査を行い、各学部に報告する。 ・高校時代の多様な学習成果を多面的・総合的に評価する入学者選抜を提案する。 ・以上の成果や実施状況を検証し、取り組みの改善に資する。</p>	<p>【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>		<p>④達成度 Ⅲ:計画に十分に実施している <コメント></p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○高等学校における探究活動の支援活動について、R9年度(単年度)での支援回数46回の目標値に対して、R4年度の時点で支援回数95回の実績となった。R5年度の実施予定として支援高校数の増加も予定されていることから、目標値の見直しを検討してもよい印象を受けた。大学における探究プロジェクトの開催についても、最終年度の目標16回以上に対して、既にR4年度で14回の開催にまで至っており、良好な進捗状況である。今後、実施回数等の目標達成への取り組みと併せて実施内容の精査などにも取り組むことで充実が期待される。 ○優れた実績・成果であり、本取組をFD・SD等を通じ学内で共有することで教育課程の改善に繋がる印象を受けた。また、目標値の見直しを検討してもよいと感じた。 ○県内の他大学とも連携した「福井ブレカレッジ」や「高大連携探究教育研究会」を看板にすれば、優れた実績・成果としてアピールしやすいのではないか。 ○中期計画では「多様な背景を有する学生の一層の獲得を目指」としており、その一つが県内者の入学増だと思います。このあたり、今後もフォロー願います。 ○高大連携については「優れた実績・成果」を狙いよりも、確実に志願者増につながる取組を優先すべき。例えば、教員の負担につながる探究活動の支援回数目標引き上げは慎重に。支援回数を増やすよりも、志願者の獲得にあまり効果のない高校があるのならそうした高校への支援を減らし、その分をより効果のある高校への支援に振り向けるなど、コストも考慮した支援のあり方を考えることが重要だろう。</p>

	<p>中期計画(2)-3</p> <p>社会に求められる人材の多数輩出を目指し、就職先等から高く評価されている就職支援体制を基盤として、キャリア教育を一層充実するとともに、就職支援を一層推進し、高い就職率を維持する。</p> <p>キャリア支援課</p>	<p>2)-3-A</p> <p>就職率：高い水準（概ね96%前後）を維持（第4期の平均）（再掲）</p> <p>キャリア支援課</p>	<p>就職率</p> <p>（定義）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学部・研究科における就職率の平均 	<p>基準値：概ね96%前後</p> <p>対象期間：H28～R2の平均（実績値：97.8%）</p>	<p>目標値：基準値を維持</p> <p>対象期間：R4～R9の平均</p>	<p>【目標値】就職率概ね96%前後</p> <p>【実施予定】・共通教育科目「キャリアデザインC」の新規開講（主に内定者向け）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各講義、講座の受講生対象に受講前、受講後のアンケートを実施し、次年度以降の講義の充実を図る 	<p>【実績値】（5/1現在）就職希望者に対する就職率は99.3%となり、目標値の就職率概ね96%前後より高い数値となった。</p> <p>【実施状況・成果】</p> <p>ランキングに用いられる実就職率（卒業生数-大学進学者数に対する就職者数）についても、98.4%と17年間で最高の数値となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通教育科目「キャリアデザインC」とリカレント教育講座「人生100年時代のスタートアップ講座—キャリアデザイン実習」を新規に共同開講し、学生と社会人が一緒に学びあう新しい取り組みとなった（受講者数：学生7名、社会人8名）。 事後アンケートにより、満足、ほぼ満足との回答が100%となった。 ・共通教育科目「キャリアデザインA」「インターンシップD」において、受講前後でアンケートを実施。「キャリアデザインA」では90%の学生が満足、ほぼ満足と回答、「インターンシップD」で92%の学生が満足、ほぼ満足と回答。 「キャリアデザインA」で評価の高かった、福井大学同窓経営者の会員とのワークショップについては来年度も実施予定。 <p>【自己点検・評価】</p> <p>①1 ② ③</p>	<p>【目標値】就職率概ね96%前後</p> <p>【実施予定】・入試課と連携し、高等学校における開放講義として「キャリアデザイン」講義を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各講義、講座の受講生対象に受講前、受講後のアンケートを実施し、次年度以降の講義の充実を図る 	<p>キャリア支援課</p>	<p>①評価指標の達成状況</p> <p>1. 全ての評価指標が目標値を達成している</p> <p><コメント></p>	<p>②改善方策等の策定状況</p> <p>4. 該当なし（達成済み）</p> <p><コメント></p>	<p>③前年度未達成の改善状況</p> <p>1. 評価指標が改善（達成）されている</p> <p>2. 一部の評価指標が改善（達成）されていない</p> <p>3. 評価指標が改善（達成）されていない</p> <p>4. 該当なし（達成済み）</p> <p><コメント></p>
	<p>中期計画(2)-3</p>				<p>中期計画の達成状況</p> <p>キャリア支援課</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和4年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>【進捗状況】達成度 III</p> <p>【達成状況・成果】</p> <p>就職希望者に対する就職率は99.3%となり、目標値の就職率概ね96%前後より高い数値となった。</p> <p>ランキングに用いられる実就職率（卒業生数-大学進学者数に対する就職者数）についても、98.4%と17年間で最高の数値となった。</p> <p>共通教育科目「キャリアデザインC」とリカレント教育講座「人生100年時代のスタートアップ講座—キャリアデザイン実習」を新規に共同開講し、学生と社会人が一緒に学びあう新しい取り組みとなった。</p> <p>また、卒業・修了予定年度の学生に対し、早期から進路状況調査を実施。逐次状況を教員と共有しながら、学生1人ひとりに対する就職支援を継続的に実施することによって、98.4%と高い実就職率となった。</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>		<p>④達成度</p> <p>III：計画を十分に実施している</p> <p><コメント></p> <p>○「キャリア教育を一層充実すること」が評価指標となっていない中期計画記載の取組に該当するならば、特記されていないものの、共通教育科目「キャリアデザインC」教育講座の適切な開講を通じて、充分に実施されているように思える。</p> <p>○様々なキャリア教育に係る科目が開講されており、評価も高い。</p> <p>○指標の達成のみ考えれば必要ないことであるが、もっと多くの学生に「キャリア教育を受けている」と認識させる工夫が必要のように思える（令和4年度全国学生調査の結果では、「キャリアに関する科目、キャリアカウンセリング」を「経験していない」と回答した学生が4割程度いる。キャリア教育はキャリアデザイン科目だけではない）。</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無</p> <p>2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある</p> <p><コメント></p> <p>○実施している取り組みが、どのように評価指標の達成に寄与しているかの検証を踏まえられると、より一層効果的な取組になるとの印象を受けた。○今後、高い実就職率に内在する多様な学生への就職支援（例えば留学生への就職支援など）の検証があると、取組の成果がより明確になると感じた。</p> <p>○キャリアデザイン教育の対象を大学生から社会人に、さらには高専生へと拡大してゆく取組は意義深いものであり、優れた実績・成果に繋がることと期待される。</p>	
<p>中期目標(3)</p> <p>特定の専攻分野を通じて課題を設定して探究するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。（学士課程）</p>	<p>中期計画(3)-1</p> <p>卓越高度専門職業人の育成を目指し、各学部の特色に応じた数理・データサイエンス・AI分野の教育を推進し、内閣府・文部科学省・経済産業省の3府省が連携し奨励している数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の認定を取得する。また、認定取得した教育プログラムを普及させる。</p> <p>教務課</p>	<p>3)-1-A</p> <p>令和5年度までに数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の認定取得</p> <p>教務課</p>	<p>基準値：-</p> <p>対象期間：-</p>	<p>目標値：認定取得</p> <p>対象期間：R4～R5の間</p>	<p>【目標値】</p> <p>【実施予定】・数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の申請書類を作成し、提出期限（R4.5.20）までに文科省へ提出する。</p> <p>認定結果の公表はR4年8月の予定。</p>	<p>【実績値】認定取得</p> <p>【実施状況・成果】</p> <p>本学のデータサイエンス実践基礎力育成プログラムについて、令和4年8月24日付けで数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の認定を取得した。（認定の有効期限は令和5年3月31日まで）</p> <p>【自己点検・評価】</p> <p>①1 ② ③</p>	<p>【目標値】</p> <p>【実施予定】-</p>	<p>教務課</p>	<p>①評価指標の達成状況</p> <p>1. 全ての評価指標が目標値を達成している</p> <p><コメント></p>	<p>②改善方策等の策定状況</p> <p>4. 該当なし（達成済み）</p> <p><コメント></p>	<p>③前年度未達成の改善状況</p> <p>1. 評価指標が改善（達成）されている</p> <p>2. 一部の評価指標が改善（達成）されていない</p> <p>3. 評価指標が改善（達成）されていない</p> <p>4. 該当なし（達成済み）</p> <p><コメント></p>	
		<p>3)-1-B</p> <p>認定取得した教育プログラム履修者数</p> <p>教務課</p>	<p>基準値：-</p> <p>対象期間：-</p>	<p>目標値：200名以上</p> <p>対象期間：R9（単年度）</p>	<p>【目標値】履修者数300名</p> <p>【実施予定】・履修者数の向上を早期に実現するため、教育プログラム対象科目「数理・データサイエンス入門」を前期・後期開講とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学部では全学に先駆けて「数理・データサイエンス入門」を1年次必修科目として開講する。 ・文京キャンパスでは抽選科目となる「数理・データサイエンス入門」を補完する役割も兼ねて、国際地域学部専門教育科目（教養専門教育科目として共通教育科目としても開講）「統計入門」を教育プログラム対象科目として後期に開講する。 	<p>【実績値】331</p> <p>【実施状況・成果】</p> <p>教育プログラムを学生に周知し、対象科目を計画通り開講した結果、履修者数331名となり目標値を達成した。</p> <p>【自己点検・評価】</p> <p>①1 ② ③</p> <p>・R7年度全学必修に向けた検討・準備を行う。</p>	<p>【目標値】履修者数340名（対象科目の受入定員）</p> <p>【実施予定】・履修者数の早期向上のためのR4年度の取組を継続する。</p>	<p>教務課</p>				
	<p>中期計画(3)-1</p>				<p>中期計画の達成状況</p> <p>教務課</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和4年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>【進捗状況】達成度 IV</p> <p>【達成状況・成果】</p> <p>数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の認定を計画通り令和4年度に取得し、教育プログラム対象科目を前期・後期開講にする等受講しやすい環境を整えた結果、教育プログラム履修者数が331名と目標を大幅に上回り達成した。</p> <p>【特記事項】</p> <p>リテラシーレベルの上位プログラムとなる応用基礎レベル教育プログラムの準備も並行して進めており、工学部の応用基礎レベル教育プログラムの運用を令和4年度に開始し、令和5年度の申請を目指して準備中である。</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>		<p>④達成度</p> <p>III：計画を十分に実施している</p> <p><コメント></p> <p>○「各学部の特色に応じた数理・データサイエンス・AI分野の教育を推進」することが評価指標となっていない中期計画記載の取組に該当するならば、達成状況欄に特記事項として記述されている取組に加えて、各学部でそれぞれが実質的に開講されるなど、順調に進捗しているように思える。</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無</p> <p>2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある</p> <p><コメント></p> <p>○既に数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の認定を取得し、なおかつ該当教育プログラムを学生に周知して、対象科目の履修者数が目標を大幅に上回る331名となり、良好な進捗状況といえる。加えて、リテラシーレベルの上位プログラムの準備も並行して進め、工学部では令和5年度の申請を予定しており、優れた実績・成果が認められる。</p> <p>○目標を大幅に上回る成果が認められ、上位プログラムの準備など今後も着実に成果が見込まれるもの、新たな課題（ChatGPTなど）を踏まえたプログラムの点検や見直しが必要であると感じた。</p> <p>○全国の国立大学が横並びで取り組んでいる課題だけに、他大学との差別化を図れるほどの優れた実績・成果を上げるのは並大抵のことではないだろうが、データサイエンス教育を、その対象を学生から社会人に拡大することでリカレント教育としての性格を付与することができれば、誇れる特色のある取組になるかもしれない。</p> <p>○最終的な成果は、学生にこのような能力がどの程度涵養できたか、であり、その点の成果のフォローをお願いします。</p> <p>○認定制度に係る取組だけで「優れた実績・成果」をあげるのには難しいと思う。だからといって教員の負担を増やすような無理をする必要はないと思う。情報系の基本的な資格を取得するための外部講座を開くなどして、学生の資格取得が進めば、学習成果があがったとして優れた実績・成果として示せるかもしれない。</p>	

<p>中期計画(3)-2</p> <p>自ら考え、主体的に行動し、責任をもって社会変革を実現できると同時に、職種の違いを越えて包括的に課題に対処できる資質・能力を持った卓越高度専門職業人を養成するため、主体的課題探求・解決型の手法を用いた多様な学修形態を導入・発展させるとともに、多職種連携教育を含む学部等連係教育を推進する。</p> <p>経営戦略課</p>	<p>3)-2-A</p> <p>令和9年度までに課題解決型、若しくは価値創造型PBLを構築する多職種連携教育</p> <p>経営戦略課</p>	<p>課題解決型、若しくは価値創造型PBLを構築する多職種連携教育</p>	<p>基準値:- (参考) 第3期は医学部のみ実施</p> <p>対象期間:-</p>	<p>目標値:全ての学部(4学部)で構築・実施</p> <p>対象期間:R4～R9の間中</p>	<p>【目標値】医学部医学科・看護学科で実施</p> <p>【実施予定】設置する創生人材センターにおいて、嶺南地域共創センターとの共同により、令和7年度末までに全ての学部(4学部)で課題解決型、若しくは価値創造型PBLを実施する多職種連携教育を構築・実施するロードマップを策定する。</p> <p>※ 令和5年度以降の取組内容は、ロードマップ作成後に記載予定。</p>	<p>【実績値】医学部医学科・看護学科で実施</p> <p>【実施状況・成果】令和5年3月3日開催の第3回地域創生推進本部附属創生人材センター運営委員会において、現行の工学部で実施している「経営・技術革新工学副専攻」をベースとして、同様のコースを他学部にも整備し、ふくい地域創生士に接続させる形で「多職種連携教育の概念を含む学部間連携コース」を構築するロードマップについて審議し、了承を得た。</p> <p>また、嶺南地域共創センター運営委員会から社会共創教育の実施委員会へ、現在本学の4学部が連携して取り組んでいる高浜町でのプロジェクト「健康のまちづくり」におけるプログラム「健康のまちづくりアカデミーin福井県高浜町」に関し、このプログラムに参加する4学部学生については、授業科目として単位認定できるよう、科目化の検討を提案した。</p> <p>【自己点検・評価】 ① ② ③</p>	<p>【目標値】医学部医学科・看護学科で実施</p> <p>【実施予定】創生人材センター・嶺南地域共創センター運営委員会から社会共創教育実施委員会へ多職種連携科目の開講を提案し、各学部の教育カリキュラムに多職種連携科目を組み込んでいく。</p> <p>【目標値】</p> <p>【実施予定】多職種連携教育により育成される各学部学生の育成される人材像を描く。</p> <p>・学部の垣根を超えた専門科目の共通開講について検討する。</p>	<p>経営戦略課</p> <p>地域連携推進課</p>	<p>①評価指標の達成状況</p> <p>2. 一部の評価指標が目標値を達成していない</p> <p><コメント> ○3)-2-Aの令和4年度の実施状況・成果として挙げられている2点のうち前者については、地域創生推進本部附属創生人材センター運営委員会が構想の域に留まっており、全学的なコンセンサスが得られていないだけに、実績としては弱いように思える。</p> <p>また同年度の目標値として謳われている医学部医学科・看護学科での実施状況に関しては、当該科目数の実績値がわずかながら目標値を下回っている。</p> <p>○3)-2-Bについては、6科目の予定のところ5科目しか開講されておらず、指標とも未達成になっている。</p>	<p>②改善方策等の策定状況</p> <p>3. 改善方策等が策定されていない</p> <p><コメント> ○ロードマップが出来上がり、4学部の賛同を得ることができれば、それに従って評価指標の達成に向けた取組が加速するものと期待される。</p> <p>多職種連携教育を全ての学部(4学部)で構築・実施することが謳われているが、医学部と看護学科をはじめとして多職種連携を進めるのが比較的容易な組み合わせであれば、国際地域学部のように、こうした考え方になじみにくい学部もあるため、「全ての学部」という点にこだわらずに、目覚ましい(むかゆやすい)成果が期待できる組み合わせに取組を特化した方がよいように思える。</p> <p>●3)-2-Bについては、改善方策が示されていないため追記願います。</p> <p>○他学部を広げる際には、ここいう「多職種連携教育」とは「学際教育」ということを理解して頂く(カリキュラムが高くないことを理解して頂く)ことが大切。</p>	<p>③前年度未達成の改善状況</p> <p>1. 評価指標が改善(達成)されている</p> <p>2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない</p> <p>3. 評価指標が改善(達成)されていない</p> <p>4. 該当なし(達成済み)</p> <p><コメント></p>
<p>中期計画(3)-2</p> <p>経営戦略課</p>	<p>3)-2-B</p> <p>多職種連携教育科目数:第3期(6科目)より増加(第4期の合計)</p> <p>経営戦略課</p>	<p>多職種連携教育科目数</p>	<p>基準値:6科目</p> <p>対象期間:H28～R3の合計</p>	<p>目標値:基準値以上</p> <p>対象期間:R4～R9の合計</p>	<p>【目標値】多職種連携教育科目(専門教育科目の中で、取得する学位の異なる教育課程の学生との合同での実習・演習を伴う科目):6科目</p> <p>【実施予定】3)-2-Aに記載のとおり、ロードマップを策定する。</p> <p>※ 令和5年度以降の取組内容は、ロードマップ作成後に記載予定。</p>	<p>【実績値】5科目</p> <p>【実施状況・成果】専門教育科目の中で、取得する学位の異なる教育課程の学生との合同での実習・演習を伴う科目として、令和4年度以下に授業を実施した。</p> <p>【医学部医学科】 ・地域医療学(看護学科との合同) ・診療参加型臨床実習1(看護学科、福井医療大学保健医療学部リハビリテーション学科との合同) ・地域医療早期体験プログラム(仁愛大学人間生活学部健康栄養学科との合同)</p> <p>【医学部看護学科】 ・公衆衛生看護学概論(医学科との合同) ・地域ケア実習(医学科との合同)</p> <p>【自己点検・評価】 ① ② ③</p>	<p>【目標値】多職種連携教育科目(専門教育科目の中で、取得する学位の異なる教育課程の学生との合同での実習・演習を伴う科目):6科目</p> <p>【実施予定】福井県嶺南地域における課題解決事業・プロジェクトに対する支援に係る優先基準を設け、多職種連携教育科目に繋がるプロジェクトを支援していく。</p> <p>プロジェクトの支援にあたっては、他部局との連携、学生に参加させ専門科目の一環として単位認定に繋がるプロジェクトを優先していく。</p>	<p>経営戦略課</p>	<p>④達成度</p> <p>II. 計画を十分には実施していない</p> <p><コメント> ○3)-2-Bが目標値を達成していない。</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無</p> <p>2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある</p> <p><コメント> ○「多職種連携教育の概念を含む学部間連携コース」を構築するためのロードマップが関連委員会承認され、着実な進捗が認められる。高浜町でのプロジェクトに係るプログラムも提案されており、実績・成果につながるものが期待される。専門教育科目の中で、取得する学位の異なる教育課程の学生との合同での実習・演習を伴う科目として医学部では既に複数の科目が実施され、今後は他学部での着実な実施が期待される。</p> <p>○目標を着実に達成している。今後、医学部の取組をもとに、各学部で特徴ある取り組みが展開されることを期待したい。本取組が地域の課題解決につながっている点も評価できる。</p> <p>○嶺南のプロジェクトは優れた実績・成果に繋がるものだと思う。嶺南は、古くは日本の玄関口であっただけに、県境にとらわれずに近隣や京都の団体とも連携することで、単なる地域振興にとどまらずに「ポス」としての嶺南を対象とするスケールの大きな取組に発展させることができるのではないか。新幹線の教員延伸もプラス材料になるだろう。</p> <p>○当該計画は今回の目玉でもあり、中期計画にある「主体的課題探求・解決型の手法を用いた多様な学修形態を導入・発展」の進めていたことだ。</p>	
<p>中期計画(3)-2</p> <p>経営戦略課</p>	<p>経営戦略課</p>	<p>中期計画の達成状況</p>	<p>中期計画の達成状況</p> <p>経営戦略課</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和4年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>【進捗状況】達成度 III</p> <p>【達成状況・成果】職種の違いを越えて包括的に課題に対処できる資質・能力を持った卓越高度専門職業人を養成するため、取得する学位の異なる教育課程の学生との合同での実習・演習を伴う科目として、令和4年度に医学部医学科にて新規の科目を開講するとともに、社会共創教育実施委員会にて学部を超えた多職種連携教育の実施について検討を進めている。</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>					

緑色の塗りつぶし部分は、取組関係部局の実績が記入された欄となっており、各評価指標の実施状況をとりまとめるために使用する欄になります。自己点検・評価の実施にあたっては、評価指標の実施状況欄(白抜き部分)のみをご確認いただき、必要に応じて関係部局の実績もご参照ください。

<p>中期目標(4) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。 (博士前期課程)</p>	<p>中期計画(4)-1 将来の産業構造の変革に対応できる人材へのニーズを踏まえ令和2年4月に改組した工学研究科博士前期課程において、スペシャリストとジェネラリストの能力・資質を兼ね備えた高度専門技術者の輩出を一層進めることを目指し、数学マネジメントのもと、ステークホルダーの参画も得て人材育成状況を検証し、分野横断型カリキュラムの質を向上させる。</p> <p>工学系運営管理課</p>	<p>4)-1-A 工学研究科博士前期課程の教育プログラムについて毎年度モニタリングを行うとともに令和9年度までにレビューを実施</p> <p>工学系運営管理課</p>	<p>工学研究科博士前期課程の教育プログラム</p>	<p>基準値:- 対象期間:-</p>	<p>目標値: ①モニタリング ②レビューの実施</p> <p>対象期間: ①R4～R9の毎年度 ②R4～R9の期間中</p>	<p>【目標値】- 【実施予定】(1)モニタリングに係る責任体制の整備 (2)モニタリング項目の設定[注1] (3)モニタリングの実施 (4)抽出された課題への対応[注2] (5)次年度に向けたモニタリングの実施体制や点検項目の確認</p> <p>注1:モニタリング項目の中には、カリキュラムについて、実施状況および学生の満足度をチェックする項目を設けること、およびそれらの項目に係る調査(カリキュラム調査)を行うことを想定。</p> <p>注2:特に、必修以外の工学研究科共通科目をより多くの学生が履修することに資するもの。R5年度教育課程表の改正に繋がることはできない。</p>	<p>【実績値】 令和4年度にモニタリングを実施した。 【実施状況・成果】 (1)令和4年度の暫定的な実施体制を組んだ(教務学生連絡委員会において、モニタリングの各項目の検証を担当する委員会等を決定。結果の最終確認を工学部・工学研究科執行部が行う)。 (2)工学研究科独自のモニタリング項目として、志願倍率など複数の項目を設定した。しかし、「[注1]で想定した項目は設定せず(カリキュラム調査の性格を有する博士前期課程における達成報告書)の実施が確定していたため)。 (3)令和4年度にモニタリングを実施し、その結果を教育内部質保証委員会を通して全学で共有した。 (4)モニタリングの結果「改善を求められる」となった項目の多くについては、所掌する委員会が改善策を講じるなどの対応を行った(例えば、教育委員会で全科目のシラバスをチェックし、不備な点を各コースにフィードバック)。しかし、「[注2]で想定していた履修者数増加のための対応は実施せず(必修以外の工学研究科共通科目の履修者数が令和4年度前期終了時点で179名と、当面の目標である150名を大きく超え、「[注2]で想定していた対応が不要となったため)」。このほか、「修了後一定年限を経過した修了生に対する意見聴取により、学位授与方針に則した学習成果が得られているか確認」についても未対応である。 (5)工学部及び大学院工学研究科自己点検・評価委員会の構成を全面的に見直し、教育担当の副研究科長を委員長とし、教育委員会や教務学生委員会の長などを委員とする体制とした。この体制により令和5年度以降のモニタリングに取り組み。なお、2月の教務学生連絡委員会において、モニタリングの項目のあり方について意見交換を行った。</p> <p>※目標は達成したものの、今後検討すべき取組 -モニタリングの結果を踏まえた改善・向上 -博士前期課程におけるカリキュラム調査 -修了生に対する追跡調査の実施、および結果をデータベース化し教育改善につなげる組織的な取組 -モニタリングの充実 -R5年度に実施するモニタリングの点検項目の設定(工学研究科独自のもの)</p> <p>【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3</p>	<p>【目標値】- 【実施予定】(1)モニタリングの実施 (2)抽出された課題への対応、特に課程表の改正に伴うレベルのカリキュラムの改善(R6年度入学生適用)[注1][注2] (3)次年度に向けたモニタリングの実施体制や点検項目の確認</p> <p>注1:必修以外の工学研究科共通科目をより多くの学生が履修することに資する改善を期待。(共通科目に新しい科目を加えるなど) 注2:カリキュラム改善にあたっては、モニタリングの結果だけでなく、他のアンケート結果や、学生からの意見聴取も活用する。「工学教育をともに考える学生と教員の意見交換会」などの活用も考えられる。</p>	<p>工学系運営管理課</p>	<p>①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している <コメント></p>	<p>②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み)</p> <p><コメント></p>	<p>③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) <コメント></p>
		<p>4)-1-B 修了までに必修以外の工学研究科共通科目を履修した学生数(工学研究科博士前期課程(改組後)) 第3期(125名)より20%以上増加(第4期の平均)</p> <p>工学系運営管理課</p>	<p>修了までに必修以外の工学研究科共通科目を履修した学生数(工学研究科博士前期課程(改組後))</p> <p>※R2入学者がR2～R3で当該授業を履修登録した者の数</p> <p>対象期間:R2～R3の合計</p>	<p>基準値:125名</p> <p>※R2入学者がR2～R3で当該授業を履修登録した者の数</p> <p>対象期間:R2～R3の合計</p>	<p>目標値:基準値の20%以上(150名以上)</p> <p>対象期間:R4～R9の平均</p>	<p>【目標値】 設定なし(初年度は設定できない) 【実施予定】(1)4月:新入生に対し、オリエンテーション、POS-Cによる指導を通して、「必修でない工学研究科共通科目(以下、共通科目という)の履修を促す。 (2)10月:前後期合わせた共通科目の履修者が実人数で150名近くになるよう、後期の履修登録の機会を捉えて、履修指導を行う(本年度秋入学の学生も含め)。 [注1] 注1:1年目に来年度目標値に近い150名まで増やしていきたい。 ★6年間を通した考え方:春入学の非留年生に対する対応(履修者数の調査)をメインとし、秋入学、留年生への対応は、春入学の非留年生への対応を行うタイミングを捉えて可能な範囲で行う。 ★目標の性格に鑑み、本年度の目標値を「令和3年度入学生に対する目標」として設定する必要はないと考えている。</p>	<p>【実績値】 ※参考値: 令和4年度入学生について、必修以外の工学研究科共通科目の履修者数が、令和4年度後期終了時点で195名(うち、単位修得者は192名)。この結果、令和5年度の目標の達成が早くも確定。 【実施状況・成果】 (1)新入生に対し、オリエンテーション、POS-Cによる指導を通して、必修以外の工学研究科共通科目の履修を促した。 (2)必修以外の工学研究科共通科目の履修者数が、令和4年度前期終了時点で179名となって当面の目標である150名を大きく超えた。これにより、後期の履修登録の機会を捉えた指導については、必要がなくなり、実施しなかった。</p> <p>【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3</p>	<p>【目標値】 150名(令和4年度入学生に対する目標値) [注1] 【実施予定】(1)本年度新入生に対し、令和4年度の内容(1)。(2)と同様な取組を行う。 (2)令和4年度入学生(含、秋入学)の共通科目履修者数が、本年度末に155名を超えるよう、4月と10月の履修登録の機会を捉えて履修指導を行う。</p> <p>注1:留年生や秋入学の学生も含めて令和4年度入学生の実績が確定するのはまだ先になるため、令和5年度末に150名を超えていなくても、それが直ちに「令和4年度入学生に対する目標未達」を意味するわけではないが、令和5年度末に150名に達することを指すものとする。</p>	<p>工学系運営管理課</p>			
		<p>4)-1-C 工学研究科博士前期課程修了生の就職率:高い水準(概ね96%前後)を維持(第4期の平均)</p> <p>工学系運営管理課</p>	<p>工学研究科博士前期課程修了生の就職率</p>	<p>基準値:概ね96%前後</p> <p>対象期間:H28～R2の平均(実績値:99.2%)</p>	<p>目標値:基準値を維持</p> <p>対象期間:R4～R9の平均</p>	<p>【目標値】 就職率概ね96%前後 【実施予定】・専攻共通科目の「長期インターンシップ」「インターンシップ(企業派遣実習)」の在り方の検討</p>	<p>【実績値】 100% 【実施状況・成果】 ＜長期インターンシップ＞ 従来十数名の博士前期課程学生を企業等に派遣していたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、令和3年度・令和4年度共に0名と派遣数が激減した。令和4年度は、当初2名の博士前期課程学生が派遣を希望したが、派遣先との調整がうまくいかず、結局0名となった。 年度当初のオリエンテーションでの説明を見送り、説明資料の配布にとどめたことも希望者が少なかった要因と考えられる。 ※目標は達成したものの、今後検討すべき取組 学生に対する説明会の再開を検討しており、新型コロナウイルス感染状況が落ち着くに伴い、企業への派遣希望学生は今後、増える見込まれる。 学生に対する旅費、宿泊費等の予算が、新型コロナウイルス感染拡大以前に比べて少なくなっていることから、今後は県内企業や北陸地域への派遣を積極的に勧めることを予定している。 ＜インターンシップ(企業派遣実習)＞ 受講生2名、県内大手製造業(主力セラミックコンデンサ)1名、東京IT企業(主力ネット広告市場)1名。課題提出(5月上旬)「インターンシップの志望先・志望理由とインターンシップで何を学ぶのか」。5月に調整の上、派遣先企業決定、誓約書、企業との覚書。6/30オリエンテーション。8月～9月インターンシップ実施。事後提出書類:報告書、自己評価シート、業務日誌、アンケート。事後指導。成果:実際の業務を体験することにより、企業の強みや、自身の大学での学びで得た研究方法論との類似性を発見したこと。事後報告書において、自己目標とその達成度などが良く書けており、それに対する自己評価もできている。これらにより、学生のキャリア形成に貢献できたと考える。</p> <p>【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3</p>	<p>【目標値】 就職率概ね96%前後 【実施予定】「長期インターンシップ」「インターンシップ(企業派遣実習)」の内容を検証し、見直しを行う。</p>	<p>工学系運営管理課</p>			

	中期計画(4)-1			中期計画の達成状況 工学系運営管理課	【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】達成度 IV 【達成状況・成果】 ●優れた実績・成果 ・令和4年度博士前期課程修了生の就職率が、第4期の目標値(概ね96%前後)を大きく超える100%となり、社会の期待に応える高度専門技術者の輩出が進んだ。 ・必修以外の工学研究科共通科目の履修者数が、令和6年度までの目標値150名を大幅に超える195名(うち単位修得者192名)となり、ジェネラリストとスペシャリストの能力・資質を兼ね備えた学生の育成が進んだ。 ●評価指標にない中期計画記載の取組の状況 ・スタークホルダーの参画を得て行った人材育成状況の検証;工学研究科の大学院生から希望者を募ってProgテスト(ジェネリック・スキル測定テスト)を実施し、令和4年度博士前期課程入学生からは83名が受験した。結果の報告会を開催し、学生から「自分の強みが明確になった」「伸ばすべき力に気が付くことができた」など好評を得た。さらに、Progテストの結果に基づいてトランスファブリティを可視化するシステムをテストの実施事業者と共同で開発した。令和4年度は、博士前期課程の受験者のうち28名に対して試行し、令和5年度の完全実施に向けてシステムの改善点の洗い出しを進めた。なお、大学への導入が進んだProgテストではあるが、大学院生に対するトランスファブリティの測定に活用しているのは本研究科のみである。 ・分野横断型カリキュラムの質の向上:令和4年度の取組はなし。令和5年度には、工学研究科共通科目(必修以外)の一部科目の開講学年を見直してより多くの学生が履修できるようにすることが検討されている。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】		④達成度 III:計画を十分に実施している ＜コメント＞ ○達成状況欄に「評価指標にない中期計画記載の取組の状況」が詳細に記載されており、評価指標となっていない中期計画記載の取組への対応も周知に行われていることが窺える。 ○中期計画に「数学・マネジメント」も「スタークホルダー」の参画も得て人材育成状況を検証し、POS-Cによる指導を通して院生に必修以外の工学的な取組を計画しているのではなか。これについて、当初の計画では修了後一定の期間が経過した者に対する調査が令和7年度に予定されているが、共通指標からの要請も踏まえ、前倒しして実施することも考えられる。令和3年度に整備した内部質保証体制のもと、検討を進めてはどうか。 ○中期計画に譲っている「分野横断型カリキュラム」の質の向上の一環として、必修以外の工学研究科共通科目の充実、長期インターンシップの派遣先企業の開拓などを進めてはどうか。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある ＜コメント＞ ○いずれの目標値も達成されており、良好な進捗状況であった。今後、「修了後一定年限を経過した修了生に対する意見聴取により、学位授与方針に照した学習成果が得られているか確認」とされている取組結果に基づいて、適宜、実施内容を検討していくことで、より一層の実現化が期待される。 ○順調な進捗が確認できる。今後検討すべき取組みもコロナウイルス感染症拡大の変化を見据えたものであり、確実な成果が期待できる。 ○オリエンテーション、POS-Cによる指導を通して院生に必修以外の工学的な取組を計画しているのではなか。これについて、当初の計画では修了後一定の期間が経過した者に対する調査が令和7年度に予定されているが、共通指標からの要請も踏まえ、前倒しして実施することも考えられる。令和3年度に整備した内部質保証体制のもと、検討を進めてはどうか。		
	中期計画(4)-2	4)-2-A	他大学や機関と連携して行う原子力安全工学教育メニューの実施回数	基準値:38回 対象期間:H28～R3の合計	目標値:基準値以上 【目標値】8回	【実施状況・成果】 【実施予定】外部資金等による実習・セミナーを企画・実施するとともに他機関との連携講義や実習・セミナーに学生を参加させる。 具体的には次の様な教育メニューを予定 ・文科省イニシアティブ事業関連セミナー等 ・阪大との英語連携講義 ・JAEAとの連携講義・実習	【実績値】13件 【実施状況・成果】 ○文部科学省イニシアティブ事業 「つるが原子力セミナー」として、①廃止措置技術セミナー、②AIソフトウェア研修、③非破壊検査技術に関する実習、④レーザー除染メカニズムに関する実習、⑤原子力プラント体験実習研修、⑥原子力インターンシップ研修実習を実施。17名参加 ○原子力機構との連携講義・実習 ・原子力安全工学入門 16名 ・廃止措置工学・クリアランス測定実習 23名 ・核燃料サイクル実習 3名 ・原子力工学基礎(I);放射線・原子核に係る科目 22名 ・原子力工学基礎(II);原子力工学及び原子力科学に関する科目 12名 ・原子力の安全性と地域共生 20名 ○大阪大学との英語連携講義 講師 福元教授「原子力燃料・材料」(34名受講)、安田教授「Decommissioning of nuclear facilities and preparedness of nuclear emergency」(11名受講)、柳原客員教授「Decommissioning of nuclear facilities and preparedness of nuclear emergency」(11名受講)を担当、受講者計 56名(阪大学生)	【目標値】8回(累計16回) 【実施予定】外部資金等による実習・セミナーを企画・実施するとともに他機関との連携講義や実習・セミナーに学生を参加させる。 具体的には次の様な教育メニューを予定 ・文科省イニシアティブ事業関連セミナー等 ・阪大との英語連携講義 ・JAEAとの連携講義・実習	教養キャンパス運営管理課	①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ○(4)-2-Aでは、目標値が○0回であるのに対して、実績値は○0件となっており、(4)-2-Bでは、実施予定欄で使われている「原子力関連分野」という言葉が、実施状況欄では「原子力産業分野」という言葉に置き換えられている。他意はないものと思われるが、令和4年度と翌年度の実施予定欄が同じ記述になっている点も、少し気になる。 ●本中期目標は博士前期課程に係るものであるため、(4)-2-Bにおいて学部卒業生の人数を実績値に加えるのは適切ではなかったため修正された。また、大学院11名には、博士後期課程修了者は含まれていないか?含まれていなければ削除してください。学部生の大学院進学者数も指標とは直接関係が無いため、実績値から削除すべき。 ●(4)-2-Bの指標は原子力安全工学コースの修了生だけを対象としたものではないことに留意し(もちろん同コースの修了生がメインだが)、R4年度の実績値を、「博士前期課程の原子力安全工学コース修了生で原子力関連分野に就職した人の数」と「博士前期課程の他のコースの修了生で原子力関連分野に就職した人の数」の和として出してほしい(それぞれの人数もわかるように)。 ●(4)-2-Bについて、上記のコメントを参考にして、改めて問をカウントするのが明確化してください。	②改善方案等の策定状況 4. 該当なし(達成済み)	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている。一部の評価指標が改善(達成)されていない。 3. 評価指標が改善(達成)されていない。 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞
		4)-2-B	原子力関連分野への就職者数;高い水準(52人以上)を維持(第4期の合計)	基準値:52人 対象期間:H28～R2の合計	目標値:基準値を維持 【目標値】10人	【実施状況・成果】卒業、修了生の原子力産業分野への就職者 13名(大学院11名、学部2名) 学部生の大学院進学 17名 【実施状況・成果】 進学就職説明会(対面、ZOOM)2022.12.16 「原子力業界探求セミナー」@福井大学 2022.11.29 エネルギー業界探求セミナー(オンライン)2022.11.12 業界研究セミナー(就活セミナー)「エネルギー未来フォーラム(原子力産業セミナー)2024」2022.10.29 就職ガイダンスin教習 2022.10.25 教養キャンパス内就職コーナーの移転・充実 【自己点検・評価】 ① ②③ ③③	【目標値】10人(累計20人) 【実施予定】原子力業界セミナー等を実施し、多様な原子力関連分野への周知を図るとともにOBの活躍なども合わせてアピールすることで原子力関連分野への就職意欲を高める。	教養キャンパス運営管理課				
	中期計画(4)-2			中期計画の達成状況 教養キャンパス運営管理課	【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】達成度 III 【達成状況・成果】 ・本学で実施しているJNEN夏期実習において、原子力安全に関する新たな実習メニューを追加し、福井大学生を含む全国の学生に向けて教育を実施した。 ・大学院カリキュラムに実践的科目を追加し学外における研修等のモチベーションを高める枠組みを用意した。 【特記事項】 ・原子力事業者等と社会人のリカレント教育に関する議論を実施し主に電力事業者のニーズについて意見交換を行った。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】		④達成度 III:計画を十分に実施している ＜コメント＞ ○評価指標となっていない中期計画記載の取組という点では、「県内原子力施設における実践的トレーニングの機会を充実させ、本学ならではの原子力安全工学教育プログラム(福井モデル)を活用」する取組がや手薄であるような印象を受けた。素人考えかもしれないが、「福井モデル」というものがあるのであれば、それをもう少し前面に押し出してよいのではないだろうか。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある ＜コメント＞ ○いずれの評価指標においてもR4年度の実績値を上回っており、第4期の目標達成に向けた順調な進捗状況である。原子力関連分野への就業意識の高揚を図る取り組みも継続して予定されており、今後も順調な進捗が期待される。 ○持続可能な社会の実現に向けた最重要分野の一つであり、ゆえに現在取り組まれている国内外のメンバーとの継続的な意見交換と教育の発展がそのプロセスの共有も重要であると考え。JNEN夏期実習は原子力機構と7大学による大学連携ネットワークによって運営されているのだが、会場を提供している大学の利点を活かして、これとリンクさせる形で本学のプログラムの企画・実施すれば優れた実績・成果に繋がるかもしれない。 ○原子力安全工学教育プログラム(福井モデル)をぜひアピールいただきたい。その成果を見えるかできないでしょうか。例えば、就職先からの高評価など ○どう実施するか難しいかもしれないが、原子力関連分野に就職した修了生の活躍の状況をフォローしてはどうか(人材育成のエビデンスとなる)。		
中期目標(5)	中期計画(5)-1	5)-1-A	大学院教師教育・教員養成カリキュラムにおける長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目割合	基準値:- (参考) 第3期実績値:77% 対象期間:-	目標値:90%以上 【目標値】77%以上	【実施状況・成果】 教員養成フラッグシップ大学のフレームワークに基づき、共通科目において長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習として弾力的に運用可能な科目を抽出し、その学修内容及び手法のプロジェクト化への刷新を検証する。	【実績値】77 【実施状況・成果】 教員養成フラッグシップ大学のフレームワークに基づき、共通科目において長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習として弾力的に運用可能な科目として、共通科目20科目中13科目を抽出した。これらの科目は教員養成フラッグシップ大学のフレームワークに基づく新設科目「学校拠点・省察的実践コアサイクル I・II・III・IV・V」と連動させることで、長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習として刷新可能であると判断され、R5年度において、該当科目をカリキュラムの弾力化方針に基づき2単位から1単位に減じ、差分として生じた9単位をもって新設科目「学校拠点・省察的実践コアサイクル I・II・III・IV・V」の開講を実現する優れた実績・成果をあげるに至った。 【自己点検・評価】 ① ②③ ③③	【目標値】88%以上 【実施予定】過年度に共通科目から抽出された刷新可能な科目について、長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目として刷新・運用する。	人文社会系運営管理課(教育)	①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ○教員養成フラッグシップ大学のフレームワークに基づいて、計画にカリキュラムを整えられており、それに係る実施拠点(連携大学・自治体)の開拓も順調に進んでいるように思える。 ●指標(5)-1-CのR4年度実績値が3となるが、3拠点とは具体的にどこなのか記載いただきたい。	②改善方案等の策定状況 4. 該当なし(達成済み)	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている。一部の評価指標が改善(達成)されていない。 3. 評価指標が改善(達成)されていない。 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞

<p>員の実践力形成と改革の持続的展開を実現するとともに、その教師教育カリキュラムの実践モデルの実現を通して教師教育改革の展開をリードする役割を果たす。</p> <p>人文社会系運営管理課（教育）</p>	<p>【G-1-B】 長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目における大学院生の学習（能力）評価に参画する立場の異なるステークホルダー数：6名以上（当人を含む）（第4期の最終年度）</p> <p>人文社会系運営管理課（教育）</p>	<p>長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目における大学院生の学習（能力）評価に参画する立場の異なるステークホルダー数</p> <p>（定義） ・ステークホルダー：大学院生、大学院教員、所属学校教員、所属学校管理職、所属学校管轄教育委員会、所属学校地域有識者、外部有識者等</p>	<p>基準値：- 対象期間：-</p>	<p>目標値：6名以上（当人を含む） 対象期間：R9（単年度）</p>	<p>【目標値】3 【実施予定】長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目のうち、その集大成となる「長期実践研究報告の作成と発表」を主にマルチステークホルダーとして大学院生、大学院教員、所属学校管理職の3者で評価スケールを共有し、多元的評価を体系的に実施する。</p>	<p>【実績値】3 【実施状況・成果】長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の集大成となる授業科目「長期実践研究報告の作成と発表」の評価スケールとして、「長期的・組織的な実践プロジェクトの発展」と「実践プロジェクトの省察の重層性」の2側面からなる「学校拠点長期協働実践プロジェクトの評価スケール」を開発し、大学院生・大学院教員・院生所属学校管理職と共有した。その上で、同スケールによる自己評価・教員評価・管理職評価の多元的評価をR5年度に分析し、評価スケールの改善を図る。教育専門職の長期的で組織的なプロジェクト学習を2側面から測る本評価スケールの開発とそのステークホルダーとの共有及び協働試行の一連のイニシアティブは大学院教育において極めて稀有な取り組みと考えられ、優れた実績・成果である。</p> <p>【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3</p>	<p>【目標値】3 【実施状況・成果】教職大学院が大学3拠点で進めてきた教師教育・教員養成改革の展開を継続し、次年度の拠点拡大に向けた整備、さらには教員養成フラッグシップ大学のフレームワークに基づき他大学及び地域自治体との本取り組みの拡大に向けた協働連携の協議を行う。</p> <p>【実績値】3 【実施状況・成果】教職大学院が大学3拠点で進めてきた教師教育・教員養成改革の展開を継続し、次年度の拠点拡大に向けた整備、さらには教員養成フラッグシップ大学のフレームワークに基づき他大学及び地域自治体との本取り組みの拡大に向けた協働連携の協議を行い、これまで教職員の資質能力の向上及び相互の人的・知的資源の交流・活用「学校教育上の諸課題への対応」について連携してきた福井県、東京都板橋区、沖縄県宮古島市との教員研修カリキュラムの刷新協議、新たに石川県加賀市との連携協議に着手した。</p> <p>【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3</p>	<p>【目標値】3 【実施予定】過年度の試行実施の結果を検証し、その工夫点や留意点を明記した上で、引き続き大学院生、大学院教員、所属学校管理職の3者による多元的評価を実施する。</p>	<p>人文社会系運営管理課（教育）</p>	<p>人文社会系運営管理課（教育）</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無</p>
<p>中期計画（G-1）</p>	<p>【G-1-C】 「理論と実践の往還」及び長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の展開の観点から、すべての科目（授業科目・研修科目）が有機的に編成されたカリキュラムを実施する拠点数（連携大学・自治体）：5拠点以上（第4期の最終年度）</p> <p>人文社会系運営管理課（教育）</p>	<p>「理論と実践の往還」及び長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の展開の観点から、すべての科目（授業科目・研修科目）が有機的に編成されたカリキュラムを実施する拠点数（連携大学・自治体）</p>	<p>基準値：- （参考） 第3期実績値：3拠点 対象期間：-</p>	<p>目標値：5拠点以上 対象期間：R9（単年度）</p>	<p>【目標値】3 【実施予定】令和4年度現在まで教職大学院が大学3拠点で進めてきた教師教育・教員養成改革の展開を継続し、次年度の拠点拡大に向けた整備、さらには教員養成フラッグシップ大学のフレームワークに基づき他大学及び地域自治体との本取り組みの拡大に向けた協働連携の協議を行う。</p>	<p>【実績値】3 【実施状況・成果】教職大学院が大学3拠点で進めてきた教師教育・教員養成改革の展開を継続し、次年度の拠点拡大に向けた整備、さらには教員養成フラッグシップ大学のフレームワークに基づき他大学及び地域自治体との本取り組みの拡大に向けた協働連携の協議を行い、これまで教職員の資質能力の向上及び相互の人的・知的資源の交流・活用「学校教育上の諸課題への対応」について連携してきた福井県、東京都板橋区、沖縄県宮古島市との教員研修カリキュラムの刷新協議、新たに石川県加賀市との連携協議に着手した。</p> <p>【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3</p>	<p>【目標値】4以上 【実施予定】過年度の整備・協議に基づき、教職大学院をハブとした教師教育・教員養成改革の拠点大学を従来の3から4への拡大を模索するとともに、教員養成フラッグシップ大学のフレームワークから同拠点となる大学及び地域自治体と向き、その実際の運用を図る。</p>	<p>人文社会系運営管理課（教育）</p>	<p>④達成度 IV：計画を上回って実施している ＜コメント＞ ○中期計画には多くの要素が盛り込まれているため、(G-1-A)～(G-1-C)の数値指標だけでは成果が測れないのではないかと感じる。その意味でも、今後、評価指標とならない中期計画記載の取組をも周到に行っていることを意識的に強くアピールしてゆく必要があるのではないだろうか ○フラッグシップ構想に基づき、取組が順調に連携していると思われる。</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無 1. 優れた実績・成果が認められる取組等がある ＜コメント＞ ○長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目割合について、目標達成に向けて計画的に向上策が取られている。加えて、その効果の多面的評価のための準備状況も良好である。加えて、新たな拠点として富山国際大学のR6年度からの参画も計画されており、取組内容の充実化が期待される。 ○教員養成フラッグシップ大学の指定の獲得により、目標の達成がすなわち全国の教師教育改革のモデルとなる。そのため優れた実績・成果が認められ、なかでも専門職としての教師の長期に渡る力量形成に係る評価に着手している点は高く評価できる。 ○教員養成フラッグシップ大学の指定は実績・成果として大変わかりやすい。評価の上では第4期の有力なアピール材料になるだろう。 ○この計画は今回の目玉であり、フラッグシップに指定されたことは優れた実績ではないでしょうか。なお、評価指標は全て方法的なものであり、この計画の優れた実績をどのように具体的に示せるのか、ご検討いただきたい。 ○修了生の教員としての活躍の状況をフォローしてはどうか（人材育成のエビデンスとなる）。</p>	
<p>中期計画（G-2）</p>	<p>【G-2-A】 令和9年度までに産学官連携本部や地域共創拠点（嶺南地域共創センター）等の学内の他部局の施設を利用し、他の研究科・教職大学院等と協働して多職種連携した人材育成を行う仕組み（講義の相互乗り入れ、プロジェクトやラウンドテーブル参加等）</p> <p>人文社会系運営管理課（国際）</p>	<p>産学官連携本部や地域共創拠点（嶺南地域共創センター）等の学内の他部局の施設を利用し、他の研究科・教職大学院等と協働して多職種連携した人材育成を行う仕組み（講義の相互乗り入れ、プロジェクトやラウンドテーブル参加等）</p>	<p>基準値：- 対象期間：-</p>	<p>目標値：構築・適宜改善 対象期間：R4～R9の間 中</p>	<p>【目標値】- 【実施予定】多職種連携の人材を育成するため、他研究科生の受講受入について検討する。</p>	<p>【実績値】- 【実施状況・成果】 ①松本理事と、主に教職大学院との相互乗り入れについて意見交換を行い、当研究科では基礎的な科目における他研究科生の受入、また教職大学院からは組織学習に関する科目への当研究科生の参加が可能ではないかと提案があり、引き続き議論を継続することとなった。 ②次期工学研究科長との意見交換を行い、当研究科における他研究科生の受入の可能性、および工学研究科の副専攻科目での当研究科生の受入の可能性について議論を行い、引き続き議論を継続することとなった。</p> <p>【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③</p>	<p>【目標値】- 【実施予定】多職種連携の人材を育成するため、他研究科生の受講受入に係る試行を実施する。</p>	<p>人文社会系運営管理課（国際）</p>	<p>①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ○(G)-2-Aに関して、目標値が「構築・適宜改善」となっている点については、これと認められるようなものが、受け入れ人数等の数値目標が設定されていない点がマイナス材料となるおそれもあるようにも思える。 ○(G)-2-Bについては、6年間の合計数値目標が1年目ですでに達成されているため、目標値の妥当性が問われるかもしれない。 ●(G)-2-Aについて、前半4年間のうちに仕組みの構築のみならず、それによる具体的な実績を示す必要がある。少なくとも次年度中には構築を終え、具体的な運用を開始していただきたい。併せて、この評価指標は定性的なものであるが、より具体的な取組成果のエビデンスとして、受講者数やアンケート結果等、定量的な指標の導入も考えてはどうか ●(G)-2-Bについて、より高い評価を得るためには、実績値が目標値を大幅に上回っており、次年度の目標値の上方修正が望ましい。 ●(G)-2-Bについて、「オンラインによるヒアリングや議論」の「オンライン」による「議論」にまでかかるとあれば、実績値にはオンラインの取組しか計上できないと思われる。指標の修正（「オンラインによる」を「オンラインも含め」）を考えた方がよいのではないかと、また、「プログラム」に5件の「事前打ち合わせ」を入れているが、打ち合わせは「プログラム」と呼ぶのは適切ではないように思われる。どのようなものを「プログラム」と呼ぶのか、考え方を整理すべきでは、少なくとも、教育的な内容と当日の進行がわかるエビデンスを示せるものでなければならぬのではないかと。</p>	<p>②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞</p> <p>③前年度末達成の改善状況 1. 評価指標が改善（達成）されている 2. 一部の評価指標が改善（達成）されていない 3. 評価指標が改善（達成）されていない 4. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞</p>	
<p>人文社会系運営管理課（国際）</p>	<p>【G-2-B】 海外事業所や海外展開する国内企業等との間でオンラインによるヒアリングや議論を行うプログラム件数：12件以上（第4期の合計）</p> <p>人文社会系運営管理課（国際）</p>	<p>海外事業所や海外展開する国内企業等との間でオンラインによるヒアリングや議論を行うプログラム件数</p>	<p>基準値：- （参考） 第3期実績値なし 対象期間：-</p>	<p>目標値：12件以上 対象期間：R4～R9の合計</p>	<p>【目標値】2件 【実施予定】海外事業所や海外展開する国内企業等との間でオンラインによるヒアリングや議論を実施する。</p>	<p>【実績値】13 【実施状況・成果】当初はオンラインということもあり、オンラインでの実施を想定していたが、令和4年度から実渡航が可能となったため、海外での研修も実施することができた。実際の取組としては、授業の一環で実施したグループディスカッションとパネルディスカッションが2件、海外実地研修に向けての事前打合せが5件、フレ海外研修が1件、海外実地研修が5件の計13プログラムが実施された。</p> <p>【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③</p>	<p>【目標値】2件（累計4件） 【実施予定】海外事業所や海外展開する国内企業等との間でオンラインによるヒアリングや議論を実施する。</p>	<p>人文社会系運営管理課（国際）</p>	<p>①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ○(G)-2-Aに関して、目標値が「構築・適宜改善」となっている点については、これと認められるようなものが、受け入れ人数等の数値目標が設定されていない点がマイナス材料となるおそれもあるようにも思える。 ○(G)-2-Bについては、6年間の合計数値目標が1年目ですでに達成されているため、目標値の妥当性が問われるかもしれない。 ●(G)-2-Aについて、前半4年間のうちに仕組みの構築のみならず、それによる具体的な実績を示す必要がある。少なくとも次年度中には構築を終え、具体的な運用を開始していただきたい。併せて、この評価指標は定性的なものであるが、より具体的な取組成果のエビデンスとして、受講者数やアンケート結果等、定量的な指標の導入も考えてはどうか ●(G)-2-Bについて、より高い評価を得るためには、実績値が目標値を大幅に上回っており、次年度の目標値の上方修正が望ましい。 ●(G)-2-Bについて、「オンラインによるヒアリングや議論」の「オンライン」による「議論」にまでかかるとあれば、実績値にはオンラインの取組しか計上できないと思われる。指標の修正（「オンラインによる」を「オンラインも含め」）を考えた方がよいのではないかと、また、「プログラム」に5件の「事前打ち合わせ」を入れているが、打ち合わせは「プログラム」と呼ぶのは適切ではないように思われる。どのようなものを「プログラム」と呼ぶのか、考え方を整理すべきでは、少なくとも、教育的な内容と当日の進行がわかるエビデンスを示せるものでなければならぬのではないかと。</p>	<p>②改善方策等の策定状況 4. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞</p> <p>③前年度末達成の改善状況 1. 評価指標が改善（達成）されている 2. 一部の評価指標が改善（達成）されていない 3. 評価指標が改善（達成）されていない 4. 該当なし（達成済み） ＜コメント＞</p>	

	中期計画(5)-2				中期計画の達成状況 人文社会系運営管理課(国際)	【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】達成度：Ⅳ 【達成状況・成果】 評価指標(5)-2-A、(5)-2-Bのいずれも当該年度の実施目標を達成しており、中期計画が順調に進行している。 【特記事項】 評価指標(5)-2-Aは人文社会系運営管理課(国際)が取りまとめ部局に指定されているが、主に部局間での調整と合意が必要な事項なので、経営戦略課が調整のイニシアチブをとって議論の場を設定することで目標達成が可能になるとの全学的な合意が形成された。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】		④達成度 Ⅲ：計画を十分に実施している <コメント>	⑤優れた実績・成果等の有無 3. 優れた実績・成果が認められる取組等がない <コメント> ○「海外事業所や海外展開する国内企業等との間でオンラインによるヒアリングや議論を行うプログラム」について、コロナ禍の終息も影響し大幅に件数を超過して目標を達成しており、良好な進捗状況である。今後の社会(コロナ禍)状況によっては、目標値の引き上げの検討の余地があるとの印象を受けた。「他の研究科・教職大学院等と協働して多職種連携した人材育成を行う仕組み」についても、経営戦略課が調整のイニシアチブをとって議論の場を設定することについて合意形成がなされており、一層の進展が期待される。 ○現在調整及び議論が行われているその成果を期待したい。 ○評価指標(5)-2-Aについて優れた実績・成果を主張しようと思えば、他研究科の受講受け入れだけでは苦しい気がする。経営戦略課がイニシアチブをとって複数の研究科をまたいだプロジェクトやラウンドテーブル等を企画・実施することも考えるべきだろう。国際地域マネジメント研究科の院生は基本的に社会人であり、これから社会に出る教職大学院や工学研究科の院生は社会的な立ち位置が異なる。また人数が他大学院の院生と比べて少ないことを考慮すれば、国際地域マネジメント研究科の院生がメンター的な役割を担うプロジェクトやラウンドテーブルが想定できるのではないだろうか。 ○本年度は準備期間であり、今後の成果を期待したい。特に評価指標だけでは、この計画による具体的な成果(どのような能力を持った人材が育成できたかなど)を示すエビデンスをこ検討いただきたい。 ○修了生のキャリアアップの状況、活躍の状況をフォローしては如何か(人材育成のエビデンスとなる)。	
中期目標(6)	中期計画(6)-1	6)-1-A	小学校・中学校9年間を見通し、児童・生徒主体の学びを担うことのできる教員を養成するカリキュラムや教育プログラム	基準値：- 対象期間：-	目標値：整備・実施 対象期間：R4～R9の期間中	【目標値】- 【実施予定】・教員養成フラッグシップ大学採択を踏まえた第4期?第5期の学部教育のビジョンおよび、第3期に開拓した教育リソースや令和4年度開始の嶺南地域教育プログラムを活かした、小学校・中学校9年間を見通し、児童・生徒主体の学びを担うことのできる教員養成のカリキュラムや教育プログラムのあり方について検討を開始する。	【実績値】 【実施状況・成果】 ・教育学部組織・カリキュラム改編TFを立ち上げ、指定大学が加える独自の「フラッグシップ科目」の内容検討・設計に加え、フラッグシップ科目を含め免許要件59単位内で実現できるミニマムな教職課程を編成するというフラッグシップ大学に課された条件に応えるためにカリキュラムの改訂案を策定した。ミニマムな教職課程の条件に関する見解の統一に時間を要したが、令和5年度学部カリキュラムにフラッグシップ科目「協働学習支援プロジェクトⅠ」「心理発達支援プロジェクトⅠ」「地域実践演習」を組込んだ。 ・令和6年度の新科目「STEAM・総合探究Ⅰ・Ⅱ」を含む全フラッグシップ科目7単位の稼働、ミニマムな教職課程の実装に向けて、教職科目の再編成・単位数削減および各教科の免許要件単位の見直しを行った。これらのカリキュラム改訂案を踏まえ、学部の教育リソースを活用した義務教育9年間を見通した教員養成に対応するための学部教育組織の改編案について検討を行なった。 ※【優れた実績・成果】これらの改革の結果、令和6年度以降、従前の教育課題に対応する科目群を整理統合し、「令和の日本型教育」で期待される7つの課題のうち、6つの課題にも対応するモデルカリキュラムを確立できる。	【目標値】- 【実施予定】・令和4年度の検討内容を踏まえ、小学校・中学校9年間を見通し、児童・生徒主体の学びを担うことのできる教員養成のカリキュラムおよび教育プログラムの案を、教職大学院との接続プログラム等の早期整備・実装も視野に入れ策定する。	人文社会系運営管理課(教育)	①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している <コメント> ○教員養成フラッグシップ大学としてのカリキュラムの整備が中期目標の達成に繋がることはよく理解できるが、(6)-1-B、(6)-1-Cからは、特別支援学校関連の取り組みにウェイトが置かれ過ぎであるような印象を受けた。 ○(6)-1-A,Bとも、プログラムの構築と実装を上げていますが、実装し、どのような成果が得られ高を示す必要があります。そこで、できるだけ早く、プログラムの実装を進めるようお願いいたします。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み)	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) <コメント>
		6)-1-B	令和5年度までに特別支援学校2種免許取得プログラムを2種実装し、令和7年度までに複数免許取得プログラムの実装を完了	基準値：- 対象期間：-	目標値：①②プログラムの実装 対象期間：①R4～R5の期間中 ②R4～R7の期間中	【目標値】- 【実施予定】・免許法に準じて改訂した特別支援学校および中高教科の2種免許要件を令和4年度入学から適用し、プログラム運用の基盤を整備する	【実績値】 【実施状況・成果】 ・免許法に準じて改訂した特別支援学校および中学校(教科)の各2種免許取得要件を精査し、令和4年度入学から適用を開始した。 ・2種免許取得の場合の履修モデルをWebサイトに掲載し、年度末の学生対象のカリキュラムアンケートで2種免許取得プログラムについての設問を設定するなど、プログラムの周知を図った。 ・対象学生の履修状況やプログラムの運用状況を確認しながら、最適化を進める。	【目標値】- 【実施予定】・特別支援学校および中高教科2種免許取得プログラムを実装し、学生に周知する。	人文社会系運営管理課(教育)			
		6)-1-C	教育学部全体の特別支援学校教諭の免許状取得率	基準値：- (参考) 第3期平均予測値：19.1%(教育学部) 対象期間：-	目標値：25%以上 対象期間：R9(単年度)	【目標値】15%以上 【実施予定】・従来の免許要件による免許状取得希望者に対し丁寧な支援を行う	【実績値】特別支援学校(1種)免許取得者 14名(うち2名申請中)特別支援学校(2種)免許取得者 0名 卒業生数(特例履修1名を含む) 10名 【実施状況・成果】 ・令和5年度以降の入学に向けて、教育学部のHPに「福井大学教育学部 特別支援教育」のページ及びWebページを作成し公開。 ・令和4年度入学以降の学生に対し、「特別支援学校2種免許取得プログラム」を開始。教務課作成の教務情報Webサイトに、2種免許取得のための履修モデルを提示。 ・新入生ガイダンスにおいて、新入生全員に対し、特別支援学校教員免許取得に関する説明の機会を用意。初等教育コースの学生については、さらに追加で、大学教育入門セミナー1コマ分詳しいガイダンスを行っている。	【目標値】15%以上 【実施予定】・従来の免許要件による免許状取得希望者に対し丁寧な支援を行う。 ・新免許要件によるプログラムについて学生に周知する。	人文社会系運営管理課(教育)			
	中期計画(6)-1				中期計画の達成状況 人文社会系運営管理課(教育)	【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】達成度：Ⅲ 【達成状況・成果】 ・教育学部組織・カリキュラム改編TFを立ち上げ、指定大学が加える独自の「フラッグシップ科目」の設計。フラッグシップ科目を含め免許要件59単位で実現する教職課程の編成、義務教育9年間を見通した教員養成を実現するカリキュラムおよびコースの再編案の検討を進めた。フラッグシップ科目の一部を令和5年度カリキュラムに実装した。これらの改革の結果、令和6年度以降、従前の教育課題に対応する科目群を整理統合し、「令和の日本型教育」で期待される7つの課題のうち6つの課題にも対応するモデルカリキュラムを確立できる。 ・学部HPに「福井大学教育学部 特別支援教育」のWebページを作成し全学部生に向けて特別支援学校免許取得を推奨するとともに、令和4年度入学以降の学生対象に「特別支援学校2種免許取得プログラム」を開始し、Webサイトに履修モデルを公開し周知を図った。 ・令和4年度卒業生の特別支援学校免許取得率は15.2%であり、目標値15%以上を達成している。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】	④達成度 Ⅲ：計画を十分に実施している <コメント> ○中期計画では「学習の高度化と地域のニーズへの対応の両者を実現する質の高い教育」が謳われているが、後者の「地域のニーズへの対応」が手薄になっているような印象を受けた。特別支援学校に関する取組がそれに該当するのだろうか。中期計画の内容に比して評価指標がやや弱いように思える。今後、評価指標となっていく中期計画記載の取組の可能性のあるカリキュラムを構築できれば、優れた実績・成果として主張できるのではないだろうか。 ○フラッグシップの取組の成果が、この中期計画の成果になるのではないだろうか。この計画は今回の目玉ですので、是非高い評価を得られるような、具体的な成果を期待しています。また、その成果の一つが教員就職率の向上と想われますが、こちらの方の改善もよろしくお願いたします。 ○卒業生の教員としての活躍の状況をフォローしては如何か(人材育成のエビデンスとなる)。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○カリキュラム改訂の具体的な改正案が検討されており、順調な進捗状況であることが窺える。特別支援学校および中学校(教科)の各2種免許取得要件について、令和4年度入学からの適用に至っており、(6)-1-Bについても順調である。教育学部全体の特別支援学校教諭の免許状取得率においても着実に目標を達成している。 ○フラッグシップ大学としてのミッションの遂行とあわせ、履修モデルの公開等学生への丁寧なサポートが評価できる。 ○フラッグシップ科目の目玉となる「STEAM・総合探究Ⅰ・Ⅱ」を前面に押し出し、他の科目との有機的な繋がり確保しながら「令和の日本型教育」に課した可能性のあるカリキュラムを構築できれば、優れた実績・成果として主張できるのではないだろうか。		

<p>中期計画(6)-2</p> <p>第3期に導入したアウトカム基盤型教育の推進により、医学・看護学教育の全国的な基準とされる分野別評価の受審と、それぞれの教育プログラム(カリキュラム、教育課程)の更なる高度化を目指し、PDCAによるアウトカム・コンピテンシー及びカリキュラムの点検と改善を推進し、学生のアウトカム・コンピテンシー達成度を向上させる。</p> <p>松岡キャンパス学務課</p>	<p>6)-2-A</p> <p>令和9年度までに医学・看護学教育の国際認証・分野別認証を取得</p> <p>松岡キャンパス学務課</p>	<p>医学・看護学教育の国際認証・分野別認証</p>	<p>基準値:-</p> <p>対象期間:-</p>	<p>基準値:認証取得</p> <p>対象期間:R4~R9の間</p>	<p>【目標値】-</p> <p>【実施予定】医学教育分野別認証受審に向けた自己点検評価の実施</p>	<p>【実績値】</p> <p>令和5年度受審予定の医学教育分野別認証における自己点検評価書作成に取り組み、8領域の自己点検を進めることができた。自己点検を進める中で、今まで蓄積してきた教学IRデータが散在しており、教育プログラムのモジュールとして活用し、扱われていないことが領域「教育」において判明し、その対策として約100項目ある教学IRデータを集約し、分析・公開を目的とした「医学教育プログラムダッシュボード」を作成することができた。</p> <p>【今後の対策(目標値未達成の場合)】</p> <p>7月を目途に自己点検評価報告書をまとめ、12月11日~15日の実地調査に向けて準備を進める。</p> <p>【自己点検・評価】</p> <p>①1 ②3 ③3</p>	<p>【目標値】-</p> <p>【実施予定】医学教育分野別認証受審</p>	<p>松岡キャンパス学務課</p>	<p>①評価指標の達成状況</p> <p>1. 全ての評価指標が目標値を達成している</p> <p><コメント></p> <p>①細かいことだが、「卒業生に対するアンケート」の「卒業生」という言葉は、既卒者と区別する意味で「卒業予定者」あるいは「卒業対象者」とした方がよいように思える。</p>	<p>②改善方策等の策定状況</p> <p>4. 該当なし(達成済み)</p> <p><コメント></p>	<p>③前年度未達成の改善状況</p> <p>1. 評価指標が改善(達成)されている</p> <p>2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない</p> <p>3. 評価指標が改善(達成)されていない</p> <p>4. 該当なし(達成済み)</p> <p><コメント></p>
<p>中期計画(6)-2</p>	<p>6)-2-B</p> <p>卒業時における学生の達成度自己評価において、「できる」「ある程度できる」と回答した学生の割合</p> <p>松岡キャンパス学務課</p>	<p>卒業時における学生の達成度自己評価において、「できる」「ある程度できる」と回答した学生の割合</p>	<p>基準値:</p> <p>(医学科)R5の数値</p> <p>(看護学科)R4の数値</p> <p>対象期間:</p> <p>(医学科)R5</p> <p>(看護学科)R4</p>	<p>目標値:(医学科・看護学科)基準値以上</p> <p>対象期間:R9(単年度)</p>	<p>【目標値】-</p> <p>【実施予定】アンケート内容の検討及び卒業生に対するアンケートの実施</p>	<p>【実績値】(看護学科)92.0%</p> <p>【実施状況・成果】</p> <p>コンピテンシー達成度(学生アンケート)を評価指標としており、令和4年度は、医学科及び看護学科の卒業する学生を対象にアウトカム達成度自己評価アンケートを実施(アンケート内容は令和3年度と同様)した。今年度実施した看護学科の数値が基準値となった。</p> <p>【今後の対策(目標値未達成の場合)】</p> <p>令和5年度も引き続き、アウトカム達成度自己評価アンケートを実施する予定である。</p> <p>【自己点検・評価】</p> <p>①1 ②3 ③3</p>	<p>【目標値】(看護学科)92.1%以上</p> <p>【実施予定】卒業生に対するアンケートの実施</p>	<p>松岡キャンパス学務課</p>	<p>④達成度</p> <p>III:計画を十分に実施している</p> <p><コメント></p> <p>○この計画では「学生のアウトカム・コンピテンシー達成度を向上」を直接の目標としています。最終的には達成度が向上したことを示す必要があります。こちらのご準備もお願いします。</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無</p> <p>1. 優れた実績・成果が認められる取組等がある</p> <p><コメント></p> <p>○医学教育分野別認証受審に向けて、的確な自己点検の取組が機能しており、着実に準備が進められている。学生の達成度自己評価における評価指標についてもベースとなるアンケートが実施され、適切な目標設定に向けて取組が進められている。</p> <p>○新たな取組(自己点検)により、これまでの取組の課題(教学IRデータの散在)が発展的に解消され、更にそれがあらたな取組み・成果へとつながっているプロセスそのものが高く評価できる。</p> <p>○「医学教育プログラムダッシュボード」は、付け焼刃ではなく、これまで計画的に蓄積されてきたデータに基づくものであるだけに、現時点ですですに優れた実績・成果と見なすことができると思いますが、今後さらに改善が加えられるようなので、その成果が大いに期待される。</p>	
<p>中期計画(6)-3</p> <p>地域社会を幅広く診る能力を持った総合内科・総合診療医や看護師の育成、感染症に対する高度な知識と感染制御の基本的かつ重要な手技を身につけた医療人の養成を目指し、地域包括医療・ケアの実践・育成プログラムを開発すること等により病院・診療所のみならず、地域社会の総合診療の学びを推進すると共に、医学部・附属病院の連携による感染症教育を推進し、これからの地域医療や感染症医療を第一線で担える医師・看護師の養成を実現する。</p> <p>松岡キャンパス学務課</p>	<p>6)-3-A</p> <p>地域医療、感染症教育に関する新たな取組件数</p> <p>松岡キャンパス学務課</p>	<p>地域医療、感染症教育に関する新たな取組件数</p>	<p>基準値:R4の数値</p> <p>(参考)</p> <p>第3期実績なし</p> <p>対象期間:R4</p>	<p>目標値:基準値以上</p> <p>対象期間:R9(単年度)</p>	<p>【目標値】-</p> <p>【実施予定】地域医療、感染症教育に関するカリキュラム新設や新たな取組の実施</p>	<p>【実績値】</p> <p>【実施状況・成果】</p> <p>新たな取組みとして、地域医療2件、感染症1件を実施することができた。</p> <p><地域医療></p> <p>福井大学医学部附属 総合診療・総合内科センター(GGGセンター)を中心に卒前・卒後研修事業を展開している。卒前研修では、多職種連携実践教育(IPE)として、仁愛大学人間学部健康栄養学科(医学科1年生)、福井医科大学リハビリテーション学科(医学科5年生)と各々初めての合同実習を実施した。また、高浜町、JCHO若狭高浜病院、福井大学が協定を結び令和4年に設置された合同部署「たかま地域医療イノベーションセンター」において、福井大学医学部医学1年次の地域医療早期体験実習が実現、109名の学生を受け入れた。加えて、予防医学分野における地域支援をテーマとしたフィールドワーク研究事業(医学科生約200名参加)を勝山市、坂井市、若狭町、小浜市などで展開した。</p> <p><感染症></p> <p>医学科において、低学年における個人防護具着脱実習や、感染症診断に関する実習を行った。臨床実習においても、人工呼吸器実習、ECMO実習などを行った。</p> <p>【自己点検・評価】</p> <p>①1 ②3 ③3</p>	<p>【目標値】継続を含む4件以上</p> <p>【実施予定】地域医療、感染症教育に関するカリキュラム新設や新たな取組の実施</p>	<p>松岡キャンパス学務課</p>	<p>①評価指標の達成状況</p> <p>1. 全ての評価指標が目標値を達成している</p> <p><コメント></p>	<p>②改善方策等の策定状況</p> <p>4. 該当なし(達成済み)</p> <p><コメント></p>	<p>③前年度未達成の改善状況</p> <p>1. 評価指標が改善(達成)されている</p> <p>2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない</p> <p>3. 評価指標が改善(達成)されていない</p> <p>4. 該当なし(達成済み)</p> <p><コメント></p>
<p>中期計画(6)-3</p> <p>地域社会を幅広く診る能力を持った総合内科・総合診療医や看護師の育成、感染症に対する高度な知識と感染制御の基本的かつ重要な手技を身につけた医療人の養成を目指し、地域包括医療・ケアの実践・育成プログラムを開発すること等により病院・診療所のみならず、地域社会の総合診療の学びを推進すると共に、医学部・附属病院の連携による感染症教育を推進し、これからの地域医療や感染症医療を第一線で担える医師・看護師の養成を実現する。</p> <p>松岡キャンパス学務課</p>	<p>6)-3-B</p> <p>地域医療、感染症に関するコンピテンシー達成度(学生のアンケート結果)</p> <p>松岡キャンパス学務課</p>	<p>地域医療、感染症に関するコンピテンシー達成度(学生のアンケート結果)</p>	<p>基準値:R4の数値</p> <p>対象期間:R4</p>	<p>目標値:基準値以上</p> <p>対象期間:R9(単年度)</p>	<p>【目標値】-</p> <p>【実施予定】アンケート内容の検討及びアンケートの実施</p>	<p>【実績値】(医学科)地域医療/4.17 感染症/4.04 (看護学科)地域医療/4.24 感染症/4.17</p> <p>【実施状況・成果】</p> <p>地域医療及び感染症に関するコンピテンシー達成度(学生アンケート)を評価指標としており、令和4年度は、医学科(1~4年)及び看護学科(1~4年)学生を対象に、地域医療と感染症に特化したアウトカム達成度自己評価アンケートを実施した。アンケート内容は、医学部附属教育支援センター定例ミーティングで検討した。</p> <p>【今後の対策(目標値未達成の場合)】</p> <p>引き続き、特化したアウトカム達成度自己評価アンケートを実施する。</p> <p>【自己点検・評価】</p> <p>①1 ②3 ③3</p>	<p>【目標値】(医学科)地域医療/4.18以上 感染症/4.05以上 (看護学科)地域医療/4.25以上 感染症/4.18以上</p> <p>【実施予定】アンケート内容の検討及びアンケートの実施</p>	<p>松岡キャンパス学務課</p>	<p>①評価指標の達成状況</p> <p>1. 全ての評価指標が目標値を達成している</p> <p><コメント></p>	<p>②改善方策等の策定状況</p> <p>4. 該当なし(達成済み)</p> <p><コメント></p>	<p>③前年度未達成の改善状況</p> <p>1. 評価指標が改善(達成)されている</p> <p>2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない</p> <p>3. 評価指標が改善(達成)されていない</p> <p>4. 該当なし(達成済み)</p> <p><コメント></p>

	中期計画(6)-3				中期計画の達成状況 松岡キャンパス学務課	【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】達成度 Ⅲ 【達成状況・成果】 地域医療に関する取組:多職種連携2件、感染症教育に関する取組:1件 地域医療、感染症に関するコンピテンシー達成度の評価指標のベースとなるアンケートを実施した。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】		④達成度 Ⅲ:計画を十分に実施している ＜コメント＞ ○中期計画にはコロナ禍を経験した現代社会の医療に求められる多様な要素が盛り込まれているため、(6)-3-Aと(6)-3-Bの数値指標だけでは成果が測りきれないのではないかと懸念される。その意味でも、今後、評価指標となっていない中期計画記載の取組も抜かりなく行っていることを意識的にアピールしてゆく必要があるのではないだろうか。 ●計画の中で出てくる「地域包括医療・ケアの実践・育成プログラム」について、構築したプログラムの具体をご説明ください。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある ＜コメント＞ ○地域医療、感染症教育に関するカリキュラム新設や新たな取組として合計3件の実績を上げており、期間なすり出しと考えられる。このベースを維持するためのR5年度の具体的な実施計画の検討が期待される。地域医療と感染症に特化したアウトカム達成度自己評価アンケートも実施されており、翌年度からの取り組みの指標となる適切な目標値の設定が期待される。 ○他大学及び地域と密接に連携した本取組が、学生のコンピテンシーとどのように関係するのかが検討されると、より成果が強調できると感じた。 ○(6)-3-Aの他大学と連携した取組や協力をフィールドとした取組に優れた実績・成果に繋がる可能性があるように感じられた。 ○「地域包括医療・ケアの実践・育成プログラムを開発」について、全国のモデルとなるようなプログラムができれば、優れた成果となるのではないだろうか。 ○卒業生が、医師や看護師として、地域医療や感染症の分野で活躍している状況をフォローしては如何か(人材育成のエビデンスとなる)。	
中期目標(7)	中期計画(7)-1	7)-1-A	正規留学生数	基準値:118名	目標値:基準値以上	【目標値】正規留学生数を第3期の年平均(118名)より増加 【実施予定】1)留学フェアに積極的に参加するとともに、日本語学校や工業専門学校に向けたオンライン説明会を開催することにより、優秀な正規留学生をリクルートする。 2)各学部に、相応しい形で優秀な正規留学生の受入数を増やすための計画を立案する。 ・医学部と工学部は、博士課程・博士後期課程に集中して正規留学生をリクルートする。そのために、国際共同研究を推進し、研究ベースの部局間協定を拡充する計画を立案する。 ・連合教職大学院と工学部は、ダブルディグリーを構築するターゲット大学を選定して、ダブルディグリー協定を確立するための戦略を立案する。 ・国際地域学部では、私費外国人留学生選抜試験の改革を行うことにより、より多くの志願者を確保し、優秀な留学生の獲得を目指すとともに、学部定員外で受け入れ可能な正規留学生を積極的に受け入れる。 ・福井大学留学生同窓会の推薦枠を設けて、同窓会支部に留学生のリクルートを支援していただき、入学した留学生に対しては福井大学基金から奨学金を支給することで、同窓会からの寄付金を増やし、それを留学生のために有効活用する好循環を促す仕組みを構築する。	【実績値】106 【実施状況・成果】 1)全学的な取組として、以下のことを実施した。 ・オンライン日本留学フェアに各学部から積極的に参加し、大学及び各参加部局からの紹介を行った。計11事業の14セッションに登壇し、延べ539名が参加した。 2)各部局で立案した計画に沿って、以下の取組を行った。 (教職大学院) ・コンケン大学(タイ)を訪問(2022.9、2023.3)し、連合教職大学院とのダブルディグリー構築も視野に入れた連携の協議を行った。 (医学部) ・正規生のリクルート活動を行い、R5年度に大学院博士課程に2名の留学に繋がった。 ・医学部では、カナダ・オタワ大学医学部との間で産科婦人科学分野における教育研究交流事業を実施し、高エネルギー医学研究所との間で医工連携による研究成果を挙げた。 (工学部) ・オンライン日本留学フェアに積極的に参加し、リクルート活動を行った。 ・ハノイ工科大学(ベトナム)とのツインングプログラム開始に向け、日本コンソーシアムへ加入し、令和5年度の編入学試験実施に向け準備を開始した。 ・遠赤外線領域センター教員がデラサール大学(フィリピン)へ訪問し、工学研究科間のダブル・ディグリープログラムの構築に向け、具体的協議を開始した。(国際地域学部) 私費外国人留学生入試の改革に着手し、来学不要で受験が可能な体制を整備した。この新体制は令和4年度に公表を行い、令和7年度入試から実施する。正規留学生については、令和5年度の私費外国人留学生入試(特別枠)で1名(マレーシア)を定員内で受け入れ、マレーシア政府派遣留学生1名を定員外として受け入れた。 (国際センター) ・福井大学基金を原資とする留学生同窓会推薦奨学金を新設し、2023年度の募集を行った。 【今後の対策(目標値未達成の場合)】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2020年度から正規留学生が減少し、2022年度から概ね通常どりの受入体制となったが、減少傾向が続いている。2023年5月にはWHOが緊急事態宣言の終了を発表し、世界的に交流再開の機運が高まっているため、2023年度以降は学術交流協定校や関連機関等への交流再開について働きかけるとともに、以下のことに取組み、優秀な留学生リクルート活動の機会を積極的に活用し、国際センターと各部局が連携し着実に実行する。 ・優秀な留学生リクルート活動や学術交流協定校との関係強化のための旅費支援 ・JICA長期研修員制度や国費外国人留学生制度による受入候補者との分野マッチングの強化 ・ハノイ工科大学とのツインングプログラムによる学生の募集開始 ・留学生同窓会推薦奨学金の支給開始と募集 ・留学生リクルートを前提としたウェブサイトによる情報発信の強化	【目標値】正規留学生数を第3期の年平均(118名)より増加 【実施予定】1)留学フェアに積極的に参加するとともに、日本語学校や工業専門学校に向けたオンライン説明会を開催することにより、優秀な正規留学生をリクルートする。 2)各学部に、相応しい形で優秀な正規留学生の受入数を増やすための計画を遂行する。	国際課	①評価指標の達成状況 2. 一部の評価指標が目標値を達成していない ＜コメント＞ ○(7)-1-Aについて、年平均(118名)より増加させる目標値に達していない。 ●(7)-1-AのR5年度以降の目標値を、本年度の未達成分を補って定める目標値に修正ください。	②改善方策等の策定状況 2. 改善方策等が策定されているが、十分ではない ＜コメント＞ ●中期計画の記載に準じて、①優秀な留学生の受入・支援体制の整備、②留学生への支援体制の整備について、区分して改善方策を策定いただきたい。 ○令和4年度の正規留学生数が106名であったことから、令和5年度は12名の不足を補う数値目標が必要ではないか。 ○基準値が満足度アンケート総合評価により「8.89/10点」と比較的高い値が設定されたことから、令和9年度(単年度)に基準値を下回らない様、取組をすすめていただきたい。 ○コロナ禍の制限のある中で実績値の106は健闘していると考えられる。優秀な正規留学生のリクルートにはオンラインのみならず対面での説明会、リクルート活動が必要と考えられる。 ○アンケート結果に基づく「具体的な課題や改善策」こそ自己点検・評価シートに記載したほうがよいと思えます。 ○コロナの影響が大きく減少した令和5年度がスタート年と考えて、進められることを期待しています。部局ごとの目標があるのであれば、次年度以降、それぞれの対策をお考えいただくことも検討いただきたい。 ○アンケートによる満足度調査を継続いただき、事業内容に反映頂いた成果も今後、記載してほしい。	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されていない 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞

<p>7)1-B</p> <p>正規留学生の満足度（正規留学生を対象としたアンケート）：初年度より向上（第4期の最終年度）</p> <p>国際課</p>	<p>正規留学生の満足度（正規留学生を対象としたアンケート）</p>	<p>基準値：R4の数値</p> <p>対象期間：R4</p>	<p>目標値：基準値以上</p> <p>対象期間：R9(単年度)</p>	<p>【目標値】正規留学生向けの満足度調査アンケートを作成・実施し、第4期の基準値を設定する。</p> <p>【実施予定】1)正規留学生の満足度向上のためにPDCAサイクルを回す仕組みを構築する。</p> <p>・正規留学生をフォーカスグループとして、課題抽出のためのインタビューを行う。</p> <p>・交換留生向けのアンケートを基に、正規留学生の満足度の調査と満足度を阻害する課題を明らかにすることを目的とするアンケートを作成する。</p> <p>・正規留学生を対象に満足度アンケートを実施し、第4期の期首の基準値を設定する。</p> <p>・フォーカスグループインタビューとアンケート調査により明らかになった課題を解決するための計画を立ててそれを実行する。</p> <p>・金沢大学がけん引する「大学の国際化促進フォーラム形成事業」や北陸経済連合会国際委員会などの北陸地方の取組に参画しながら、ふくい地域プラトフォームや福井北ロータリークラブなどの地域の機関と連携しながら、キャリア支援と協働して正規留学生の地域定着と日本定着を個人毎にマッチングする形で支援できる体制を整備する。</p>	<p>【実績値】①正規留学生の満足度アンケートを作成し満足度向上のためにPDCAサイクルを回す仕組みを構築した；②令和4年度の成果：満足度アンケート総合評価 8.89/10点（基準値）</p> <p>【実施状況・成果】</p> <p>・既存の交換留生向けのアンケートを基に、正規留学生の満足度を「学習支援について」「留生向け教育について」「学生交流について」「生活支援について」「就職支援について」「総合評価」の項目で測り、各項目の満足度を阻害する課題を明らかにすることを目的とするアンケートを作成した。</p> <p>・正規課程に在籍する外国人留学生を対象に、9月26日～10月14日の期間、オンラインの満足度アンケート調査を実施した。集計の結果、「学習支援について」8.81/10点、「留生向け教育について」9.30/10点、「学生交流について」8.86/10点、「生活支援について」8.65/10点、「就職支援について」9.03/10点、「総合評価」8.89/10点と、高評価を得た。一方、生活支援及び学生交流については、低評価を付けた学生が複数おり、改善を要する点を把握することができた。</p> <p>・上述の満足度アンケートの質問をベースに、フォーカスグループディスカッションによるヒアリング調査を実施した。9月22日、11月22日、12月23日、2月17日の4回実施し、概ね満足度アンケート調査と同様の結果となったが、授業のどのような点に難しさを感じるかや、サークル活動や日本人学生との交流に関する要望が寄せられ、より具体的な課題や改善策を洗い出すことができた。</p> <p>・満足度アンケート及びフォーカスグループディスカッションは、副学長（国際）の主導の下国際センター・語学センター・国際課が計画・実施（PDCAサイクルの「C」と「A」）する仕組みを構築した。</p> <p>・金沢大学が幹事校となっている「大学の国際化促進フォーラム形成事業 留学生キャリア形成・地域定着促進プロジェクト」及び「北陸未来共創フォーラム Link KAGAYAKI ワーキンググループ」に参画し、連携大学が留学生のキャリア教育、地域定着教育、ビジネス日本語教育の共通した科目群についての協議を開始した。また、福井北ロータリークラブ、福井工業大学、福井県立大学と連携しグローバル社会をリードする人材を育成するための取組として「PEPIS」を「ダイバーシティ時代に活躍するグローバルリーダーになろう！」と題して10月に開催した。第2回PEPISでは、NHKの協力を得て、バック・マックスが「英語でサンキュー！」をテーマに講演を行った。正規留学生の地域定着及び日本定着の取組の一環として福井県国産経済課と連携して福井県内企業に留学生採用に関するアンケートを令和5年度に実施することとした。そのアンケート結果を分析し、今後の留学生と企業とのマッチング体制を整備する。</p> <p>【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3</p>	<p>【目標値】総合評価 8.9/10点以上</p> <p>【実績値】総合評価 8.89/10点以上</p> <p>【実施予定】1)正規留学生の満足度に関するPDCAサイクルを回しながら、満足度の向上に継続して取り組む。</p>	<p>達成率</p>		
<p>中期計画(7)-1</p>			<p>中期計画の達成状況</p> <p>国際課</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和4年度 中期計画の達成状況】</p> <p>【達成状況・成果】</p> <p>優秀な正規留学生の獲得のため、全学的には、オンライン日本留学フェアに積極的に参加しリクルート活動を行った他、福井大学基金を原資とする留学生同窓会推薦奨学金を新設し、2023年度の募集を行った。各部署においては、それぞれの特色や交流強化校に応じた計画を立案し実行した。例えば、教職大学院では、コンケン大学(タイ)とのダブルディグリープログラム構築に向け、先方との協議を開始した。医学部では、部局間協定を締結するオタワ大学(カナダ)との医工連携による研究成果を挙げ、さらに今後の研究交流についての協議を行った。工学部では、ハルイ工科大学(ベトナム)とのワイニングプログラム開始に向け日本コンソーシアムへ加入した他、デラ・サール大学(フィリピン)とのダブルディグリープログラムの構築に向け、先方との協議を開始した。国際地域学部では、私費外国人留学生入試を見直し、令和7年度入試から来学不要で受験できる体制を整備した。</p> <p>副学長（国際）主導の下国際センター・語学センター・運営委員会では、正規留学生の満足度向上を図るため、正規留生向けのアンケート調査を作成し、学習支援、留生向け教育、学生交流、生活支援、就職支援の5項目の指標による満足度調査に、具体的な改善点を洗い出すためのフォーカスグループディスカッションを4回実施した。その結果、宿舎や日本語支援、課外活動に関する課題が抽出されたが、総合評価としては8.89点/10点と高評価を得た。今後は、国際センター運営委員会にて、その結果を評価し、改善策を立案し、優先順位を付け対応していく体制を構築した。また、「大学の国際化促進フォーラム形成事業 留学生キャリア形成・地域定着促進プロジェクト」等に参画し、国内定着に向けた留生向け教育コンテンツの洗い出しを行った。</p> <p>【特記事項】</p> <p>・グローバル社会をリードする人材育成の取組として、ダイバーシティをテーマとした講演会及び日本人学生・留生によるパネルディスカッションを行い、ダイバーシティ理解の促進に貢献した。</p> <p>・優秀な正規留学生の獲得や多様な交流機会創出のため、新規学術交流協定を3件締結した。</p> <p>(内訳) 大学間：デイベネゴロ大学(インドネシア)、エディスコーワン大学(オーストラリア) 部局間：ダッカ工科大学ガジブール校(バングラデシュ)</p>	<p>【進捗状況】達成率 Ⅲ</p> <p>【達成状況・成果】</p> <p>優秀な正規留学生の獲得のため、全学的には、オンライン日本留学フェアに積極的に参加しリクルート活動を行った他、福井大学基金を原資とする留学生同窓会推薦奨学金を新設し、2023年度の募集を行った。各部署においては、それぞれの特色や交流強化校に応じた計画を立案し実行した。例えば、教職大学院では、コンケン大学(タイ)とのダブルディグリープログラム構築に向け、先方との協議を開始した。医学部では、部局間協定を締結するオタワ大学(カナダ)との医工連携による研究成果を挙げ、さらに今後の研究交流についての協議を行った。工学部では、ハルイ工科大学(ベトナム)とのワイニングプログラム開始に向け日本コンソーシアムへ加入した他、デラ・サール大学(フィリピン)とのダブルディグリープログラムの構築に向け、先方との協議を開始した。国際地域学部では、私費外国人留学生入試を見直し、令和7年度入試から来学不要で受験できる体制を整備した。</p> <p>副学長（国際）主導の下国際センター・語学センター・運営委員会では、正規留学生の満足度向上を図るため、正規留生向けのアンケート調査を作成し、学習支援、留生向け教育、学生交流、生活支援、就職支援の5項目の指標による満足度調査に、具体的な改善点を洗い出すためのフォーカスグループディスカッションを4回実施した。その結果、宿舎や日本語支援、課外活動に関する課題が抽出されたが、総合評価としては8.89点/10点と高評価を得た。今後は、国際センター運営委員会にて、その結果を評価し、改善策を立案し、優先順位を付け対応していく体制を構築した。また、「大学の国際化促進フォーラム形成事業 留学生キャリア形成・地域定着促進プロジェクト」等に参画し、国内定着に向けた留生向け教育コンテンツの洗い出しを行った。</p> <p>【特記事項】</p> <p>・グローバル社会をリードする人材育成の取組として、ダイバーシティをテーマとした講演会及び日本人学生・留生によるパネルディスカッションを行い、ダイバーシティ理解の促進に貢献した。</p> <p>・優秀な正規留学生の獲得や多様な交流機会創出のため、新規学術交流協定を3件締結した。</p> <p>(内訳) 大学間：デイベネゴロ大学(インドネシア)、エディスコーワン大学(オーストラリア) 部局間：ダッカ工科大学ガジブール校(バングラデシュ)</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>		<p>④達成度</p> <p>Ⅱ：計画を十分には実施していない</p> <p><コメント></p> <p>○具体的な取組がなされていない項目があるが、次年度何をどうするか、具体的な記載が必要であると思えます。</p> <p>○令和5年度の取組をもとに、今後の計画を戦略的に構成して頂ければと思います。可能なら、部局ごとの取組を統合し戦略的に取り組めるといいのですが。</p> <p>○正規留学生数ですが、ベンチマーキングの対象校を設定し、この値が高いのか低いのかある程度客観的に評価できないでしょうか。</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無</p> <p>2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある</p> <p><コメント></p> <p>○福井大学基金を原資とする留学生同窓会推薦奨学金を新設した点、及び、私費外国人留学生入試を見直し、令和7年度入試から来学不要で受験できる体制を整備した点が優れた実績・成果に繋がる取組といえます。</p> <p>○まだ、これからのようですが、ダブルディグリーの取組など、全学的な展開にはならないのでしょうか。</p> <p>○今後継続するアンケート結果を「優秀な留学生の受入・支援体制の整備、留学生への支援体制の整備」に繋げていただければ、優れた実績となるのではないのでしょうか。</p>

<p>中期計画(7)-2</p> <p>ポストコロナ時代に向けて、オンラインを含む多様な国際学修プログラムを構築すること、日本人学生が世界に貢献し得る英語運用能力と国際通用性を高めてグローバルに活躍する卓越高度専門職業人を育成することを旨とし、国際学修の多様化、並びに国際通用性の評価、その評価結果を教育改善にフィードバックする体制の構築、その体制の中核となる語学センターを発展させたグローバル人材育成研究センター（仮称）の設置を実現する。</p> <p>国際課</p>	<p>(7)-2-A</p> <p>令和9年度までにグローバル人材育成研究センターを設置し、国際通用性を高める教育を実施</p> <p>国際課</p>	<p>グローバル人材育成研究センター</p> <p>基準値:-</p> <p>対象期間:-</p>	<p>目標値:センターの設置</p> <p>対象期間:R4~R9の期間中</p>	<p>【目標値】語学センターで国際通用性を高める教育として、「グローバル・リーダーシップ開発」の授業を開始する。</p> <p>【実施予定】1)学生の国際通用性向上のためにPDCAサイクルを回す仕組みを構築する。</p> <p>・グローバルに活躍できる卓越高度専門職業人の育成のため、語学教育に加え、他文化を理解しながら、自国民及び福大生である誇りと自信を持って世界の大海に出るよう、国際通用性を高める教育を提供する。具体的には、まず、語学センター英語教育部において「グローバル・リーダーシップ開発」の授業を準備し、2022年度後期から開始する。さらに、全学の1年生(900名)にGTECを導入し、グローバルコンピテンシー指標と合わせて活用することにより、学生の国際通用性を継続して評価し、PDCAサイクルを回しながら教育改善を継続する体制をつくる。</p> <p>2)グローバル人材育成研究センターの設置の準備をする。</p>	<p>【実績値】共通教育科目「グローバル・リーダーシップの開発」を開始した。</p> <p>【実施状況・成果】</p> <p>1)学生の国際通用性向上のための仕組み</p> <p>・2022年度後期に、共通教育科目「グローバル・リーダーシップの開発」を開講し、語学センターの明石センター長と英語教育部教員5名が指導を担当した。履修者は6名と少数ではあったが、1)福井の文化と教育の理解、2)英語による実践的コミュニケーション能力の向上、3)国際活動に必要な基礎知識、4)グローバル・リーダー、5)フロンソビエの涵養といった、体系的な教育を実施することができた。</p> <p>・新入生を対象に、4月25日～5月31日と12月26日～1月31日の2回、GTEC(英語2技能検定)を実施した。受験率は全体で94.2%であった。1回目と2回目のスコア分布の比較をすることで、英語教育における課題を抽出し、英語教員と共有するとともに、次年度のGTECの実施方法及び活用方法を検討した。</p> <p>2)グローバル人材育成研究センターの設置について</p> <p>令和6年度概算要求(教育研究組織改革)として、地域を拠点とするグローバルリーダー人材育成システムの構築を目的とした、グローバル人材育成研究センター(仮)の設置に向け、WGを立ち上げ教員と職員の協働で検討を開始した。</p> <p>【自己点検・評価】</p> <p>① ②③ ③</p>	<p>【目標値】語学センターで国際通用性を高める教育として、「グローバル・リーダーシップ開発」の授業を行っている。</p> <p>【実施予定】1)グローバル人材育成研究センターの設置の準備をする。</p> <p>2)学生の国際通用性向上のためにPDCAサイクルを回して学生の国際通用性を高める教育を行っている。</p>	<p>国際課</p>	<p>①評価指標の達成状況</p> <p>1. 全ての評価指標が目標値を達成している</p> <p><コメント></p> <p>OGTECの結果は何度か目にしたが、結果を教育改善に活かす取組は十分か？</p>	<p>②改善方策等の策定状況</p> <p>4. 該当なし(達成済み)</p> <p><コメント></p>	<p>③前年度未達成の改善状況</p> <p>1. 評価指標が改善(達成)されている</p> <p>2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない</p> <p>3. 評価指標が改善(達成)されていない</p> <p>4. 該当なし(達成済み)</p> <p><コメント></p>	
	<p>(7)-2-B</p> <p>英語による専門科目数:初年度より増加(第4期の最終年度)</p> <p>国際課</p>	<p>英語による専門科目数</p> <p>基準値:R4の数値</p> <p>対象期間:R4</p>	<p>目標値:基準値以上</p> <p>対象期間:R9(単年度)</p>	<p>【目標値】英語による専門科目数を初年度より増加する。</p> <p>【実施予定】1)各学部で英語による専門科目数の増加の計画と管理を行う体制を整備する。</p> <p>・各学部に、第4期には英語による専門科目の増加を目標にしていることを説明し、全学教員への意識を高めるとともに、専門科目の増加のための計画立案を依頼する。</p> <p>・各学部で日本人学生のためのContent and Language Integrated Learning (CLIL)の一環として、留学生のために提供しているProgram AとGEPISの両プログラムの英語による専門科目を日本人学生にも開放するように依頼する(GTEC評価)。</p> <p>・各学部で開催している国際共同セミナーの拡充、「大学の国際化促進フォーラム形成事業」の北陸地方の連携大学と国際共同セミナーの相互参加の推進などにより、専門科目として授業にできないか可能性を調べる。</p>	<p>【実績値】英語による専門科目数:368(基準値)</p> <p>【実施状況・成果】</p> <p>第3期終了時及び令和4年度初めに、国際センター運営委員会及び各学部の留學生委員会等において、第4期の英語による専門科目(語学を除く)の科目数について目標を定めていることの説明及び計画立案を依頼し、交換留学プログラムAコースガイの開講科目について見直しを行った。</p> <p>なお、交換留学プログラムにおいては、コロナ禍で交換留学プログラムAの留學生数が減少し、受講者数も少なかったため、開講しなかった科目も多数あった。各学部及び研究科等別の令和4年度英語で対応している科目提供数【のべ受講者数/受講者ありの科目数】(語学を除く)は、以下のとおり。</p> <p>《学部生対象》共通教育:1【7/1】、教育学部:15【227/15】、医学部医学科:0、医学部看護学科:0、工学部:0、国際地域学部:18【236/18】</p> <p>《院生対象》連合教職開発研究科:21【33/21】、医学系医学科修士:0、医学系医学科博士:0、工学研究科博士前期:203【48/45】、工学研究科博士後期:70【66/22】、国際マネジメント研究科:0</p> <p>《交換留學生(プログラム)》:40【8/7】</p> <p>・語学センター教員会議にて、交換留学プログラムAの開講科目の開放について議論を開始した。</p> <p>・金沢大学が幹事校となっている「大学の国際化促進フォーラム形成事業 留學生キャリア形成・地域定着促進プロジェクト」及び「北陸未来共創フォーラム Link KAGAYAKI ワーキンググループ」に参画し、連携大学が留學生のキャリア教育、地域定着教育、ビジネス日本語教育の共通した科目群についての協議を開始した。</p> <p>【自己点検・評価】</p> <p>① ②③ ③</p>	<p>【目標値】369以上</p> <p>【実施予定】1)各学部で英語による専門科目数の増加の計画を遂行する。</p>	<p>国際課</p>				
	<p>(7)-2-C</p> <p>令和4年度までに学生の国際通用性を評価するグローバル・コンピテンシー指標</p> <p>国際課</p>	<p>①学生の国際通用性を評価するグローバル・コンピテンシー指標</p> <p>②国際通用性を高める教育(海外留学等)の実施前後のグローバル・コンピテンシー指標</p> <p>国際課</p>	<p>基準値:-</p> <p>対象期間:-</p>	<p>目標値:</p> <p>①指標の構築</p> <p>②15%以上向上</p> <p>対象期間:</p> <p>①R4の期間中</p> <p>②R4~R9の平均</p>	<p>【目標値】グローバル・コンピテンシー指標を構築する。</p> <p>【実施予定】・既往のグローバル・コンピテンシー指標の課題を抽出し、その課題を改善した第4期グローバル・コンピテンシー指標を作成する。</p> <p>・交換留学プログラムと短期派遣プログラムにより派遣される日本人学生に新しいグローバル・コンピテンシー指標を適用して、各教育プログラムの教育効果の評価を開始する。</p>	<p>【実績値】①指標を構築した:②19%の向上</p> <p>【実施状況・成果】</p> <p>福井大学グローバル・コンピテンシー・モデルを利用した自己評価シートによる留学前後の向上度を算出し、プログラム毎のスキル向上への貢献度合いを測定した。その結果、全体の向上ポイント率は19%で、目標値を達成している。今後、各参加学生及びプログラム担当教員へのフィードバック方法を検討し、PDCAサイクルを回す体制を構築することとした。</p> <p>【自己点検・評価】</p> <p>① ②③ ③</p>	<p>【目標値】学生の国際通用性を高める教育プログラムの実施前後のグローバル・コンピテンシー指標:15%以上向上する。</p> <p>【実施予定】・交換留学プログラムと短期派遣プログラムにより派遣される日本人学生に新しいグローバル・コンピテンシー指標を適用して、各教育プログラムの教育効果の評価を行う。</p> <p>・評価の結果から課題を抽出し、それを改善する取り組みをする。</p>	<p>国際課</p>			
<p>中期計画(7)-2</p>			<p>中期計画の達成状況</p> <p>国際課</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和4年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>【進捗状況】達成度:Ⅲ</p> <p>【達成状況・成果】</p> <p>令和6年度概算要求(教育研究組織改革)として、地域を拠点とするグローバルリーダー人材育成システムの構築を目的とした、グローバル人材育成研究センター(仮)の設置に向け、WGを立ち上げ教員と職員の協働で検討を開始した。これに関連し、学生のグローバル活動への参加及び達成度合いを可視化するための福大グローバル・リーダーシップ・プログラムを構想し、その実施に向けた制度設計を開始した。</p> <p>国際通用性を高める教育として、英語で対応する専門科目の提供、共通教育科目「グローバル・リーダーシップの開発」の新設、新入生を対象とした英語2技能検定GTECの実施を行った。</p> <p>福井大学グローバル・コンピテンシー・モデルの構築と、プログラム毎の留学前後のスキル別向上度を算出した。今後、各参加学生及びプログラム担当教員へのフィードバック方法を検討し、PDCAサイクルを回す体制を構築することとした。</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>		<p>④達成度</p> <p>Ⅲ.計画を十分に実施している</p> <p><コメント></p> <p>○「グローバル人材育成研究センターを設置し、国際通用性を高める教育を実施する」としてありますので、なるべく早期にセンターを設置し、そこを中心に国際通用性を高める教育を進め、具体的な成果を上げてほしい。</p> <p>●中期計画に「ポストコロナ時代に向けて、オンラインを含む多様な国際学修プログラムを構築」が挙げてありますが、国際学修プログラムの構築は進んでいるのでしょうか。進捗状況について【達成状況・成果】欄に追記ください。</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無</p> <p>2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある</p> <p><コメント></p> <p>○共通教育科目「グローバル・リーダーシップの開発」の新設。</p>		

<p>中期計画(7)-3</p> <p>総合教職開発本部と連携しながら教職大学院をハブとした国際的な教師教育改革推進組織の確立とそれによる教育課程と教育内容の高度グローバル化を目指す。シンガポール国立教育研究所(NIE)協定に基づく交換留学に加えて、海外教員研修留学生の受入拡大、エジプト・日本教育パートナーシップ(EJEP)人材育成事業研修及び国際協力開発機構(JICA)課題別研修それぞれの受講生のネットワーク化と相互交流拡張、JICA基の根拠技術協力事業によるアフリカ地域を主とした教師学習コミュニティのネットワーク化、経済協力開発機構(OECD) Education 2030と連動したグローバル教育コンソーシアムの確立、これらを連合教職大学院の教育課程、教育内容と連動させた大学院レベルでのグローバル教育を実施する。</p> <p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>7)-3-A</p> <p>海外教員研修留学生及び研修受講生指数(※):300以上(第4期の平均)</p> <p>※ 海外教員研修留学生及び研修受講生指数=</p> <p>「海外教員研修留学生及び研修受講生数の総数」×「出身国(地域)の数」を乗じて算出する。</p> <p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>海外教員研修留学生及び研修受講生指数</p> <p>※ 海外教員研修留学生及び研修受講生指数=</p> <p>「海外教員研修留学生及び研修受講生数の総数」×「出身国(地域)の数」</p>	<p>基準値:-</p> <p>対象期間:-</p>	<p>目標値:300以上</p> <p>対象期間:R4~R9の平均</p>	<p>【目標値】200(令和4年度)</p> <p>【実績値】305</p> <p>【実施予定】新型コロナウイルス感染症水際対策の緩和措置に伴い、令和4年度より、教員研修留学生2名を受け入れ予定であり、8月よりEJEP人材育成事業に基づく教員研修を計3バッチ実施予定。さらに前年度オンライン実施で再開したJICA課題別研修の11月実施予定である。研修受講生は現在調整中であるが数十名の参加が期待され、さらに留学生と研修生の出身国は5カ国以上が予測されることから、大学院のグローバル教育と連動しながら教職大学院の国際的な教育改革を広く展開していくことになる。また、シンガポール国立教育研究所(NIE)協定に基づく交換留学の再開に向けた議論を進める。さらに、令和4年度よりJICA技術協力プログラム事業に参画することを通じて、ヨルダン・パキスタンとの国際共同教員研修のさらなる展開を模索していく。</p> <p>【自己点検・評価】 ① ② ③</p>	<p>【目標値】300(令和5年度)</p> <p>【実績値】305</p> <p>【実施予定】引き続き教員研修留学生の受け入れと各種国際共同教員研修を推進し、大学院のグローバル教育を強化していく。特に、アフリカ地域、マラウイ国を核とした教師学習コミュニティのネットワーク化を推進し、現地での国際共同教員研修を執行する。同研修が実現した際には、マラウイ国における教職大学院の国際的な教育改革が広く展開することが期待される。</p> <p>【自己点検・評価】 ① ② ③</p>	<p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>①評価指標の達成状況</p> <p>1. 全ての評価指標が目標値を達成している</p> <p><<コメント>> ○(7)-3-Bについては、今後どのように評価していくのか、ご検討いただければと思います。 ●(7)-3-Cについて、研修について良好な評価を行わなかった留学生・研修生の割合が少ないとは言えないように思うが、そうした結果を分析して改善に結び付ける取組は行われたのでしょうか?取組状況について、【実施状況・成果】欄に追記ください。</p>	<p>②改善方策等の策定状況</p> <p>4.該当なし(達成済み)</p> <p><<コメント>></p>	<p>③前年度未達成の改善状況</p> <p>1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み)</p> <p><<コメント>></p>
<p>中期計画(7)-3</p> <p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>7)-3-B</p> <p>令和9年度までに海外教員研修留学生と大学院生が協働学習を行う授業を整備・実施</p> <p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>海外教員研修留学生と大学院生が協働学習を行う授業</p>	<p>基準値:-</p> <p>対象期間:-</p>	<p>目標値:整備・実施</p> <p>対象期間:R4~R9の期間中</p>	<p>【目標値】-</p> <p>【実績値】-</p> <p>【実施予定】令和4年度8月より受入が始まる国際共同教員研修と連動して、海外教員研修留学生と大学院生が協働学習を行う授業に適した時期、内容、方法の検証を実践的に開始する。</p> <p>【自己点検・評価】 ① ② ③</p>	<p>【目標値】-</p> <p>【実績値】-</p> <p>【実施予定】過年度及び本年度に実施する海外教員研修留学生と大学院生が協働学習の実践的検証を踏まえ、同協働学習を行う授業をデザインする。</p>	<p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>④達成度</p> <p>III.計画を十分に実施している</p> <p><<コメント>></p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無</p> <p>2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある</p> <p><<コメント>> ○「海外教員研修留学生及び研修受講生指数」が、大学評価に関するスタンダードになるようなものなのか、判断できません。 ○海外教員研修留学生及び研修受講生指数について、ベンチマーキングの対照校を設定して、概ね程度客観的な評価で、達成した実績値が非常に評価できるほど高いことを示すことはできていますか。 ○日本型教育の普及を図る取組として優れた実績・成果に繋がり得ると思います。成果の見せ方として、外国における教育の改善として見せるか、大学院生に対する教育の改善として見せるかの2つがあるか、どちらの見せ方をとするか、今のうちから検討しておくのがよいかと思っています。</p>	
<p>中期計画(7)-3</p> <p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>7)-3-C</p> <p>海外教員研修留学生及び研修受講生による「長期実践研究報告」において、研修について良好な評価(上方3/5以上)を行った留学生・研修生の割合:60%以上(該当人数/全体人数)(第4期の平均)</p> <p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>海外教員研修留学生及び研修受講生による「長期実践研究報告」において、研修について良好な評価(上方3/5以上)を行った留学生・研修生の割合</p>	<p>基準値:-</p> <p>対象期間:-</p>	<p>目標値:60%以上(該当人数/全体人数)</p> <p>対象期間:R4~R9の平均</p>	<p>【目標値】50%以上(令和4年度)</p> <p>【実績値】56</p> <p>【実施予定】海外教員研修留学生及び研修受講生の実践省察レポートの実践省察レポートの評価について、大学院の「長期実践研究報告」で求められる事項・内容・省察の重要性を踏まえた評価スケールを導入する。この評価スケールに基づき、留学生及び受講生の学びと実践省察の質を検証しその結果を共有することを通して、長期的で組織的なプロジェクト学習の展開と、専門職としての教師の実践と省察を重層的に記述し分析する資質能力を不断に高める教師の専門性開発の指針を国際的に共有していく。</p> <p>【自己点検・評価】 ① ② ③</p>	<p>【目標値】55%以上(令和5年度)</p> <p>【実績値】56</p> <p>【実施予定】引き続き、大学院の「長期実践研究報告」で求められる事項・内容・省察の重要性を踏まえた評価スケールを留学生及び受講生と共有し、実践と省察の質の向上を図っていく。また、ここで共有される実践省察の価値をマルチステークホルダーで検証していく。</p> <p>【自己点検・評価】 ① ② ③</p>	<p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>④達成度</p> <p>III.計画を十分に実施している</p> <p><<コメント>></p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無</p> <p>2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある</p> <p><<コメント>> ○「海外教員研修留学生及び研修受講生指数」が、大学評価に関するスタンダードになるようなものなのか、判断できません。 ○海外教員研修留学生及び研修受講生指数について、ベンチマーキングの対照校を設定して、概ね程度客観的な評価で、達成した実績値が非常に評価できるほど高いことを示すことはできていますか。 ○日本型教育の普及を図る取組として優れた実績・成果に繋がり得ると思います。成果の見せ方として、外国における教育の改善として見せるか、大学院生に対する教育の改善として見せるかの2つがあるか、どちらの見せ方をとするか、今のうちから検討しておくのがよいかと思っています。</p>	
<p>中期計画(7)-3</p> <p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>7)-3-D</p> <p>海外教員研修留学生及び研修受講生による「長期実践研究報告」において、研修について良好な評価(上方3/5以上)を行った留学生・研修生の割合:60%以上(該当人数/全体人数)(第4期の平均)</p> <p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>海外教員研修留学生及び研修受講生による「長期実践研究報告」において、研修について良好な評価(上方3/5以上)を行った留学生・研修生の割合</p>	<p>基準値:-</p> <p>対象期間:-</p>	<p>目標値:60%以上(該当人数/全体人数)</p> <p>対象期間:R4~R9の平均</p>	<p>【目標値】50%以上(令和4年度)</p> <p>【実績値】56</p> <p>【実施予定】海外教員研修留学生及び研修受講生の実践省察レポートの実践省察レポートの評価について、大学院の「長期実践研究報告」で求められる事項・内容・省察の重要性を踏まえた評価スケールを導入する。この評価スケールに基づき、留学生及び受講生の学びと実践省察の質を検証しその結果を共有することを通して、長期的で組織的なプロジェクト学習の展開と、専門職としての教師の実践と省察を重層的に記述し分析する資質能力を不断に高める教師の専門性開発の指針を国際的に共有していく。</p> <p>【自己点検・評価】 ① ② ③</p>	<p>【目標値】55%以上(令和5年度)</p> <p>【実績値】56</p> <p>【実施予定】引き続き、大学院の「長期実践研究報告」で求められる事項・内容・省察の重要性を踏まえた評価スケールを留学生及び受講生と共有し、実践と省察の質の向上を図っていく。また、ここで共有される実践省察の価値をマルチステークホルダーで検証していく。</p> <p>【自己点検・評価】 ① ② ③</p>	<p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>④達成度</p> <p>III.計画を十分に実施している</p> <p><<コメント>></p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無</p> <p>2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある</p> <p><<コメント>> ○「海外教員研修留学生及び研修受講生指数」が、大学評価に関するスタンダードになるようなものなのか、判断できません。 ○海外教員研修留学生及び研修受講生指数について、ベンチマーキングの対照校を設定して、概ね程度客観的な評価で、達成した実績値が非常に評価できるほど高いことを示すことはできていますか。 ○日本型教育の普及を図る取組として優れた実績・成果に繋がり得ると思います。成果の見せ方として、外国における教育の改善として見せるか、大学院生に対する教育の改善として見せるかの2つがあるか、どちらの見せ方をとするか、今のうちから検討しておくのがよいかと思っています。</p>	

第4期 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価シート

【研究】

【参考】自己点検・評価結果のコメントについて
 ○(丸)： 評価結果、評価者による所感。今後の取組の参考としてのコメントなど。
 ●(黒丸)： 部局に具体の対応や検討を依頼するもの。

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和4年度		令和5年度		取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	実施状況	実施予定	実施状況		①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況
地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。	中期計画(8)-1 研究推進課	(8)-1-A 遠赤外線研究に関する国内・国際共同研究の新規実施件数 研究推進課	遠赤外線研究に関する国内・国際共同研究の新規実施件数 研究推進課	基準値:206件 対象期間:H28～R2の平均値×6年間分	目標値:基準値より10%以上増加(227件以上) 対象期間:R4～R9の合計	【目標値】40件 【実施予定】(1)【国際・国内研究拠点機能の強化】 コロナ禍後の影響やロシアのウクライナ侵攻などの国際情勢の変化により共同研究の実施が困難な中、目標値を上回る共同研究を実施できた。 【自己点検・評価】 ① ② ③	【実績値】国内共同研究新規31件、国際共同研究新規15件の合計46件 【実施状況・成果】 コロナ禍後の影響やロシアのウクライナ侵攻などの国際情勢の変化により共同研究の実施が困難な中、目標値を上回る共同研究を実施できた。 【自己点検・評価】 ① ② ③	【目標値】40件(累計80件) 【実施予定】(1)【国際・国内研究拠点機能の強化】 遠赤外線研究の国際カンファレンス参加研究機関および学術交流協定・共同研究覚書を取り交わした研究機関と国際的学術教育研究を展開し、国際・国内共同研究を推進する。 (2)【若手人材育成】 若手海外研修プログラム・海外招聘プログラムにより大学院生・機関研究員を、海外研究機関に派遣・招聘し、次世代人材育成を行う。	【実績値】国内共同研究新規31件、国際共同研究新規15件の合計46件 【実施状況・成果】 コロナ禍後の影響やロシアのウクライナ侵攻などの国際情勢の変化により共同研究の実施が困難な中、目標値を上回る共同研究を実施できた。 【自己点検・評価】 ① ② ③	研究推進課	①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している <コメント> ●実施内容に「若手人材育成」があげられているが、当該指標にどのように係るのが明かでないため令和4年度の実施状況を追記願います。 ●【達成状況・成果】欄に記載いただいた国内共同研究と国際共同研究の実施内容の詳細は、評価指標(8)-1-Aの実施状況欄に記入してください。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) <コメント>
	研究推進課 中期計画(8)-1 研究推進課	④達成度 III. 計画が十分に実施している <コメント> ○【達成状況・成果】の中に、優れた研究成果を具体的に列記してください。 ●これらの事業により、遠赤外線域における国際連携研究ネットワークを拡大・強化している。とあり、確かにそうなるかとは思いますが、これまで招聘してなかったところから招聘したのであれば「拡大」、既存のところから招聘する人数を増やしたのであれば「強化」という具合に、実施した事業と拡大・強化の関係がわかるように記載していただきたい。また、国内31件、国際15件の内訳(新分野の開拓か、分野融合研究か、あるいは両方兼ねたものかもわかるように記載して頂きたい。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○生体に基づく電磁波の影響が古くから懸念されている研究内容であり、重点共同研究として取り上げることによって研究の幅を広げ新たな分野の開拓・成果に繋がる可能性が高い。 ○評価指標は共同研究数であるが、実際の成果は質の高い論文の数、受賞数になるため、そのあたりもフォロー願います。										
中期計画(8)-2 「安全と共生」を基本として設置された附属国際原子力工学研究所を中心とした国際・国内研究拠点の形成・充実を目指し、基礎から実践までの幅広い研究を一層実施していくとともに、もじゅ跡地に建設予定の試験研究炉の活用によるイノベーション研究を進める体制を構築する。 教養キャンパス運営管理課	(8)-2-A Science Citation Index (SCI) 論文数 (130件)の水準を維持(第4期の合計) ※ 科学技術分野における文献間の引用情報に関する索引(引用索引)。 教養キャンパス運営管理課	Science Citation Index (SCI) 論文数 基準値:130件 対象期間:※第3期【戦略2】の目標値(評価指標)は129件。	目標値:基準値を維持 対象期間:R4～R9の合計	【目標値】SCI論文年間目標23件 【実施予定】軽水炉および高速炉の安全性向上、原子力防災・危機管理、原子力施設の廃止措置、放射性廃棄物の減容および毒性の低減等に関する先進的研究を一層推進し、学術誌への日・英語論文掲載数について上記の目標を達成する。	【実績値】SCI論文数 15件 【実施状況・成果】 国内外の大学・研究機関との共同研究や国内、国外の機関とのクロスポイント・共同研究の活用し、生命教育の採用し、原子力の喫緊の課題に関する先進的研究を推進し、計15件の学術論文を掲載論文数 ・軽水炉および高速炉の安全性向上研究 9件 ・原子力防災研究・危機管理 5件 ・原子力施設の廃止措置研究 1件 ・放射性廃棄物の減容に係る研究 0件 【今後の対策(目標値未達成の場合)】 論文発表に関する財政的な補助、クロスアポイントメント教員、客員教授等及び特別研究員等との連携をさらに進め、論文発表数の増加を目指す。なお、確認時点でまだ掲載されていない論文もあり、時間経過とともに増加することが考えられる。	【目標値】SCI論文年間目標23件(累計46件) 【実施予定】軽水炉および高速炉の安全性向上、原子力防災・危機管理、原子力施設の廃止措置、放射性廃棄物の減容および毒性の低減等に関する先進的研究を一層推進し、学術誌への日・英語論文掲載数について上記の目標を達成する。	教養キャンパス運営管理課	①評価指標の達成状況 2. 一部の評価指標が目標値を達成していない <コメント> ○(8)-2-Aの指標は130/6=21.77なので、目標論文数は22件/年の方が良いのでは？ ○SCI論文数が不足(実績値15/目標値23)している。 ○SCI論文数については、令和5年度に23件を超えるようでない、計130件の基準値到達は危ういように思われる。 ●(8)-2-Bの「①試験研究炉の研究分野に係るセミナー等の開催回数」について、実績値が目標値を大幅に上回っているため、より高い評価を得るために次年度の目標値の上方修正が望ましい。 ●【達成状況・成果】欄に記載いただいた各評価指標の実施予定に対する実施状況の詳細は、各評価指標の実施状況欄に記入してください。 ●【今後の対策】に「なお、確認時点でまだ掲載されていない論文もあり」とあるが、数がわかるように記載いただきたい。 ○【達成状況・成果】に工学系部門、産学連携本部、高エネルギー医学研究センターの教員を含むパイロットチームが登録されたこととあるので、今後の論文も期待したい。	②改善方策等の策定状況 2. 改善方策等が策定されているが十分ではない <コメント> ●財政的な補助や研究者との連携などの対策他に、研究者の時間確保についても考慮されてはどうでしょうか。 ●令和5年度の目標値の記載が、SCI論文数が不足した令和4年度と同様であり、目標の修正を検討願います。	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) <コメント>			
中期計画(8)-2 試験研究炉の研究分野に係るセミナー等の開催回数 ②回研究分野の連携協定数 教養キャンパス運営管理課	(8)-2-B 試験研究炉の研究分野に係るセミナー等の開催回数 ②回研究分野の連携協定数 教養キャンパス運営管理課	基準値:- 対象期間:-	目標値:①2回以上 ②3件以上 対象期間:①R4～R9の毎年度 ②R4～R9の合計	【目標値】①試験研究炉の研究分野に関わるセミナーなどの開催回数:年間2回 【実施予定】もじゅ跡地に建設予定の試験研究炉の活用によるイノベーション研究を進める体制を構築するため①学内/学外に対する研究ニーズ掘り起こしおよび成果報告のセミナーを開催②外部機関との連携強化による拠点形成に向けた基盤整備	【実績値】①セミナーの実施回数 7回 ②協定数 0件 (R5.5に協定2件を予定) 【実施状況・成果】 ・学内での中性子を利用できる人材育成のために中性子の医学応用(2022.9.1)、高分子の中性子散乱・解析(2022.12.156)をテーマとしたセミナー(2件) 計54名聴講を実施した。また、福井県と連携し医学部(中性子の医学利用:2022.9.6、2022.12.21)、教育学部(試験研究炉でできること:2022.9.7)の学生向けのセミナー、福井県嶺南地域の高校生(2022.8.9、2022.10.22)を対象に試験研究炉の基礎的な内容でそれぞれセミナーを実施し、合計252名が聴講した。 ・もじゅ跡地に設置する新試験研究炉について、概念設計に引き続き詳細設計に移っても協力・連携することを明文化し、事業を円滑に進めていくため、原子力機構、京都大学複合原子力科学研究所と、連携の在り方、地域との連携体制の構築、原子力研究の推進、人材育成、産業利用の振興等の分野において協力を図るための協力協定の締結について検討し、令和5年5月に締結式を行うことを決定した。 【自己点検・評価】 ① ② ③	【目標値】①試験研究炉の研究分野に関わるセミナーなどの開催回数:年間2回 【実施予定】もじゅ跡地に建設予定の試験研究炉の活用によるイノベーション研究を進める体制を構築するため①学内/学外に対する研究ニーズ掘り起こしおよび成果報告のセミナーを開催②外部機関との連携強化による拠点形成に向けた基盤整備	教養キャンパス運営管理課	①評価指標の達成状況 2. 改善方策等が策定されているが十分ではない <コメント> ●財政的な補助や研究者との連携などの対策他に、研究者の時間確保についても考慮されてはどうでしょうか。 ●令和5年度の目標値の記載が、SCI論文数が不足した令和4年度と同様であり、目標の修正を検討願います。	②改善方策等の策定状況 2. 改善方策等が策定されているが十分ではない <コメント> ●財政的な補助や研究者との連携などの対策他に、研究者の時間確保についても考慮されてはどうでしょうか。 ●令和5年度の目標値の記載が、SCI論文数が不足した令和4年度と同様であり、目標の修正を検討願います。	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) <コメント>			

<p>中期計画(8)-2</p>				<p>中期計画の達成状況</p> <p>教習キャンパス運営管理課</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和4年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>【進捗状況】達成度・II</p> <p>【達成状況・成果】</p> <p>○軽水炉および高速炉の安全性向上、原子力防災・危機管理、原子力施設の廃止措置、放射性廃棄物の減容および毒性の低減等に関して主な取り組みは以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温の溶融核燃料構造測定EXFS手法を共同研究で開発し特許出願中 ・次世代エネルギー研究・開発機構と経済産業省「社会的要請に応える革新的原子力技術開発支援事業」の一環として溶融塩炉開発プロジェクトを実施 ・九州大、原子力機構、東京都市大、東工大らと文科省原子力システム研究開発事業で次世代原子炉安全デバイス燃料プロジェクトを実施 ・過酷事故時の格納容器内熱水力学挙動の大型模擬装置CIGMAにおける熱対流解析において数値流体力学コードの計算精度を向上 ・原子炉の高経年化対策の一環として超音波による照射脆化検出の検討を熟時効模擬材を用いて改良策を実施 ・モニタリングを用いた原子炉稼働状況モニターリング検出器の大型化方策検討を実施 ・若狭湾エネルギーセンターとの共同による電力委託事業で原子炉材料の照射劣化機構研究を実施 ・文科省原子力システム研究開発事業で、高速炉開発に関して日本原子力研究開発機構とベント半径方向の熱伝導度評価技術を開発 ・日本原子力研究開発機構の福島炉に関する英知事業として、阪大、東工大、東北大と燃料デブリの生成機構や圧力容器破損メカニズムの解明研究を実施 ・溶融時の核燃料の構造測定に関し、3000K程度における溶融物のXAFS構造測定手法を、世界で初めて東北大・産総研・原子力機構と共同で開発し特許を出願 ・新型炉の一つとして期待されている溶融塩炉開発プロジェクトを次世代エネルギー研究・開発機構、東工大、産中研、同志社大と共同で推進し、経済産業省令和4年度「社会的要請に応える革新的原子力技術開発支援事業」の一環として実施 ・次世代原子炉の安全性を向上させる安全デバイス燃料のプロジェクトを文科省原子力システム研究開発事業の一貫として、九州大、原子力機構、東京都市大、東工大とともに実施し国際会議で発表 ・原子力分野以外に工学系部門、産学官連携本部および高エネルギー医学研究センターの教員がメンバーとなり「試験研究炉における中性子科学研究の調査研究」を課題とする研究ファーム(パイロットファーム)を登録 <p>【特記事項】</p> <p>日本原子力学会材料部会BestFigure賞受賞(2023年3月)</p> <p>日本鉄鋼協会・日本金属学会 北陸信越支部令和5年度連合講演会優秀学生賞受賞</p> <p>関西原子力懇談会2022年度原子力関係科学技術の基礎的研究の動向調査委員会 最優秀研究発表賞(2022年10月)</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>④達成度</p> <p>II:計画を十分には実施していない</p> <p><コメント></p> <p>○進捗状況に記載されている内容が目標や基準とどのように関係しているかがよく分りません。連携の基となる取組を記載したということでしょうか。</p> <p>○軽水炉および高速炉の安全性向上、原子力防災・危機管理、原子力施設の廃止措置、放射性廃棄物の減容および毒性の低減等に関する先進的研究への取組はなされているが、学術誌への日・英語論文掲載数について上記の目標を達成できていない(実績値15<目標値23)。</p> <p>○進捗状況欄には、個々の実施内容ではなく、目標への全体的な近づく具合を書くべきではないか。</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無</p> <p>2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある</p> <p><コメント></p> <p>○3件の受賞があり、今後の発展が期待できる。</p> <p>○セミナーの実施回数、目標値を超えて積極的に開催されている(実績値7<目標値2)。</p> <p>○新試験研究炉に係る今後の取組が「優れた実績・成果」に繋がるかと期待できる。</p>
<p>中期計画(8)-3</p>	<p>8)-3-A</p> <p>病態画像研究に関する学術誌への英文論文掲載数</p>	<p>病態画像研究に関する学術誌への英文論文掲載数</p>	<p>基準値:160件</p> <p>対象期間:H28～R2平均値×6年間分</p>	<p>目標値:基準値以上</p> <p>対象期間:R4～R9の合計</p>	<p>【目標値】病態画像研究に関する英文論文30件</p> <p>【実績値】49件</p> <p>【実施予定】高エネルギー医学研究センターや学外の画像医学研究者との共同研究を促進し、病態画像医学研究に関する成果(英文論文数)に繋げるために、英文論文校正支援や論文数に応じた教員へのインセンティブ等の支援策を検討し、実行する。</p> <p>【自己点検・評価】</p> <p>① ② ③</p>	<p>【目標値】病態画像研究に関する英文論文30件(累計60件)</p> <p>【実績値】49件</p> <p>【実施予定】第4期中間報告に向けて、これまでの研究成果(英文論文数)の分析と検証を行い、効果的な支援策を引き続き実施するとともに、これを踏まえた改善策を検討、実施する。</p>	<p>①評価指標の達成状況</p> <p>1. 全ての評価指標が目標値を達成している</p> <p><コメント></p> <p>●計画には「画像研究基盤を、これまでに実績のある子どもの発達の発達研究センター等に加え多様な医学研究分野に活用」とあるが、【実施状況・成果】にはそれについてどのような取組を実施したのかもわかるように記載願いたい。</p>	<p>②改善方策等の策定状況</p> <p>4. 該当なし(達成済み)</p> <p><コメント></p>	<p>③前年度未達成の改善状況</p> <p>1. 評価指標が改善(達成)されている</p> <p>2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない</p> <p>3. 評価指標が改善(達成)されていない</p> <p>4. 該当なし(達成済み)</p> <p><コメント></p>
<p>中期計画(8)-3</p>				<p>中期計画の達成状況</p> <p>松岡キャンパス研究推進課</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和4年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>【進捗状況】達成度・IV</p> <p>【達成状況・成果】</p> <p>目標とする30件を超える48件の英文論文掲載数を達成した。特に神経(脳)分野における病態画像研究が推進され、国内外の大学・研究所等との共同研究により得られた英文論文は、IF値の高い雑誌に掲載された。</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>④達成度</p> <p>III:計画を十分に実施している</p> <p><コメント></p> <p>●IF値及び掲載誌名について、代位的なものも追記してください。</p> <p>●【達成状況・成果】の中に、優れた成果を言えるものを具体的に列記してください。</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無</p> <p>2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある</p> <p><コメント></p> <p>○IF値の高い雑誌がQ1に分類されるのでしたら、その旨記載された方がより成果が分りやすくなると思います。</p> <p>○目標とする30件を超える48件の英文論文掲載数を達成した(実績値48<目標値30)。特に神経(脳)分野における病態画像研究が推進され、国内外の大学・研究所等との共同研究により得られた英文論文は、IF値の高い雑誌に掲載された。</p> <p>○研究成果としての論文数は目標値を大きく上回っているが、IF値ではなく、引用数、トップ10論文など質の高い雑誌であることを示す指標についても同様にフォロー願います。</p>
<p>中期計画(8)-4</p>	<p>8)-4-A</p> <p>地域イノベーション創出指数(※)：第3期(176)より増加(第4期の平均)</p> <p>※ 地域イノベーション創出指数は、産業化研究特区等の研究センター活動への参画研究者数+特許出願数+特許権実施件数。</p> <p>研究推進課</p>	<p>地域イノベーション創出指数</p>	<p>基準値:176</p> <p>対象期間:H28～R2の平均値</p>	<p>目標値:基準値以上</p> <p>対象期間:R4～R9の平均</p>	<p>【目標値】185(令和4年度)</p> <p>【実績値】225</p> <p>【実施予定】・地域イノベーションを創出し、研究における投資・回収をサイクルさせるために、社会実装研究センターにスペーステクノロジー研究ユニット、オープンイノベーション研究ユニットを設置し、参画研究者数の増員を検討する。</p> <p>また、上記研究ユニットの設置により、地域企業やTLO等の外部機関との連携を強化し、企業との共同出願、実施等件数を増加させる。</p> <p>・既存の産業化研究特区等のセンターの兼任教員の増員を検討する。</p> <p>【自己点検・評価】</p> <p>① ② ③</p>	<p>【目標値】185(令和5年度)</p> <p>【実施予定】・地域イノベーションを創出し、研究における投資・回収をサイクルさせるために、社会実装研究センターにスペーステクノロジー研究ユニット、オープンイノベーション研究ユニットを設置し、参画研究者数の増員を検討する。</p> <p>また、上記研究ユニットの設置により、地域企業やTLO等の外部機関との連携を強化し、企業との共同出願、実施等件数を増加させる。</p> <p>・既存の産業化研究特区等のセンターの兼任教員の増員を検討する。</p>	<p>①評価指標の達成状況</p> <p>1. 全ての評価指標が目標値を達成している</p> <p><コメント></p> <p>○件数を増加させるという記述に対応して、「実施状況・成果」中にも件数の表示があると、より明瞭に理解できるのではないか。</p> <p>●【実施状況・成果】に「大学発ベンチャー等との一体的な事業化推進」に取組んだこと(衛星と光学エンジン?)、また取組んだ結果はどうだったのか?、がわかるように追記いただきたい。</p> <p>●衛星と光学エンジンだけが「当初目標値の達成」に貢献したのだろうか。当初目標値の達成に貢献した取組で他に大きなものがあれば追記いただきたい。</p> <p>●地域イノベーション創出指数について、目標値は第3期を上回ることであり、本学の産学官の実績を鑑みると、是非、大幅に上回るよう、学内の目標値を上方修正してほしいか。</p>	<p>②改善方策等の策定状況</p> <p>4. 該当なし(達成済み)</p> <p><コメント></p>	<p>③前年度未達成の改善状況</p> <p>1. 評価指標が改善(達成)されている</p> <p>2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない</p> <p>3. 評価指標が改善(達成)されていない</p> <p>4. 該当なし(達成済み)</p> <p><コメント></p>

<p>中期計画(8)-4</p>				<p>中期計画の達成状況 研究推進課</p>	<p>【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>【進捗状況】達成度・IV 【達成状況・成果】 ・令和4年1月に、産学官連携本部内に「附属社会実装研究センター」を設置し、小型人工衛星や超小型光学エンジンに関するユニットを設け、国等の競争的研究費を原資とする研究成果の社会提供を進めた。大学発ベンチャー等との一体的な事業化推進にも取組み、URAの伴走による研究開発マネジメントや関連企業との交渉、知的財産管理・活用支援などについて、これまで以上の効率的・効果的な支援を可能とし、「稼ぐ力」の向上に努めた結果、当初目標値を達成した。 ・地域において、学内外のカーボンニュートラルイノベーションを把握、これらを有機的に結び付けてイノベーション創出から社会実装までを研究者に寄り添いながら薄くことを目的とした「カーボンニュートラル実施本部」の設置を検討し、令和5年4月1日に設置することで決定した。</p>	<p>【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>④達成度 III.計画を十分に実施している <コメント> ●兼任教員は増員されたのでしょうか？状況がわかるように追記ください。</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無 2.優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○「カーボンニュートラル」は古い言葉ですが、時流に乗って良いと思います。 ○「カーボンニュートラル」は古い言葉ですが、時流に乗って良いと思います。 ●地域イノベーション創出指数の向上だけでは優れた実績・成果とは認められにくいかもしれない。計画に掲げている「分野横断型チーム」が成果の社会実装を行った事例が必要ではないか。そうしたことがわかるように記載いただきたい。</p>
<p>中期計画(8)-5 がん、神経、免疫・アレルギー・炎症性疾患等の先端的・実践的な医学研究に基づいた新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指し、各分野の根幹をなす、発がん・転移に関わる分子細胞学的研究と臨床応用、分子から個体レベルの神経科学の展開と脳神経疾患研究との融合、アレルギー・炎症性疾患の分子病態研究と新規治療法の開発等に注力するとともに、超高齢化社会に対応する地域医療研究との相補的発展を実現する。 松岡キャンパス研究推進課</p>	<p>(8)-5-A 当該分野における学術誌への英文論文掲載数：第3期(1,756件)より増加(第4期の合計) 松岡キャンパス研究推進課</p>	<p>当該分野における学術誌への英文論文掲載数 基準値:1,756件 対象期間:H28～R2平均値×6年間分</p>	<p>目標値:基準値以上 対象期間:R4～R9の合計</p>	<p>【目標値】英文論文数300件 【実施予定】あらゆる分野の医学研究における研究成果(英文論文数)の向上を図るために、医学研究推進室及び医学研究支援センターが連携して、英文論文校正支援や論文数に応じた教員へのインセンティブ等の支援策を検討し、実施する。</p>	<p>【実績値】312件 【実施状況・成果】あらゆる分野の医学研究における研究成果(英文論文数)の向上を図るために、医学研究推進室及び医学研究支援センターが連携して、英文論文校正支援や論文数に応じた教員へのインセンティブ等の支援を実施し、目標値300件を超える312件を達成した。 【自己点検・評価】 ① ② ③</p>	<p>【目標値】英文論文数300件(累計600件) 【実施予定】前年度に実施した研究成果(英文論文数)の向上を目指した支援策の効果等を検証し、効果的な支援策を引き続き実施するとともに、これを踏まえた改善策を検討、実施する。</p>	<p>松岡キャンパス研究推進課 ①評価指標の達成状況 1.全ての評価指標が目標値を達成している <コメント></p>	<p>②改善方策等の策定状況 4.該当なし(達成済み) <コメント></p> <p>③前年度未達成の改善状況 1.評価指標が改善(達成)されている 2.一部の評価指標が改善(達成)されていない 3.評価指標が改善(達成)されていない 4.該当なし(達成済み) <コメント></p>	
	<p>(8)-5-B 当該分野における研究成果の具体化件数：第3期(92件)より増加(第4期の合計) 松岡キャンパス研究推進課</p>	<p>当該分野における研究成果の具体化件数 基準値:92件 対象期間:H28～R2平均値×6年間分</p>	<p>目標値:基準値以上 対象期間:R4～R9の合計</p>	<p>【目標値】研究成果の具体化件数(特許出願数及び特許の権利化件数の合計)16件 【実施予定】あらゆる分野の医学研究における具体化件数を向上させるために、産学官連携本部やURAと連携して、知財に関するセミナーの実施や、知財相談の強化を図る。</p>	<p>【実績値】特許出願数7件、特許権利化件数9件、計16件 【実施状況・成果】毎月、松岡キャンパスで産学官連携本部知的財産・技術移転部による「知財よろず相談室」を開設し、特許を含めた知的財産の取扱いなどの考え方や、知財教育、医工連携の相談などを受け付けた。令和4年度は計57件の相談があり、うち、特許出願に関する相談は32件(56%)であった。M-URAについては、研究成果に繋がるよう、教員からの各種相談事への対応や教員と企業等との橋渡し役を行うなどの研究支援を行っている。令和4年度は、特許出願数7件、特許の権利化件数9件の計16件となり、目標値の16件を達成した。 【自己点検・評価】 ① ② ③</p>	<p>【目標値】研究成果の具体化件数(特許出願数及び特許の権利化件数の合計)16件(累計32件) 【実施予定】あらゆる分野の医学研究における具体化件数を向上させるために、産学官連携本部やURAと連携して、知財に関するセミナーの実施や知財相談の強化を図る。</p>	<p>松岡キャンパス研究推進課</p>		
<p>中期計画(8)-5</p>				<p>中期計画の達成状況 松岡キャンパス研究推進課</p>	<p>【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>【進捗状況】達成度・III 【達成状況・成果】 ・医学研究推進室及び医学研究支援センターが連携して、英文論文校正支援や論文数に応じた教員へのインセンティブ等の支援を実施したことにより、目標値300件を超える312件を達成した。 ・産学官連携本部知的財産・技術移転部やM-URAと連携して、知財に関する相談や、企業との橋渡しの強化が図られ、目標値16件を達成した。</p>	<p>【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>④達成度 III.計画を十分に実施している <コメント> ○研究成果の具体化件数は目標値には達しているが、今後の発展にむけた工夫が望まれる(実績値16/目標値16)。 ○具体的な優れた研究成果があれば【達成状況・成果】欄に列記してください。</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無 2.優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○知財部やURAをさらに積極的に活用することで特許数の増加、強い特許の出願を目指してください。 ○第3期実績をもとに設定された英文論文数の目標値を越えており、本取組の継続によって今後の更なる成果が期待される(実績値312/目標値300)。 ○研究成果としての論文数は目標値を大きく上回っているが、引用数、トップ10論文など質の高い雑誌であることを示す指標についても同様にフォロー願います。</p>

第4期 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価シート

【その他】

【参考】自己点検・評価結果のコメントについて
 ○(丸) : 評価結果、評価者による所感、今後の取組の参考としてのコメントなど。
 ●(黒丸) : 部局に具体の対応や検討を依頼するもの。

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和4年度		令和5年度		取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	実施状況	実施予定	実施状況		①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況
中期目標(9) 学部・研究科等と連携し、実践的な実習・研修の場を提供するとともに、全国あるいは地域における先導的な教育モデルを開発し、その成果を展開すること、PBL (Project-Based Learning) とインクルージョンとが融合した先導的な教育モデルの開発研究を行うとともに、教育学部・教職大学院と連携した教員研修機能の強化・充実を目指す。(附属学校)	中期計画(9)-1 新学習指導要領・「令和の日本型教育」・OECD Education2030が示す学習者主体の学びと、現代社会が求めるダイバーシティ対応能力の育成を実現すべく、令和4年度に義務教育学校と幼稚園で、発達障害児の特別入学枠を設けた上で、インクルージョンの取組を12年一貫型カリキュラムとして位置付けたPBL (Project-Based Learning) とインクルージョンとが融合した先導的な教育モデルの開発研究を行うとともに、教育学部・教職大学院と連携した教員研修機能の強化・充実を目指す。	9)-1-A 義務教育学校における発達障害児を含めたPBLの実施時間数	①義務教育学校における発達障害児を含めたPBLの実施時間数 ②幼稚園における発達障害児を含めた「PBLに繋がる遊びの時間」数	基準値:-	目標値:①-1 100時間以上(前期課程) ①-2 70時間以上(後期課程) ②150時間以上	【目標値】 ①-1 100時間以上(前期課程) ①-2 70時間以上(後期課程) ②150時間以上 【実施予定】 ・随時学習効果の検証を行い、附属義務教育学校(前期・後期課程)及び附属幼稚園において、発達障害児を含めたPBLを実施する。	【実績値】 ①-1 105~136時間 ①-2 90~105時間 ②386~388時間 ①-1 実績内訳:1年 136時間(生活科) 2年 130時間(生活科) 3年 112時間 4年 125時間 5年 105時間 6年 115時間 ①-2 実績内訳:7年 90時間 8年 94時間 9年 105時間 ②-2 実績内訳:3歳児 388時間 4歳児 388時間 5歳児 386時間	【目標値】 ①-1 100時間以上(前期課程) ①-2 70時間以上(後期課程) ②150時間以上 【実施予定】 ・随時学習効果の検証を行い、附属義務教育学校(前期・後期課程)及び附属幼稚園において、発達障害児を含めたPBLを実施する。	人文社会系運営管理課(教育)	①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している <コメント> ●9)-1-Aについては、実施予定に書かれている「学習効果の検証が大切だと思う。その取組実績を追記いただきたい。 ●9)-1-Bにはタイフーン被害は関係しないのか？ ●計画には「令和4年度に義務教育学校と幼稚園で、発達障害児の特別入学枠を設けた」とあり、9)-1-Bの【実施状況・成果】には「令和4年度から特別入学枠設置により、…」と書かれているが、義務教育学校と幼稚園の両方で設置したのか、志願状況・入学状況はどうだったのかわからないのでそれらがわかるように追記いただきたい(社会コースに応じたこのエビデンスとしてそうしたデータもあればよい)。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	
		9)-1-B 教育学部・教職大学院・医療等との連携件数:第3期(138件)より20%以上増加(第4期の合計)	(保護者を交えた支援会議)の実施件数 (R2より開始)	基準値:138件	目標値:基準値より20%増加 対象期間:R4~R9の合計	【目標値】 30件 【実施予定】 ・総合教職開発本部インクルーシブ教育部「教育相談室」において、学校園管理職、特別支援コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラー等と連携し、保護者を交えた支援会議を実施する。	【実績値】 保護者を交えた支援会議 34件 【実施状況・成果】 教育相談室「もれび」が有効に機能して、各校園の特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、教職大学院スタッフの連絡調整がさらに緊密になり、総合的で実質的な教育相談活動が実施でき、これらの取組により、インクルーシブ教育の機能が向上した。 令和4年度から特別入学枠設置により、ギフト型発達障害児を含むインクルーシブ教育の取組がさらに深化した。	【目標値】 30件(累計60件) 【実施予定】 ・引き続き、「教育相談室」において、学校園管理職、特別支援コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラー等と連携し、保護者を交えた支援会議を実施する。	人文社会系運営管理課(教育)	④達成度 III.計画を十分に実施している <コメント> ●中期計画にあげた「教育学部・教職大学院と連携した教員研修機能の強化・充実」に関する取組とその成果についても追記ください。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○対面形式で教育研究会を開催したことより議論が深まったと推察される。 ○「PBL型学習の授業時間数」及び「保護者を交えた支援会議」数については、想定目標値以上となっている(実績値34)目標値30)。 ○当該計画は本学の定めた部分であり、優れた実績を期待している。その際、優れた実績をどのように見せるのかもいまのうちから検討したい。 ○「先導的な教育モデルの研究開発」の部分で優れた実績・成果に期待したい。		
		9)-1-C 附属学園に所属する教員の教職大学院への進学者数	附属学園に所属する教員の教職大学院への進学者数:第3期(18名)より増加(第4期の合計)	基準値:18名	目標値:基準値以上 対象期間:R4~R9の合計	【目標値】 3名 【実施予定】 ・第3期に引き続き、教師教育の一環として、附属学園所属教員の教職大学院への進学を推進する。	【実績値】 義務教育学校前期課程 1名 義務教育学校後期課程 1名 特別支援学校 1名 合計 3名 【実施状況・成果】 附属学園所属教員の教職大学院への進学者数を3名確保することで、目標値を達成した。	【目標値】 3名(累計6名) 【実施予定】 ・引き続き、教師教育の一環として、附属学園所属教員の教職大学院への進学を推進する。	人文社会系運営管理課(教育)	④達成度 III.計画を十分に実施している <コメント> ●中期計画にあげた「教育学部・教職大学院と連携した教員研修機能の強化・充実」に関する取組とその成果についても追記ください。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○対面形式で教育研究会を開催したことより議論が深まったと推察される。 ○「PBL型学習の授業時間数」及び「保護者を交えた支援会議」数については、想定目標値以上となっている(実績値34)目標値30)。 ○当該計画は本学の定めた部分であり、優れた実績を期待している。その際、優れた実績をどのように見せるのかもいまのうちから検討したい。 ○「先導的な教育モデルの研究開発」の部分で優れた実績・成果に期待したい。		
中期計画(9)-1	中期計画の達成状況 人文社会系運営管理課(教育)	【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】 達成度 IV 【達成状況・成果】 「PBL型学習の授業時間数」及び「保護者を交えた支援会議」数については、想定目標値以上となっている。特に、「保護者を交えた支援会議」の内容については、令和4年度から特別入学枠設置により、ギフト型発達障害児を含むインクルーシブ教育の深化を反映している。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】	④達成度 III.計画を十分に実施している <コメント> ●中期計画にあげた「教育学部・教職大学院と連携した教員研修機能の強化・充実」に関する取組とその成果についても追記ください。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○対面形式で教育研究会を開催したことより議論が深まったと推察される。 ○「PBL型学習の授業時間数」及び「保護者を交えた支援会議」数については、想定目標値以上となっている(実績値34)目標値30)。 ○当該計画は本学の定めた部分であり、優れた実績を期待している。その際、優れた実績をどのように見せるのかもいまのうちから検討したい。 ○「先導的な教育モデルの研究開発」の部分で優れた実績・成果に期待したい。							
中期目標(10) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かした、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となる活躍できる医療人を養成する。(附属病院)	中期計画(10)-1 医学系分野において研究関係者のリテラシー向上によって透明性の確保された高度で質の高い医学研究の遂行と新規医療技術の研究開発を目指し、特定機能病院長の責務として研究者自身が倫理性及び科学的合理性を主体的に修得するための定期的な講習会開催や相談・支援体制の整備を行う。 松岡キャンパス研究推進課	10)-1-A 研究者等を対象とした多様なテーマによる臨床研究に関するセミナー・講習会及び研究デザイン設計を含む総合的な統計相談件数	①研究者等を対象とした多様なテーマによる臨床研究に関するセミナー・講習会の実施件数 ②研究デザイン設計を含む総合的な統計相談件数	基準値:-	目標値:①12回以上 ②12回以上 対象期間:①②R4~R9の毎年度	【目標値】 ①臨床研究に関するセミナー・講習会の実施回数12回以上 ②総合的な統計相談回数12回以上 【実施予定】 ①研究者等を対象とした、プレゼンテーション・英文論文執筆・データマネージャー等の多様なテーマによる臨床研究に関するセミナー・講習会を月1回以上開催する。 ②研究デザイン設計、統計解析方法を含む総合的な統計相談を毎月1回以上実施する。	【実績値】 ①セミナー・講習会22回、②統計相談31回(相談件数53件) 【達成状況・成果】 「外部資金獲得法」、「データマネジメント」、「モニタリング講習」、「英文論文執筆」及び「利益相反」等をテーマとした臨床研究に関するセミナー・講習会を22回開催し、目標値12回以上を達成した。臨床研究実施に必要な情報を積極的に提供し、研究支援を行った。 ②医学研究における統計相談を31回(相談件数は53件)実施し、目標値12回以上を達成した。研究立案から、デザイン設計、症例数設定、解析方法など統計に関する様々な事項について指導・助言することで、より適正な研究を実施することができ、研究業績の論文執筆に繋げることができた。	【目標値】 ①臨床研究に関するセミナー・講習会の実施回数12回以上 ②総合的な統計相談回数12回以上 【実施予定】 ①研究者等を対象とした多様なテーマによる臨床研究に関するセミナー・講習会を月1回以上開催する。 ②研究デザイン設計、統計解析方法を含む総合的な統計相談を毎月1回以上実施する。	松岡キャンパス研究推進課	①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している <コメント> ●再指標とも当該年度の目標値を大幅に上回っており、次年度以降の目標値を上向き修正してはいいがどうか。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	
		中期計画(10)-1	中期計画の達成状況 松岡キャンパス研究推進課	【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】 達成度 IV 【達成状況・成果】 臨床研究に関する基礎から応用までの広い範囲を対象としたセミナー・講習会を実施し、加えて大学院生も対象とした総合的な統計相談に拡充するなどの支援を実施し、目標値各12回以上を達成した。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】	④達成度 III.計画を十分に実施している <コメント> ○令和5年度の目標値12回以上:12回以上について、令和4年度の実績値(22回:31回)に比べて低値とするに理由が必要かと思われる。	⑤優れた実績・成果等の有無 1. 優れた実績・成果が認められる取組等がある <コメント> ○臨床研究に関する基礎から応用までの広い範囲を対象としたセミナー・講習会を実施し(実績値22)目標値12)を加えて大学院生も対象とした総合的な統計相談に拡充するなどの支援を実施した点(実績値31)目標値12)は優れている。 ○中期計画では「高度で質の高い医学研究の遂行と新規医療技術の研究開発を目指す」としているが、当該計画によってこれが達成できたとするエビデンス(受講者の公表も含め)を検討ください。 ○講習会と相談・支援体制について、「参加者・利用者の満足度が高く、質の高い論文の出版につながっている」というストーリーが描けるといので、満足度の調査、アンケートを受けて出版された質の高い論文の把握を進めるといのではないかと。					

<p>【中期計画(10)-2】 地域医療人の育成に貢献してきた実績を鑑み、更に高度かつ専門的な能力向上を図りつつ、地域へ発信するため、リモートにも対応できるハイブリッドな研修方法を取り入れ、シミュレーターを活用した臨床研修の実施に加え、卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラムを実施する。</p>	<p>(10)-2-A シミュレーターを活用した臨床研修の実施回数：30回以上(第4期の毎年度) 経営企画課</p>	<p>シミュレーターを活用した臨床研修の実施回数 基準値:- 対象期間:-</p>	<p>基準値:- 対象期間:-</p>	<p>目標値:30回以上 対象期間:R4~R9の毎年度</p>	<p>【目標値】30回以上 【実施予定】医療人の高度かつ専門的な能力向上を図るため、福井メディカルシミュレーションセンターで福井県内・福井大学の医療従事者を対象としたシミュレーター臨床教育を展開し、シミュレーターを活用した臨床研修、小児科実技勉強会(新生児蘇生法講習会)や人工呼吸器・ECMO講習会など救急医療、災害にも対応できるセミナー、講習会、ハイブリッド形式の勉強会を年30回以上実施する。</p>	<p>【実績値】48回 【実施状況・成果】シミュレーターを活用した臨床研修、小児科実技勉強会(新生児蘇生法講習会)や人工呼吸器・ECMO講習会など救急医療、災害にも対応できるセミナー、講習会、ハイブリッド形式の勉強会を実施し、延べ883名の参加があり、地域医療や先端的医療を担う医療人の養成に成果をあげている。 【自己点検・評価】①1 ② ③</p>	<p>【目標値】30回以上 【実施予定】医療人の高度かつ専門的な能力向上を図るため、福井メディカルシミュレーションセンターで福井県内・福井大学の医療従事者を対象としたシミュレーター臨床教育を展開し、シミュレーターを活用した臨床研修、小児科実技勉強会(新生児蘇生法講習会)や人工呼吸器・ECMO講習会など救急医療、災害にも対応できるセミナー、講習会、ハイブリッド形式の勉強会を年30回以上実施する。</p>	<p>経営企画課</p>	<p>①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している <コメント></p>	<p>②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント></p>	<p>③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) <コメント></p>	
<p>経営企画課</p>	<p>(10)-2-B 卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラム数：3回以上(第4期の毎年度) 経営企画課</p>	<p>卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラム数 基準値:- 対象期間:-</p>	<p>基準値:- 対象期間:-</p>	<p>目標値:3回以上 対象期間:R4~R9の毎年度</p>	<p>【目標値】3プログラム以上 【実施予定】卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラム、Post-CC-OSCEトリアルコースや基本的診療技能実習などの実施を年3回以上に増加させる。</p>	<p>【実績値】4プログラム(延べ19回実施) 【実施状況・成果】卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラムとして、「Post-CC-OSCEトリアルコース」「OSCEトリアルコース」「基本的診療技能実習」「学生実技(意識障害・ショック)(胸痛・失心)(被ばく)」を開催し、延べ1,347名の参加があった。 【自己点検・評価】①1 ② ③</p>	<p>【目標値】3プログラム以上 【実施予定】卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラム、Post-CC-OSCEトリアルコースや基本的診療技能実習などの実施を年3回以上に増加させる。</p>	<p>経営企画課</p>	<p>④達成度 III. 計画を十分に実施している <コメント> ○令和5年度の目標値30回以上;3回以上について、令和4年度の実績値(48回;19回)に比べて低値とすることに理由が必要かと思われる。</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○シミュレーターを活用した臨床研修の実施回数(実績値48)目標値30)、卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラム数(実績値19)目標値3)は優れている。 ●中期計画に「更に高度かつ専門的な能力向上を図りつつ、地域へ発信」を謳っており、上記の取組の成果を分るよう追記していただきたい。例えば、受講者の人数の増加、高評価等。 ○「受講者の満足度が高く、多くの優れた医療人の育成につながっている」というストーリーが描けるといので、満足度の調査、受講者のその後の活躍状況の把握を進めるとよいのではないかと。</p>		
<p>【中期計画(10)-2】</p>	<p>経営企画課</p>	<p>中期計画の達成状況</p>	<p>【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>【達成状況・成果】シミュレーターを活用した臨床研修、小児科実技勉強会(新生児蘇生法講習会)や人工呼吸器・ECMO講習会など救急医療、災害にも対応できるセミナー、講習会、ハイブリッド形式の勉強会を48回実施し、延べ883名の参加があった。また、卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラム、Post-CC-OSCEトリアルコース、基本的診療技能実習、学生実技(意識障害・ショック)、学生実技(胸痛・失心)、学生実技(被ばく)を19回開催し、1,347名の参加があった。これらの教育・研修プログラムに多くの医療人の参加があり、地域医療や先端的医療を担う医療人の養成に成果を上げている。</p>	<p>【達成状況・成果】シミュレーターを活用した臨床研修、小児科実技勉強会(新生児蘇生法講習会)や人工呼吸器・ECMO講習会など救急医療、災害にも対応できるセミナー、講習会、ハイブリッド形式の勉強会を48回実施し、延べ883名の参加があった。また、卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラム、Post-CC-OSCEトリアルコース、基本的診療技能実習、学生実技(意識障害・ショック)、学生実技(胸痛・失心)、学生実技(被ばく)を19回開催し、1,347名の参加があった。これらの教育・研修プログラムに多くの医療人の参加があり、地域医療や先端的医療を担う医療人の養成に成果を上げている。</p>	<p>【達成状況・成果】シミュレーターを活用した臨床研修、小児科実技勉強会(新生児蘇生法講習会)や人工呼吸器・ECMO講習会など救急医療、災害にも対応できるセミナー、講習会、ハイブリッド形式の勉強会を48回実施し、延べ883名の参加があった。また、卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラム、Post-CC-OSCEトリアルコース、基本的診療技能実習、学生実技(意識障害・ショック)、学生実技(胸痛・失心)、学生実技(被ばく)を19回開催し、1,347名の参加があった。これらの教育・研修プログラムに多くの医療人の参加があり、地域医療や先端的医療を担う医療人の養成に成果を上げている。</p>	<p>【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>					

<p>中期計画 (10)-3</p> <p>特定機能病院に求められる、保険診療への発展を視野に入れた先端医療を開発し、適正に評価して広く地域へ提供するという一連プロセスの更なる活性化を目指し、これまでの取組において特に研究成果が蓄積している、難治がんの病態分析に基づいた集学的な進歩的治療法の開発、炎症・アレルギー疾患の病因解析に立脚した分子標的治療への応用、循環器・脳神経疾患等に対する分子生物学的な予防・早期診断法の開発と治療応用を加速し、更に新たな取組として、高度な不妊治療を実施できる福井県完結型の中核施設を設置、がん・遺伝診療に対する診療体制の拡充を実現する。</p> <p>経営企画課</p>	<p>(10)-3-A</p> <p>臨床研究の新規実施件数</p> <p>臨床研究の新規実施件数：第3期 (1,205件) より増加 (第4期の合計)</p> <p>松岡キャンパス研究推進課</p>	<p>臨床研究の新規実施件数</p> <p>基準値：1,205件</p> <p>対象期間：H28～R2の平均値×6年間分</p>	<p>目標値：基準値以上</p> <p>対象期間：R4～R9の合計</p>	<p>【目標値】臨床研究の新規実施件数 (倫理審査委員会、認定臨床研究審査委員会及び治験審査委員会の承認を受けて実施される臨床研究の新規実施件数の合計) 180件</p> <p>【実施予定】企業治験、医師主導治験及び臨床研究等の新規研究の増加に向けて、医学研究支援センターの教員及びCRC職員等の支援体制を強化するとともに、研究者へのインセンティブなどの支援策を検討し、実施できるものから開始する。</p>	<p>【実績値】226件</p> <p>【実施状況・成果】臨床研究の新規実施件数は226件(倫理審査委員会承認された臨床研究206件、特定臨床研究7件、治験13件)で、臨床研究の増加により、がん、炎症・アレルギー疾患及び循環器・脳神経疾患等に対する予防・診断方法の開発、治療方法への応用等が加速された。医学研究支援センターの組織体制の見直しや専門職の確保等の支援体制の強化を図るために、治験等件数の増加及び治験経費の収入増を目指して治験等算定要領の算定基準の改正を行った。また、これにより、治験実施研究者へのインセンティブが強化された。</p> <p>【自己点検・評価】① ② ③</p>	<p>【目標値】226件</p> <p>【実施状況・成果】臨床研究の新規実施件数は226件(倫理審査委員会承認された臨床研究206件、特定臨床研究7件、治験13件)で、臨床研究の増加により、がん、炎症・アレルギー疾患及び循環器・脳神経疾患等に対する予防・診断方法の開発、治療方法への応用等が加速された。医学研究支援センターの組織体制の見直しや専門職の確保等の支援体制の強化を図るために、治験等件数の増加及び治験経費の収入増を目指して治験等算定要領の算定基準の改正を行った。また、これにより、治験実施研究者へのインセンティブが強化された。</p> <p>【自己点検・評価】① ② ③</p>	<p>【目標値】臨床研究の新規実施件数 (倫理審査委員会、認定臨床研究審査委員会及び治験審査委員会の承認を受けて実施される臨床研究の新規実施件数の合計) 185件及び令和5年度までの累計402件</p> <p>【実施予定】引き続き、医学研究支援センターの教員及びCRC職員等の支援体制を強化するとともに、前年度の臨床研究新規実施件数や支援策の効果を検証し、効果的な支援策を引き続き実施するとともに、これを踏まえた改善策を検討、実施する。</p>	<p>【目標値】2108件 (累計4115件) (治療件数の令和4年度比5%の増加)</p> <p>【実施予定】福井県内の医療施設と連携し、不妊治療のサポートを行う医療連携システムを構築し、治療件数を前年度比の5%増加を図る。</p> <p>・デジタル情報技術ICTを活用した患者へかかりつけ医へ生殖センターの3者をつなぐ、スピーディーかつ安全な医療情報ネットワークを構築する。</p>	<p>【目標値】2108件 (累計4115件) (治療件数の令和4年度比5%の増加)</p> <p>【実施予定】福井県内の医療施設と連携し、不妊治療のサポートを行う医療連携システムを構築し、治療件数を前年度比の5%増加を図る。</p> <p>・デジタル情報技術ICTを活用した患者へかかりつけ医へ生殖センターの3者をつなぐ、スピーディーかつ安全な医療情報ネットワークを構築する。</p>	<p>①評価指標の達成状況</p> <p>1. 全ての評価指標が目標値を達成している</p> <p><コメント> ○(10)-3-Cについては、6年間の合計目標値を一年で達成したことになるが、その場合には目標値の設定が適切かどうか疑問を感じた。 ○(10)-3-Bについては、「治療件数を前年度比の5%増加を図る」と次年度目標値を上方修正されていることは高く評価され、今後の展開が十分期待できます。 ●(10)-3-Cについては、実績値は目標値を極めて大きく上回っており、最終的に高評価を得るため、次年度以降の目標値の大幅な上方修正が望ましい。</p>	<p>②改善方策等の策定状況</p> <p>4. 該当なし (達成済み)</p> <p><コメント></p>	<p>③前年度未達成の改善状況</p> <p>1. 評価指標が改善 (達成) されている</p> <p>2. 一部の評価指標が改善 (達成) されていない</p> <p>3. 評価指標が改善 (達成) されていない</p> <p>4. 該当なし (達成済み)</p> <p><コメント></p>
<p>中期計画 (10)-3</p> <p>がん遺伝子パネル検査件数：50件以上 (第4期の合計) / 遺伝カウンセリング件数：40件以上 (同)</p> <p>経営企画課</p>	<p>(10)-3-B</p> <p>不妊治療施設 (新設施設) の治療件数：初年度より増加 (第4期の最終年度)</p> <p>経営企画課</p>	<p>不妊治療施設 (新設施設) の治療件数</p> <p>基準値：R4の数値</p> <p>対象期間：R4</p>	<p>目標値：基準値以上</p> <p>対象期間：R9 (単年度)</p>	<p>【目標値】-</p> <p>【実施予定】令和4年5月に新規不妊治療施設「高度生殖医療センター」の運用を開始する。運用開始にあたり、開設式を執り行い、福井県知事、福井県医師会長、報道関係者等々を招き、高度な不妊治療を実施できる福井県完結型の中核施設を設置することを広く広報し、治療件数の増加を図る。</p> <p>・医療連携システム構築に対するクラウドファンディングを成功させる。</p>	<p>【実績値】2007件</p> <p>【実施状況・成果】県内10の連携病院と協力し、患者・かかりつけ医・センターをつなぐ医療連携システムを構築し目標を達成した。令和5年度には稼働を始める予定である。令和4年5月13日から高度生殖医療センターの運用を開始し、開設式には県知事、県医師会長等を招き、高度な不妊治療を実施できる福井県完結型の中核施設を設置することを広く広報した。不妊治療保険適用化との相乗効果により、開設時から本年度末までの治療件数は2007件と昨年度の約3倍の治療件数となった。また、センター開設と同時にクラウドファンディングを開始し、1週間で目標額の500万円を達成、さらにはネクストゴールにも成功し、9,044,000円の寄付金を得ることができた。</p> <p>【自己点検・評価】① ② ③</p>	<p>【実績値】2007件</p> <p>【実施状況・成果】県内10の連携病院と協力し、患者・かかりつけ医・センターをつなぐ医療連携システムを構築し目標を達成した。令和5年度には稼働を始める予定である。令和4年5月13日から高度生殖医療センターの運用を開始し、開設式には県知事、県医師会長等を招き、高度な不妊治療を実施できる福井県完結型の中核施設を設置することを広く広報した。不妊治療保険適用化との相乗効果により、開設時から本年度末までの治療件数は2007件と昨年度の約3倍の治療件数となった。また、センター開設と同時にクラウドファンディングを開始し、1週間で目標額の500万円を達成、さらにはネクストゴールにも成功し、9,044,000円の寄付金を得ることができた。</p> <p>【自己点検・評価】① ② ③</p>	<p>【目標値】2108件 (累計4115件) (治療件数の令和4年度比5%の増加)</p> <p>【実施予定】福井県内の医療施設と連携し、不妊治療のサポートを行う医療連携システムを構築し、治療件数を前年度比の5%増加を図る。</p> <p>・デジタル情報技術ICTを活用した患者へかかりつけ医へ生殖センターの3者をつなぐ、スピーディーかつ安全な医療情報ネットワークを構築する。</p>	<p>【目標値】2108件 (累計4115件) (治療件数の令和4年度比5%の増加)</p> <p>【実施予定】福井県内の医療施設と連携し、不妊治療のサポートを行う医療連携システムを構築し、治療件数を前年度比の5%増加を図る。</p> <p>・デジタル情報技術ICTを活用した患者へかかりつけ医へ生殖センターの3者をつなぐ、スピーディーかつ安全な医療情報ネットワークを構築する。</p>	<p>①がん遺伝子パネル検査件数</p> <p>②遺伝カウンセリング件数</p> <p>①がん遺伝子パネル検査件数：50件以上 (第4期の合計) / 遺伝カウンセリング件数：40件以上 (同)</p> <p>②認定遺伝カウンセラー等の配置によりカウンセリング体制の強化を図り、遺伝カウンセリング依頼方法等の院内周知を実施する。</p>	<p>経営企画課</p>	<p>④達成度</p> <p>III. 計画を十分に実施している</p> <p><コメント> ○令和5年度の目標値を①がん遺伝子パネル検査件数(8件)、②遺伝カウンセリング件数(6件)、と令和4年度の実績値(78件;69件)に比べて低値とすることに理由が必要かと思われる。 ●中期計画には「難治がんの病態分析に基づいた集学的な進歩的治療法の開発、炎症・アレルギー疾患の病因解析に立脚した分子標的治療への応用、循環器・脳神経疾患等に対する分子生物学的な予防・早期診断法の開発と治療応用を加速」を掲げており、関連する成果を【達成状況・成果】欄に記載いただきたい。</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無</p> <p>2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある</p> <p><コメント> ○不妊治療施設 (新設施設) の治療件数 (実績値2007; 昨年の約3倍)、①がん遺伝子パネル検査件数 (実績値78) 目標値8)、②遺伝カウンセリング件数 (実績値69) 目標値6) は優れている。 ○評価指標について、其々の実績値をより客観的に評価するため、ベンチマーキングを実施してはどうですか。 ○不妊治療、および遺伝カウンセリングについては、取組の社会的インパクトを効果的に示すことが重要と思う。そのためにも、積極的な広報や(難しいかもしれないが)治療やカウンセリングを受けた人の満足度を把握する取組を進めてはどうでしょうか。</p>
<p>中期計画 (10)-3</p> <p>経営企画課</p>	<p>中期計画の達成状況</p> <p>経営企画課</p>	<p>中期計画の達成状況</p> <p>経営企画課</p>	<p>中期計画の達成状況</p> <p>経営企画課</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和4年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>【達成状況・成果】</p> <p>1) 臨床研究の新規実施件数が226件(倫理審査委員会承認された臨床研究206件、特定臨床研究7件、治験13件)増加したことにより、がん、炎症・アレルギー疾患及び循環器・脳神経疾患等に対する予防・診断方法の開発、治療方法への応用等が加速された。また、治験等件数の増加及び治験経費の収入増を図るため、治験等算定要領の算定基準の改正を行い、治験実施研究者へのインセンティブを強化した。さらには医学研究支援センターの組織体制を見直し、専門職の確保等の支援体制を強化した。</p> <p>2) 令和4年5月13日から高度生殖医療センターの運用を開始し、不妊治療保険適用化との相乗効果により、開設時から本年度末までの治療件数は2007件と昨年度の約3倍の治療件数となった。また、資金調達のためのクラウドファンディングは、1週間で目標額の500万円を達成、さらにはネクストゴールにも成功して寄付金は9,044,000円に達し、患者・かかりつけ医・センターをつなぐ医療連携システムを構築することができた。令和5年度中の運用開始に向けて、県内10の連携病院と協力し準備を進めている。</p> <p>3) がん遺伝子パネル検査78回、遺伝カウンセリングを69回実施した。3/3にがんゲノムに関するセミナーを開催して42名の参加があり、地域医療機関の連携を図ることができた。また、遺伝診療部の業務用HP作成ならびに共有ドライブ作成による遺伝情報共有の強化、遺伝カウンセリング時における看護師・客員教授の同席による人的強化および遺伝カウンセリング実施件数増加に伴う遺伝カウンセリング室増室等により、体制強化が図られた。さらなる体制強化を図るため、令和5年度における遺伝カウンセラーの採用を決定した。</p>	<p>【進捗状況】達成度 IV</p> <p>【達成状況・成果】</p> <p>1) 臨床研究の新規実施件数が226件(倫理審査委員会承認された臨床研究206件、特定臨床研究7件、治験13件)増加したことにより、がん、炎症・アレルギー疾患及び循環器・脳神経疾患等に対する予防・診断方法の開発、治療方法への応用等が加速された。また、治験等件数の増加及び治験経費の収入増を図るため、治験等算定要領の算定基準の改正を行い、治験実施研究者へのインセンティブを強化した。さらには医学研究支援センターの組織体制を見直し、専門職の確保等の支援体制を強化した。</p> <p>2) 令和4年5月13日から高度生殖医療センターの運用を開始し、不妊治療保険適用化との相乗効果により、開設時から本年度末までの治療件数は2007件と昨年度の約3倍の治療件数となった。また、資金調達のためのクラウドファンディングは、1週間で目標額の500万円を達成、さらにはネクストゴールにも成功して寄付金は9,044,000円に達し、患者・かかりつけ医・センターをつなぐ医療連携システムを構築することができた。令和5年度中の運用開始に向けて、県内10の連携病院と協力し準備を進めている。</p> <p>3) がん遺伝子パネル検査78回、遺伝カウンセリングを69回実施した。3/3にがんゲノムに関するセミナーを開催して42名の参加があり、地域医療機関の連携を図ることができた。また、遺伝診療部の業務用HP作成ならびに共有ドライブ作成による遺伝情報共有の強化、遺伝カウンセリング時における看護師・客員教授の同席による人的強化および遺伝カウンセリング実施件数増加に伴う遺伝カウンセリング室増室等により、体制強化が図られた。さらなる体制強化を図るため、令和5年度における遺伝カウンセラーの採用を決定した。</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>【法人評価対応】</p> <p>【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>④達成度</p> <p>III. 計画を十分に実施している</p> <p><コメント> ○令和5年度の目標値を①がん遺伝子パネル検査件数(8件)、②遺伝カウンセリング件数(6件)、と令和4年度の実績値(78件;69件)に比べて低値とすることに理由が必要かと思われる。 ●中期計画には「難治がんの病態分析に基づいた集学的な進歩的治療法の開発、炎症・アレルギー疾患の病因解析に立脚した分子標的治療への応用、循環器・脳神経疾患等に対する分子生物学的な予防・早期診断法の開発と治療応用を加速」を掲げており、関連する成果を【達成状況・成果】欄に記載いただきたい。</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無</p> <p>2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある</p> <p><コメント> ○不妊治療施設 (新設施設) の治療件数 (実績値2007; 昨年の約3倍)、①がん遺伝子パネル検査件数 (実績値78) 目標値8)、②遺伝カウンセリング件数 (実績値69) 目標値6) は優れている。 ○評価指標について、其々の実績値をより客観的に評価するため、ベンチマーキングを実施してはどうですか。 ○不妊治療、および遺伝カウンセリングについては、取組の社会的インパクトを効果的に示すことが重要と思う。そのためにも、積極的な広報や(難しいかもしれないが)治療やカウンセリングを受けた人の満足度を把握する取組を進めてはどうでしょうか。</p>		

第4期 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価シート

【業務運営】

【参考】自己点検・評価結果のコメントについて
 ○(丸) : 評価結果、評価者による所感、今後の取組の参考としてのコメントなど。
 ●(黒丸) : 部局に具体的な対応や検討を依頼するもの。

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	令和4年度		令和5年度		取りまとめ担当 取組関係課	自己点検・評価結果		
						実施予定	実施状況	実施予定	実施状況		①評価指標の達成状況	②改善方策等の策定状況	③前年度未達成の改善状況
中期目標(11) 内部統制機能を 実質化させるた めの措置や外部 の知見を法人経 営に生かすため の仕組みの構 築、学内外の専 門的知見を有す る者の法人経営 への参画の推進 等により、学長 のリーダーシッ プのもとで、強 靱なガバナンス 体制を構築す る。	中期計画(11)-1	(11)-1-A	教職協働によるプロジェクト 件数	基準値:- 対象期間:-	目標値:10件以上 対象期間:R4～R9の合 計	【目標値】 継続5、新規2 【実施予定】 五つのプロジェクトを継続しつつ、新たに カーボニュートラル推進PJ、及びFD・SD研修検討 PJを立ち上げる。	【実績値】 継続5、新規2 【実施状況・成果】 令和3年度からの五つのプロジェクトを継続に加え、令和4年4月に新たにカーボ ニュートラル推進プロジェクト及びFD・SD研修検討プロジェクトの2件のプロ ジェクトを立ち上げた。	【目標値】 新規以上(新規累計3件以上) 【実施予定】 総合戦略室会議において議論し、新規 PJを1以上立ち上げる。	【実績値】 継続5、新規2 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3	経営戦略課	①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成 している <コメント> ○10件/6年=1.67のため、2件で達 成となる。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されてい る。 2. 一部の評価指標が改善(達成)さ れていない 3. 評価指標が改善(達成)されてい ない 4. 該当なし(達成済み) <コメント>
	中期計画(11)-1				中期計画の達成状況 経営戦略課	【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】 達成度：Ⅲ 【達成状況・成果】 令和3年度からの五つのプロジェクトを継続に加え、令和4年4月に新たにカーボ ニュートラル推進プロジェクト及びFD・SD研修検討プロジェクトの2件のプロ ジェクトを立ち上げた。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】		④達成度 Ⅲ:計画を十分に実施している <コメント> ○「学内の教育研究リソースを最大 限活用できる体制」とはどのようなも のか、具体的なイメージはあるので でしょうか。さらにそれが教職協働PTで あることをどのようにアピールするの でしょうか。今からご検討いただきたい でしょうか。 ○毎年度、新規PTを2件程度設置す る必要がありますが、評価的には、あ る程度作務的な設置も必要となるん ではないでしょうか	⑤優れた実績・成果等の有無 3. 優れた実績・成果が認められる取組等がない <コメント> ○プロジェクト内容については要確認 ○次年度以降は、各刊による具体的な成果を記載いただきたい。		
	中期計画(11)-2	(11)-2-A	組織的な「内部統制システム の整備及び運用に関するモニタ リング」	組織的な「内部統制システム の整備及び運用に関するモニタ リング」	基準値:- 対象期間:-	目標値:実施 対象期間:R4～R9の毎 年年度	【目標値】 - 【実施予定】 監事の指摘事項(監事意見書等)や大学 のガバナンスに関する内容等を踏まえたテーマを設 定し、組織的な「内部統制システム」の整備及び運用 に関するモニタリングを実施する。	【実績値】 【実施状況・成果】 令和4年度は、令和3年度監事意見書での「第4期中期計画の推進にあつて は、教職員全てのスピード感の共有が重要となっていく」という指摘、また、学長 のリーダーシップの下で戦略的に大学をマネジメントしていくために中期目標・計 画の推進が不可欠であるという観点から、全学共通のテーマとなる定期的モニタ リング事項を「第4期中期目標・中期計画の整備及び運用状況」と定め、各局 における中期目標・中期計画の周知及び達成に向けた運用状況について、令 和4年6月から10月までの期間で点検を行った。 各局からは、整備及び運用状況について問題なく進めていることの報告が あったが、これら報告内容と実際の構成員の認識に齟齬がないかの確認を目的 として、「本学の第4期中期目標・中期計画の内容を知っていますか。」「普段ど の程度第4期中期目標・中期計画等の達成を意識して、業務に取り組んでいま すか。」等の設問によるフォローアップ調査を実施。この結果、必ずしも部局から の報告と構成員の認識が一致していないこと、また、構成員の属性(部局、職 階、在職年数等)によって、中期目標・中期計画に対する意識の度合いが異なる ことが確認された。 令和5年2月20日の全学運営委員会において、調査結果を報告し、部局長に 対し構成員への更なる周知を依頼した。	【目標値】 - 【実施予定】 前年度モニタリング結果に対し、必要に 応じてフォローアップを実施するとともに、新たに当該 年度のテーマを設定し、組織的な「内部統制システム」 の整備及び運用に関するモニタリングを実施する。	総務課	①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成 している <コメント>	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されてい る。 2. 一部の評価指標が改善(達成)さ れていない 3. 評価指標が改善(達成)されてい ない 4. 該当なし(達成済み) <コメント>
中期計画(11)-2					中期計画の達成状況 総務課	【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】 達成度：Ⅲ 【達成状況・成果】 令和4年6月8日の内部統制委員会において、「令和4年度内部統制システム の整備及び運用に係る推進方針」を策定し、全学共通のテーマとなる定期的モ ニタリング事項を「第4期中期目標・中期計画の整備及び運用状況」と定めた。 本方針に沿って、各局における中期目標・中期計画の周知及び達成に向け た運用状況について、令和4年6月から10月までの期間で点検を行ったところ、 各局からは、整備及び運用状況について問題なく進めていることの報告が あった。一方で、これら報告内容と実際の構成員の認識に齟齬がないかの確認 を目的として、「本学の第4期中期目標・中期計画の内容を知っていますか。」「 普段どの程度第4期中期目標・中期計画等の達成を意識して、業務に取り組ん でいますか。」等の設問によるフォローアップ調査を実施した結果、必ずしも部局 からの報告と構成員の認識が一致していないこと、また、構成員の属性(部局、 職階、在職年数等)によって、中期目標・中期計画に対する意識の度合いが異 なることが確認された。 令和5年2月20日の全学運営委員会において、点検結果と合わせてフォロー アップ調査の分析結果の報告を行い、部局長に対して、構成員への更なる周知 を依頼した。 これら全学的なモニタリングの実施、及びフォローアップ調査のフィードバックに より、内部統制機能の強化が図られた。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】		④達成度 Ⅲ:計画を十分に実施している <コメント>	⑤優れた実績・成果等の有無 3. 優れた実績・成果が認められる取組等がない <コメント> ●フォローアップ調査を実施し、必ずしも部局からの報告と構成員の認識が 一致していないこと、また、構成員の属性によって、中期目標・中期計画に 対する意識の度合いが異なることを確認したことは、優れた実績・成果に繋 がる取組になると考えられることから、構成員の認識を確認するための フォローアップ調査の毎年度の実施をご検討いただきたい。 ○毎年度評価が指標となっている。評価に対する努力と効果が優れた実 績・成果となるような取り組みが期待される。 ○中期計画では「内部統制機能を強化する」を謳っており、どのように強化 されたのか、その結果大学運営にどのような好影響を与えたのか、につい て、関係する取組を進め、実績を出していきたい。		

<p>中期計画(12)-1</p>				<p>中期計画の達成状況 研究推進課</p>	<p>【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>【進捗状況】達成度：Ⅳ 【達成状況・成果】 学内外による共用設備等の使用件数 (文京:5,825件) (松岡:4,920件) 研究設備・機器の共用促進に向けたガイドラインに則り、まずは、本学における 共用化に係る共用方針を検討し、国立大学法人福井大学における研究設備・機 器の共用方針(案)を作成するとともに、検討課題の洗い出しを行った。 ライフサイエンス支援センターにおいては、各部門において、学外者も機器利用 等が出来るように、規定を整備した。 また、ライフサイエンス支援センターの共用機器として、令和4年度より、新たにD NAシンセサイザーを措置した。</p>	<p>【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>		<p>④達成度 Ⅲ：計画を十分に実施している ＜コメント＞ ●設備共用方針等の学内外への周知強化を推進していることが確認でき ませんでした。周知強化の推進につい て【達成状況・成果】欄に追記願 います。 ○この計画は単年度で一喜一憂する 性格のものではなく、長期的な視点 が必要であると考え、Ⅲとしまし た。 ○中期計画で挙げた「共用設備の整 備運用方針に基づき、戦略的に共 用設備の導入・更新を進める」につ いて、具体的にどのように進めるの か明確にしたい。さらに、当該計 画の最終点は優れた研究成果で あり、特に新たに導入した共通設 備でどのような成果があったのか フォロー願いたい。</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無 3. 優れた実績・成果が認められる取組等がない ＜コメント＞ ○共用設備等の使用件数が伸び過ぎると、利用希望のバッキングが生 じ利用しにくくなることも想定されるので、オペレーション面への配慮も検 討ください。</p>
<p>中期計画(12)-2 教育・研究の環境改善と温室効果ガスの総排出量削減を目指し、引き続き、全学的なマネジメントによるエネルギー消費量の低減に取り組み、戦略的な施設整備・運用を推進し、エネルギー消費原単位を削減する。 施設企画課</p>	<p>(12)-2-A エネルギー消費原単位値(原油換算値)の削減割合 施設企画課</p>	<p>エネルギー消費原単位値(原油換算値)の削減割合 対象期間:H28～R2の平均</p>	<p>基準値:0.04034kl/m²以下 目標値:0.038323kl/m²以下 対象期間:R9(単年度)</p>	<p>【目標値】0.04000kl/m²以下 【実績値】0.03870 【実施状況・成果】 エネルギー消費原単位の削減を目指し、施設の更新経費抑制に向けた戦略であるエコ改修を継続・拡大する。また、新築又は改修時には「ZEB Oriented」等を検討する。 【実施状況・成果】 文京団地においては、コロナ禍におけるオンラインから対面への授業となり各講義室の使用が多くなったことから、コロナ禍前に行われていた月2回の空調温度の設定(暖房23℃上限、冷房26℃下限設定)に戻した。松岡団地では、中央機室や各電気室の空調機及び排風機の操作を詳細に行うなど、運用の改善を図った。 施設の更新経費抑制に向けたエコ改修においては、施設整備費補助金及びエコ改修費を財源とした次の事業にてLED照明器具及び高効率空調機への更新を行い、削減した光熱費相当額(220万円)を翌年度のエコ改修費に追加した。 (文京)講義室棟改修 (二の宮)附属義務教育学校後期課程校舎改修 (二の宮他)附属義務教育学校前期課程校舎等照明設備改修 (松岡)管理棟照明器具取替 次の改修事業にて「ZEB Oriented」の検討を行い、一次エネルギー消費量の基準値以下を達成した。 (二の宮)附属義務教育学校後期課程校舎改修 (松岡)総合研究棟(医学系)改修 ※エコ改修費:エコ改修(附属病院を除いた全ての団地を対象に実施する省エネ・省コスト・快速性を目指した改修)及び平成27年度から令和3年度まで行った管理一体型ESCO事業により削減した光熱水費相当額をエコ改修費とし、次年度以降のエコ改修に充てる仕組みとして平成28年度から開始した。 以上の実施により、目標値を上回る実績を果たした。 【自己点検・評価】 ①1 ②1 ③3</p>	<p>【目標値】0.03950kl/m²以下 【実施状況・成果】 エネルギー消費原単位の削減を目指し、施設の更新経費抑制に向けた戦略であるエコ改修を継続・拡大する。また、新築又は改修時には「ZEB Oriented」等を検討する。 【実施状況・成果】 文京団地においては、コロナ禍におけるオンラインから対面への授業となり各講義室の使用が多くなったことから、コロナ禍前に行われていた月2回の空調温度の設定(暖房23℃上限、冷房26℃下限設定)に戻した。松岡団地では、中央機室や各電気室の空調機及び排風機の操作を詳細に行うなど、運用の改善を図った。 施設の更新経費抑制に向けたエコ改修においては、施設整備費補助金及びエコ改修費を財源とした次の事業にてLED照明器具及び高効率空調機への更新を行い、削減した光熱費相当額(220万円)を翌年度のエコ改修費に追加した。 (文京)講義室棟改修 (二の宮)附属義務教育学校後期課程校舎改修 (二の宮他)附属義務教育学校前期課程校舎等照明設備改修 (松岡)管理棟照明器具取替 次の改修事業にて「ZEB Oriented」の検討を行い、一次エネルギー消費量の基準値以下を達成した。 (二の宮)附属義務教育学校後期課程校舎改修 (松岡)総合研究棟(医学系)改修 ※エコ改修費:エコ改修(附属病院を除いた全ての団地を対象に実施する省エネ・省コスト・快速性を目指した改修)及び平成27年度から令和3年度まで行った管理一体型ESCO事業により削減した光熱水費相当額をエコ改修費とし、次年度以降のエコ改修に充てる仕組みとして平成28年度から開始した。 以上の実施により、目標値を上回る実績を果たした。 【自己点検・評価】 ①1 ②1 ③3</p>	<p>施設企画課</p>	<p>①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ●この計画「全学的なマネジメント」のもと、エネルギー消費量の低減を図ったのが認められないので、【実施状況・成果】欄に追記ください。</p>	<p>②改善の方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞</p> <p>③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞</p>		
<p>中期計画(12)-2 施設企画課</p>			<p>中期計画の達成状況 施設企画課</p>	<p>【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】</p>	<p>【進捗状況】達成度：Ⅲ 【達成状況・成果】 文京地区の各講義室では、使用者各位の理解のもとコロナ禍前の空調温度設定(冷房26℃下限、暖房23℃上限設定)とした。また、改修事業でのエネルギー消費量抑制に向けた「Zeb Oriented」の導入では、計画2事業の他、外部資金による「附属病院B棟東6階改修」でも同等以上の仕様の改修を実施した。学内の「エコ改修費」により、(二の宮)附属義務教育学校前期課程校舎、(文京)遠赤外線開発研究センターの照明LED化改修等を実施した。 【特記事項】 エネルギー消費量低減事業(LED照明器具、高効率空調及び複層ガラスへの更新など) (文京)講義室棟改修 (二の宮)附属義務教育学校後期課程校舎改修 (二の宮他)附属義務教育学校前期課程校舎等照明設備改修 (松岡)管理棟照明器具取替 (松岡)附属病院B棟東6階改修</p>	<p>【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】</p>		<p>④達成度 Ⅲ：計画を十分に実施している ＜コメント＞</p>	<p>⑤優れた実績・成果等の有無 3. 優れた実績・成果が認められる取組等がない ＜コメント＞ ●R5より北陸電力で電気料金の大規模上げが予定される中、この中期計画の必達には重要な意味があると思います。R4の実績は全国的に見ても良かったのでしょうか？全国と比較して優れた成果といえるものがあれば【達成状況・成果】欄に追記ください。 ●中期計画では「温室効果ガスの総排出量削減を目指す」としているが、今回の実績でどの程度削減されたのか、試算いただき【達成状況・成果】欄に追記いただけないでしょうか。</p>	
<p>中期目標(13) 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通して、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。</p>	<p>中期計画(13)-1 研究推進課</p>	<p>(13)-1-A 外部資金の獲得に関する新たな取組件数：2件以上(第4期の合計) 研究推進課</p>	<p>産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン【追補版】を踏まえ、外部資金の獲得に関する新たな取組 対象期間:--</p>	<p>【目標値】外部資金の獲得に関する新たな取組について検討を実施し、1件以上の実施を目指す。 【実施状況・成果】 クラウドファンディングの規程を整備し、学内説明会等を実施することで、プロジェクトの公募を開始する。 大学発ベンチャーに対する支援の一環として、新株予約権等での支払いに関して検討を開始する。 【自己点検・評価】 ①1 ②③</p>	<p>【実績値】1件 【実施状況・成果】 福井大学クラウドファンディング取扱要項(令和4年3月11日施行)を制定し、「不妊治療を支える:患者・医師・生体センターを繋ぐ連携システム構築へ」において、目標金額5,000千円に対し、9,044千円の寄付があった。(寄付者162人 令和4年6月30日募集終了) 【自己点検・評価】 ①1 ②③</p>	<p>【目標値】外部資金の獲得に関する新たな取組について検討を実施し、1件以上(累計2件以上)の実施を目指す。 【実施状況・成果】 クラウドファンディングの取組を定着させ、毎年度新たなプロジェクトの取組を実施する。 大学発ベンチャーに対する支援の一環として、新株予約権等での支払いに関して規程等の整備を完了する。 また、プロジェクトの複数市町への展開を検討する。</p>	<p>研究推進課</p>	<p>①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ●(13)-1-Bは、目標を大きく上回っているため、より高い評価を得るために令和5年度以降の目標値を上方修正してはいいが、 ●計画には、「多様な財源の獲得と有用な活用を実現」とある。「多様な財源の獲得」についてはよく記載されているが、「有用な活用」についての記載が十分でないように思えるので、追記ください。例えば、「不妊治療を支える:患者・医師・生体センターを繋ぐ連携システム構築へ」についても、寄付をどう活用したのかが不明。</p>	<p>②改善の方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞</p> <p>③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞</p>	
<p>研究推進課</p>	<p>(13)-1-B 相手先を福井県、嶺南自治体等とする共同研究、受託研究及び受託事業の受入金額：第3期(9,129千円)より増加(第4期の合計)(再掲) 地域連携推進課</p>	<p>相手先を福井県、嶺南自治体等とする共同研究、受託研究及び受託事業の受入金額 対象期間:H28～R2の合計</p>	<p>基準値:9,129千円 目標値:基準値以上 対象期間:R4～R9の合計</p>	<p>【目標値】1,500千円 【実績値】6,230千円 【実施状況・成果】 【実施状況・成果】 地域創生推進本部に嶺南地域共創センターを設置する。 嶺南2市4町の課題と本学のシーズを基に、各市町と協働し地域課題に取り組むプロジェクトを立ち上げ、共同研究、受託事業等を推進した。令和4年度の外部資金受入金額の内訳は、教育系との受託事業1件で1,496千円。共同研究の実績として、美浜町3件973千円、若狭町1件3,257千円、おおい町1件504千円、合計4,734千円。総計で6,230千円を受入れた。これは年間目標値の4倍を超える特筆すべき実績であり、また基準値であるH28～R2年度までの実績合計額9,129千円の68%に及び水準となっている。 【自己点検・評価】 ①1 ②3 ③3</p>	<p>【目標値】1,500千円(累計3,000千円) 【実施状況・成果】 【実施状況・成果】 嶺南2市4町の課題と本学のシーズを基に、各市町と協働し地域課題に取り組むプロジェクトを立ち上げ、共同研究、受託研究、受託事業等を推進する。 また、プロジェクトの複数市町への展開を検討する。</p>	<p>地域連携推進課</p>	<p>①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ●(13)-1-Bは、目標を大きく上回っているため、より高い評価を得るために令和5年度以降の目標値を上方修正してはいいが、 ●計画には、「多様な財源の獲得と有用な活用を実現」とある。「多様な財源の獲得」についてはよく記載されているが、「有用な活用」についての記載が十分でないように思えるので、追記ください。例えば、「不妊治療を支える:患者・医師・生体センターを繋ぐ連携システム構築へ」についても、寄付をどう活用したのかが不明。</p>	<p>②改善の方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞</p> <p>③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞</p>		

	中期計画(13)-1				中期計画の達成状況 研究推進課	【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】達成度 -IV 【達成状況・成果】 ・福井大学クラウドファンディング取扱要項(令和4年3月11日施行)を制定し、「不妊治療を支える:患者・医院・産婦人科センターを繋ぐ連携システム構築」において、目標金額5,000千円に対し、9,044千円の寄付があった。(寄付者162人 令和4年6月30日募集終了) ・嶺南2市4町の課題と大学のシーズを基に、各市町と協働し地域課題に取り組むプロジェクトを立ち上げ、共同研究、受託事業等を推進した結果、令和4年度は総計6,230千円を受入れた。これは年間目標額の4倍を超える特筆すべき実績である。 ●評価指標にない中期計画記載の取組の状況 ・地域創生推進本部では、福井県からの補助金(42件、17,346千円)のほか、受託事業費(1件、1,591千円)、敦賀市からの補助金(1件、1,226千円)を獲得している。 ・福井県から獲得した受託事業費をベースに実施したリスキル講座においては、地域企業から23社56名の参加を得て、参加費2万円、合計44万円を講習料収入として受領し、実施講座の一部を担当等をした外部委託企業への支払いに充当した。 ・このほかの財源としては、文部科学省による委託事業(1件、16,292千円)、企業等からの寄附金(4件、1,129千円)を確保している。 ・以上のうち、相手先を福井県とする補助金(未来協働プラットフォームふくい推進事業補助金)に関しては、教育・医学・工学・国際地域のすべての領域が各自の強みを生かし県内各所において事業を展開した。その取組は地元メディアや学術誌などにも掲載されるなど、幅広く社会にインパクトを与えている。 ・嶺南地域自治体に関しては、敦賀市による補助金(敦賀市大学研究等支援補助金)に採択され、1,226千円の助成を受け、地元の喫煙の課題である原子力防災に関して、次世代を担う学生を巻き込んだ地域住民に対する防災活動への意識向上を目指し、事業に取り組んだ。大学の高度な知能・知識・技術を、将来世代に渡って原子力と安全に共存するために欠かせない知識・技術を提供すると共に、原子力を学ぶ学生にとっては自分たちの学びが社会に還元される実感と自信を得ると共に、社会をリードしていく自覚を得る機会となった。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】		④達成度 III.計画を十分に実施している <コメント> ○この計画は第四期全体で判断するものであると考え、IIIとしました。 ●外部資金による受託事業について、事業名称を記載して下さい。	⑤優れた実績・成果等の有無 2.優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○クラウドファンディング事業において、目標金額5,000千円に対し、9,044千円の寄付があった。これは、目標金額の1.8倍にあたる。 ○クラウドファンディングは、今後毎年様々な案件で行われるのでしょうか？嶺南地域との連携はいまスタートが切れたように思われます。 ○単に資金を獲得するだけではなく、本学の目玉の取組(嶺南プロジェクト)にリンクしたものであるとして、優れた成果に繋がるものと期待する。 ○社会的インパクトをどう見せるか、今のうちから検討しておいて頂きたいと思います。(メディア等で紹介されること自体が社会的インパクトではないように思います)。	
中期目標(14)	中期計画(14)-1 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを活用したエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。	(14)-1-A エビデンスベースによる法人経営を目指す。IR機能を活用した客観的なデータに基づく自己点検・評価を実施し、教育研究活動等の質の改善状況をステークホルダーに分かりやすく発信していく。 経営戦略課	教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価	基準値:- 対象期間:-	目標値:実施・開示 対象期間:R4~R9の毎年度	【目標値】- 【実施予定】:教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価に関する実施体制・評価項目等を検討・決定する。	【実績値】- ・IR室において、ファクトブック項目を見直すと共にデータ分析による自己点検・評価の実施ガイドラインを策定し、実施体制及び評価項目と分析基本データ(ファクトブックの内19項目)を決定した。 ・実施時点で確定データが得られた令和4年5月1日現在および11月1日現在の員数データを対象に自己点検・評価を実施した。なお、当該評価結果は報告書にまとめて関係部署に通知し改善への取組を依頼すると共に、本学公式HP(https://www.u-fukui.ac.jp/about/outline/management/06/selfinspect/)において各ステークホルダー向けに公開した。 ・当該自己点検・評価報告書では、各分析基本データの状況をMicrosoft社のPowerBIを活用して可視化(グラフ作成)しており、経年比較や学部比較のグラフを追加をするなどステークホルダー向けにもわかりやすい内容としている。	【目標値】- 【実施予定】:教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価を実施し、6月末を目途に開示する。	経営戦略課	①評価指標の達成状況 1.全ての評価指標が目標値を達成している <コメント> ●【実施状況・成果】で(ホームページ)「各ステークホルダー向けに公開した」とある。ホームページを確認したが、各ステークホルダー向けに示すようには見えない。令和5年度の取組実施にあたり対応を検討ください。	②改善方策等の策定状況 4.該当なし(達成済み) <コメント>	③前年度未達成の改善状況 1.評価指標が改善(達成)されている 2.一部の評価指標が改善(達成)されていない 3.評価指標が改善(達成)されていない 4.該当なし(達成済み) <コメント>
	中期計画(14)-1 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを活用したエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。	中期計画(14)-1 エビデンスベースによる法人経営を目指す。IR機能を活用した客観的なデータに基づく自己点検・評価を実施し、教育研究活動等の質の改善状況をステークホルダーに分かりやすく発信していく。 経営戦略課	教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価	基準値:- 対象期間:-	目標値:実施・開示 対象期間:R4~R9の毎年度	【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】達成度 -III 【達成状況・成果】 ・ファクトブックの各項目やデータ分析による自己点検・評価における分析基本データの作成にあたっては、Microsoft社のPowerBIを活用して可視化(グラフ作成)しており、経年比較や学部比較のグラフを追加するなどステークホルダー向けにもわかりやすい内容とした。また、原則としてシステムの出力データを所定のフォルダに保存するだけでグラフに反映できる様に構築しており、年度ごとのデータ更新にあたっての業務効率化も実現している。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】		④達成度 III.計画を十分に実施している <コメント> ○各部署での分析はモニタリングで行うなど、この取組と局所的な自己点検・評価が結びつき、改善に資している、というストーリーになればよいですね。 ○教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価だけでは教育研究活動等の質の改善に結びつかないのではないかと、そこで、他の質保証に係り自己点検評価の結果を活用してはいかがでしょうか。	⑤優れた実績・成果等の有無 3.優れた実績・成果が認められる取組等がない <コメント> ○ファクトブックの各項目やデータ分析による自己点検・評価における分析基本データの作成にあたっては、Microsoft社のPowerBIを活用して可視化(グラフ作成)している。 ○分析データに関する自己点検評価によって、どのような改善が図られたのか、具体的な事例をフォローいただきたい。	
	中期計画(14)-2 ステークホルダーの法人経営に対する更なる支持を目指し、ステークホルダー別にそれぞれの特性を考慮した情報発信や対話(意見交換)の機会を設け、ステークホルダーの意見を反映した大学運営を行う。 広報課	(14)-2-A connect Ufukui(※)の登録者数:2,000人以上(第4期の最終年度) ※ ニュースソースに応じてステークホルダー別に一括配信を行う本学独自に開発したメール配信システム。 (14)-2-B 令和9年度までにconnect Ufukui等で配信したニュースに対するステークホルダーの関心を測定する仕組み	connect Ufukuiの登録者数	基準値:- 対象期間:-	目標値:2,000人以上 対象期間:R9(単年度)	【目標値】登録者数:500人以上 【実施予定】connect Ufukuiの認知度向上を図るべく、福井県教育・スポーツ記者クラブに所属する報道機関への周知と登録の働きかけを行う。記者クラブへの案内に加え、取材で来学する記者への登録案内を行う。 情報提供依頼と合わせて教職員への登録案内を行ない、学内認知度向上を図る。 取材相手となる学生や関係企業に対しても積極的に登録案内を行う。	【実績値】903人(令和5年3月末現在) 【実施状況・成果】 令和4年度は、報道関係者へ毎月の行事等の案内をconnect Ufukuiでの配信に移行。本学への取材を担当する記者へ個別に登録案内、入試課の協力のもと、オープンキャンパス、高校訪問時にconnect Ufukuiの案内チラシを配布。広報課の管理するSNSにて登録案内を行ったことで目標を達成した。令和5年度は上記取り組みを引き続き実施し、さらに来学する高校生等へアプローチを行うこと、また、新入生に対し、オリエンテーション時の配付資料に案内を同封し、在学生の登録者数増を目指す。 【自己点検・評価】 ① ② ③ ③	【目標値】登録者数:1000人以上 【実施予定】令和4年度に始めた取り組みを引き続き行ない、学生・教職員の登録者数を増加させる。 関係部署と協議し、新入生ガイダンス時の登録案内を行い学生の登録者数増加を目指す。また受入生対策として、高校生向けの登録者増の方策を検討する。オープンキャンパスなどにconnect Ufukuiの登録案内を含む広報物の配布等を検討する。	広報課	①評価指標の達成状況 2.一部の評価指標が目標値を達成していない <コメント> ●(14)-2-Aについて、「取材相手となる学生や関係企業に対しても」とありますが、実績の記載がありませんでしたので、【実施状況・成果】欄に令和4年度の状況を追記ください。 ○各ステークホルダー区分との意見交換会において、実施予定であったホームカミングデーを実施していない。 ●(14)-2-Cについて、ホームカミングデーはコロナを理由に中止しているが、その事業が【実施状況・成果】の欄に明記して下さい。 ●(14)-2-Cの【実施状況・成果】は、【実施予定】に書いたイベントの実施状況をまず示し、そのあとに実施予定にはなかったが実施したものを示す	②改善方策等の策定状況 1.改善方策等が策定されている <コメント> ○隔年で各ステークホルダー区分との意見交換会を実施する計画であることから、「報道関係者及び高校教員(予備校含む)」との意見交換は令和5年度に実施されたい。 ○各ステークホルダーの内訳を理解していないのですが、例えば、①就職説明会に来られる企業の皆さん、②学生の成績をご家族に送付される際、案内資料を配布する。③公開講座や福大未来キャンパス2023などでの配布はいかがでしょうか。	③前年度未達成の改善状況 1.評価指標が改善(達成)されている 2.一部の評価指標が改善(達成)されていない 3.評価指標が改善(達成)されていない 4.該当なし(達成済み) <コメント>

		(14)-2-C 戦略的に分類した各ステークホルダー区分との意見交換会等を実施（第4期の隔年度）	経営戦略課	戦略的に分類した各ステークホルダー区分との意見交換会等	基準値:- 対象期間:-	目標値:実施 対象期間:R4～R9の隔年度	【目標値】- 【実施予定】 ① 卒業生との懇談会 ・ホームカミングデーの実施(毎年度) ・同窓経営者の会総会・例会の実施(毎年度) ② 高等学校との懇談会 ・北陸三県高等学校長との懇談会の実施(毎年度) ③ 産業界との懇談会 ・トップ懇談会の実施(毎年度) ④ 外部有識者 ・大学改革コンサルタントとの意見交換会の実施(毎年度) ⑤ 未来協働プラットフォームふくい部門毎の意見交換会の実施(毎年度)	【実績値】- 【実施状況・成果】 【教職員】 第4期中期目標、さらには福大ビジョンの達成を目指して着実に前進すべく、教職員が一丸となって、多様な取組を全学的に構築、実践していくことを目的に全学説明会を文京区及び松岡にて計2回実施した他、都合の付かなかった教職員に対してビデオ配信を実施した。 【在学生】 学生・教職員協働教育改善小委員会にて、各学部から2名ずつ推薦された学生が委員として参画し、教職員の委員と意見交換等を実施した。この他、各学部等において学生との意見交換を実施した。 【保護者】 各学部後援会等において保護者との意見交換会を実施した。 【卒業生(同窓会)】 福井大学同窓経営者の会と本学教員、産学官連携本部及び在学生との意見交換会を実施した。 【報道関係者】 ※令和4年度は実施していない。 【自治体・企業(産学官協力企業等)】 トップ懇談会や福井大学産学官連携本部協働推進委員会等の実施及び未来協働プラットフォーム福井実行部門会議(部門1～6)への参加により、自治体及び地域企業との意見交換を実施した。 【一般・コミュニティ】 大学改革コンサルタントとの意見交換会により、外部有識者との意見交換を実施した。 【受験生(保護者)】 オープンキャンパスを対面及びWEBにより実施した。 【高校教員(予備校含む)】 ※令和4年度は実施していない。 【自己点検・評価】 ① ② ③	【目標値】- 【実施予定】 ① 卒業生との懇談会 ・ホームカミングデーの実施(毎年度) ・同窓経営者の会総会・例会の実施(毎年度) ② 高等学校との懇談会 ・北陸三県高等学校長等との懇談会の実施(毎年度) ③ 産業界との懇談会 ・トップ懇談会の実施(毎年度) ④ 外部有識者 ・大学改革コンサルタントとの意見交換会の実施(毎年度) ⑤ 未来協働プラットフォームふくい部門毎の意見交換会の実施(毎年度) ⑥ 在学生との懇談会 ・学部長等と学生との懇談会の実施(隔年度) ⑦ 福井県内自治体との意見交換会の実施(隔年度) ⑧ 報道機関との意見交換会の実施(隔年度)	経営戦略課	④達成度 II:計画を十分には実施していない <コメント> ●「ステークホルダーの意見を反映した大学運営」について確認できませんでした。ステークホルダーの意見を反映し、改善した取組等を記載願います。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○戦略的に分類した各ステークホルダー区分との意見交換会の実施。 ○ステークホルダーの分類とそれに対応する取組が、丁寧になされようとしており、今後、情報発信によって具体的に大学運営が改善されたのかをフォローしてください。 ○ステークホルダーは多岐にわたるが、特に重きを置くステークホルダーに対して手厚くアプローチすることが大切かと思えます。	
中期計画(14)-2						中期計画の達成状況 広報課	【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】達成度 III 【達成状況・成果】 ステークホルダー別にメールで情報配信を行うconnect Ufukuiへの登録案内を、報道関係者、受験生へのチラシ配布及び全学のSNSでの周知を行ったことで、令和4年度の登録目標を達成した。また各ステークホルダー区分との意見交換会等は、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しつつ、意見交換を実施した。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】		④達成度 II:計画を十分には実施していない <コメント> ●「ステークホルダーの意見を反映した大学運営」について確認できませんでした。ステークホルダーの意見を反映し、改善した取組等を記載願います。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある <コメント> ○戦略的に分類した各ステークホルダー区分との意見交換会の実施。 ○ステークホルダーの分類とそれに対応する取組が、丁寧になされようとしており、今後、情報発信によって具体的に大学運営が改善されたのかをフォローしてください。 ○ステークホルダーは多岐にわたるが、特に重きを置くステークホルダーに対して手厚くアプローチすることが大切かと思えます。	
中期目標(15)	中期計画(15)-1	(15)-1-A 業務全般の質の確保と機能の高度化を目指し、デジタル技術の活用に適した対象業務の洗い出しを行うとともに、運用環境の整備や開発人材の育成を推進し、AI・RPAなどデジタル技術の活用による業務運営体制を整備する。	人事労務課	事務局職員のデジタル技術の活用に関する研修会等への参加者数	基準値:- 対象期間:-	目標値:延べ60名程度 対象期間:R4～R9の合計	【目標値】研修会参加者数10名程度(各都2名程度) 【実施予定】研修会実施にあたり、研修内容、日程、第4期の初年度における研修対象者の範囲等について検討を行い、研修実施要項を策定の上、研修会を開催する。また、研修終了後にアンケート調査を実施し、研修内容等の検証を行う。	【実績値】21名(令和4年度) 【実施状況・成果】 将来的に事務局職員全員がICTを活用し、業務に生かしていくため、まず各個人のDXに対する意識付けを目的とし、事務局に所属する職員に対して、基礎編として本学における「DXの考え方」「現状」「事例紹介」について、研修会(90分間)を実施した。 受講者へ研修内容に関するアンケートを実施し、「DXへの理解が深まった」「今後自身の業務に生かしていきたい」など前向きな意見が多く得られた。また、研修実施2ヶ月後に再度受講者へアンケートを取り、研修で学んだことが実際の業務にどのように活かされたか、また今後活かしていきたいかを確認し、受講者に研修を振り返ってもらうと共に、アンケート結果を次年度の研修の検討材料とした。 【自己点検・評価】 ① ② ③	【目標値】研修会参加者数10名程度(各都2名程度)(累計20名程度) 【実施予定】令和4年度に行った検証を基に、必要に応じて研修内容等の改正を行った上で研修会を開催する。また、研修終了後にアンケート調査を実施し、研修内容等の検証を行う。	人事労務課	①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している <コメント> O(15)-1-Bの定義は「AI・RPAなどデジタル技術の導入件数」であるので、R4実績値は「2件」(RPAの導入、GoogleWorkspaceの導入)とするのが妥当であると考えます。詳細は、2件の導入を行ったと判断し「全ての評価指標が目標値を達成している」としました。 ●AI・RPAなどデジタル技術の導入件数として、何とカウントするのか、改めて確認してください。現状ですと、実績値と目標値があまりにもかげ離れすぎています。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) <コメント>
		(15)-1-B AI・RPAなどデジタル技術の導入件数;第3期(1件)の3倍以上(第4期の合計)	総務課	AI・RPAなどデジタル技術の導入件数	基準値:1件 対象期間:H28～R3の合計	目標値:基準値の3倍以上(3件以上) 対象期間:R4～R9の合計	【目標値】1件 【実施予定】事務局内のAI・RPAなどデジタル技術の導入検討状況及び今後の予定を把握する。 【実績値】RPA導入数16件(附属病院10件、事務局6件)、Googleworkspace活用による業務効率化件数19件 【実施状況・成果】 附属病院では、看護部、放射線部、栄養部等において合計16ロボットを院内で作成し、このうち10ロボット(看護勤務管理システムデータ集計、画面データOCR読込、食料印刷等)を稼働。残りの6ロボットについても、令和5年度以降の運用開始に向けて準備を進めている。 また、事務局では、令和4年度に組織した「事務局DX推進プロジェクトチーム」において、対象となる業務の洗い出し及び各課への聞き取り等を行い、RPAによる6本の業務自動化(給与明細PDFデータの一括取得、雇用保険資格喪失届申請等)を行ったほか、GoogleWorkspaceを活用し、19件の業務自動化・効率化(差し込みメールの一括送信、アワーシート還元金支給決定通知の送付等)を行った。本プロジェクトは、令和5年度も継続が決定しており、令和4年度に引き続き、対象業務の洗い出し等を行う予定である。 【自己点検・評価】 ① ② ③	【目標値】1件(累計2件) 【実施予定】前年度把握の導入スケジュールの進捗状況を確認すると共に、新たな取組予定についても把握する。	総務課	④達成度 I:計画を十分には実施していない <コメント> ●「AI・RPAなどデジタル技術の導入件数」として、何とカウントするのか、改めて確認してください。現状ですと、実績値と目標値があまりにもかげ離れすぎています。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) <コメント>	
							【目標値】- 【実施予定】RPA体験教室修了者によるRPAロボット作成をRPA推進WGメンバーが支援し、RPAを含めたロボットを1件以上作成する。 ・病院部内RPA推進WGを月1回以上開催する。 ・RPAの紹介動画の配信、RPA体験教室、RPA出前教室等を行い、ロボット作成者を増員していく。 ・RPAロボットが電子カルテや部門管理システム等にアクセスできるよう運用環境の整備を行う。	【実績値】ロボット数16件、WG12回開催 【実施状況・成果】 栄養部、看護部、放射線部、病院事務部、ME機器管理部において合計16ロボットを院内で作成し、このうち6ロボットは運用準備を進めている状況であるが、10ロボットは実際に稼働しており、ロボットの稼働することによって削減できた業務の年間削減時間は1,194時間となった。 【自己点検・評価】 ① ② ③	【目標値】- 【実施予定】RPA体験教室修了者により、RPAロボットを1件以上作成し、RPA推進WGで進捗を管理する。 ・病院部内RPA推進WGを月1回以上開催する。 ・RPAの紹介動画の配信、RPA体験教室、RPA出前教室等を行い、ロボット作成者を増員していく。	経営企画課			
							【目標値】- 【実施予定】事務局DX推進プロジェクトを立ち上げ、情報共有と人材育成のために定例ミーティングを12回開催し、デジタル技術の活用検討と業務改善効果の検討のためのコアメンバーでの打合せを51回、各課との打合せは24回実施した。 デジタル技術の活用としては、主にワークエリとGoogleWorkspaceの活用を促進し、ワークエリはハンズオン体験会を8回開催、GoogleWorkspaceは19本の活用事例を作成した。 新しいデジタル技術として事務局でもRPAを導入し、6本の業務の自動化を行った。 本年度の取り組みを評価し部長等連絡会議へ報告し、次年度も継続することとなった。 【自己点検・評価】 ① ② ③	【実績値】定例ミーティング12回、コア検討会51回、個別打合せ24回 【実施状況・成果】 情報共有と人材育成のために定例ミーティングを12回開催し、デジタル技術の活用検討と業務改善効果の検討のためのコアメンバーでの打合せを51回、各課との打合せは24回実施した。 デジタル技術の活用としては、主にワークエリとGoogleWorkspaceの活用を促進し、ワークエリはハンズオン体験会を8回開催、GoogleWorkspaceは19本の活用事例を作成した。 新しいデジタル技術として事務局でもRPAを導入し、6本の業務の自動化を行った。 本年度の取り組みを評価し部長等連絡会議へ報告し、次年度も継続することとなった。 【自己点検・評価】 ① ② ③	【目標値】- 【実施予定】事務局DX推進プロジェクトを継続し、業務へのデジタル技術の導入促進と人材育成を図る。(ミーティング開催回数:10回程度) 具体的には、現在提供されているデジタル環境及びRPAなど新しい技術の活用方法を検討し、研修等により技術の定着を図るとともに、運用ルールを提示する。 また、今回も単年度のプロジェクトとすることで短期的な成果を求めるとともに、評価を基に次年度以降の取り組みを検討する。	情報企画課			

緑色の塗りつぶし部分は、取組関係部署の実績が記入された数となっており、各評価指標の実績状況を把握するための使用手順になります。
自己点検・評価の実施にあたっては、評価指標の実績状況(白抜き部分)のみをご確認いただき、必要に応じて関係部署の実績にもご参照ください。

中期計画(15)-1				中期計画の達成状況 総務課	【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】達成度：Ⅳ 【達成状況・成果】 附属病院及び事務局において、RPA導入による16件(看護勤務管理システムデータ集計、画面データOCR読込、給与明細PDFデータの一括取得、雇用保険資格喪失届申請等)、GoogleWorkspaceを活用した19件(差し込みメールの一括送信、アワード還元金支給決定通知の送付等)の業務の効率化・自動化を実現した。 また、令和4年4月に部署横断型の「事務局DX推進プロジェクトチーム」を設置し、各部署における対象業務の洗い出しや効率化ツールの共有を進めている他、Microsoft Office Excelに登録されているパワーワークリ機能(データの取得や変換、結合など、Excelを使ったデータ分析に必要な操作を自動化するもの)の体験会を9月～10月の期間に計8回開催、更に11月にはICTの活用に関する研修を開催する等、人材育成を含めて、学内の業務効率化を強く推進した。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】		④達成度 Ⅲ:計画を十分に実施している ＜コメント＞ ○事務局DX推進プロジェクトチームの今後の活躍を期待します。その際、活動の結果、業務全般の質の確保と機能の高度が図られたとする具体的な成果をお示しいただきたい。	⑤優れた実績・成果等の有無 2. 優れた実績・成果に繋がる取組等がある ＜コメント＞ ORPA導入による16件、GoogleWorkspaceを活用した19件の業務の効率化・自動化を実現している。	
中期計画(15)-2	15)-2-A	情報セキュリティの質の維持・向上に資する研修	基準値:4回 対象期間:H28～R3の合計	目標値:基準値の3倍以上(12回以上) 対象期間:R4～R9の合計	【目標値】情報セキュリティ研修会開催数2回 【実施予定】情報セキュリティ研修会を年度内に2回開催する。研修内容の選定にあたって、これまでの実績及び世の中の状況を評価することで、情報セキュリティの質の維持・向上を図る。	【実績値】2 【実施状況・成果】 令和4年度情報セキュリティ研修会として教職員を対象に令和4年9月14日・令和5年2月13日の計2回開催した。 【自己点検・評価】 ① ② ③	【目標値】情報セキュリティ研修会開催数2回(累計4回) 【実施予定】情報セキュリティ研修会を年度内に2回開催する。研修内容の選定にあたって、これまでの実績及び世の中の状況を評価することで、情報セキュリティの質の維持・向上を図る。	情報企画課	①評価指標の達成状況 1. 全ての評価指標が目標値を達成している ＜コメント＞ ●対面・リアルタイム・録画型の研修のほか、officeの研修もあるかと思えます。また、部局ごとの研修などはなかったのでしょうか。これらについてもご確認の上、該当があれば追記ください。	②改善方策等の策定状況 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞	③前年度未達成の改善状況 1. 評価指標が改善(達成)されている 2. 一部の評価指標が改善(達成)されていない 3. 評価指標が改善(達成)されていない 4. 該当なし(達成済み) ＜コメント＞
中期計画(15)-2				中期計画の達成状況 情報企画課	【法人評価対応】 【令和4年度 中期計画の達成状況】	【進捗状況】達成度：Ⅲ 【達成状況・成果】 令和4年度情報セキュリティ研修会として、内容を吟味し、フィッシング・偽警告等に対する個人としての対応と、組織としての対応も含めた情報漏洩対策についての2回に分けて開催した。また、当日の対面実施・ライブストリーミング配信に加えて、後日のビデオ配信も行い、1回目1204名、2回目957名の受講があり、どちらもアンケートでの総合評価・情報セキュリティ意識の高まり・理解度のすべてについて5段階評価で、96%以上が、上位2つの回答であった。	【法人評価対応】 【令和5年度 中期計画の達成状況】		④達成度 Ⅲ:計画を十分に実施している ＜コメント＞ ○この計画は第4期全体で判断するものと考え、Ⅲとしました。 ●受講人数を記載していますが、割合(受講率)についても記載ください。 ○セキュリティに関する“ますい”事案の発生件数の推移をフォローしては如何でしょうか。減れば成果として示せます。	⑤優れた実績・成果等の有無 3. 優れた実績・成果が認められる取組等がない ＜コメント＞	

評価指標一覧とその達成状況

令和5年6月現在

中期計画 番号	評価指標 番号	定量的な指標	目標値	達成状況(目標・実績値)						意欲的
				R4	R5	R6	R7	R8	R9	
(1)-1	(1)-1-A	地域イノベーション関与指数：第3期(235)より増加(第4期の平均)	235以上(R9年度)	371						
				241	248	255	265	271	278	
(1)-1	(1)-2-A	地域共創拠点(嶺南地域共創センター)を設置	設置(R4年度)	設置	-	-	-	-	-	
				設置	-	-	-	-	-	
(1)-2	(1)-2-B	ステークホルダーのニーズに応えた嶺南地域の課題解決に向けたプロジェクト件数	30件以上(累積値)	17件						
				5件	5件(累計10件)	5件(累計15件)	6件(累計21件)	6件(累計27件)	6件(累計33件)	
(1)-2	(1)-2-C	相手先を福井県、嶺南自治体等とする共同研究、受託研究及び受託事業の受入金額	9,129千円以上(累積値)	6,230千円						
				1,500千円	1,500千円(累計3,000千円)	1,575千円(累計4,575千円)	1,575千円(累計6,150千円)	1,650千円(累計7,800千円)	1,650千円(累計9,450千円)	
(1)-3	(1)-3-A	令和2年度に開設した医学部総合診療・総合内科センターにおける総合診療・総合内科医育成コースの専門医療General道場の研修を修了した者	12名以上(累積値)	2名						
				2名	2名(累計4名)	2名(累計6名)	2名(累計8名)	2名(累計10名)	2名(累計12名)	
(1)-3	(1)-3-B	本学で育成・輩出した感染症専門医数	6名以上(累積値)	2名						
				1名	1名(累計2名)	1名(累計3名)	1名(累計4名)	1名(累計5名)	1名(累計6名)	
(1)-3	(1)-3-C	①「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットの開催回数 ②当該サミット参加自治体数	①1回(毎年度) ②延べ180自治体(累積値)	1回						
				①年度内1回開催	①年度内1回開催	①年度内1回開催	①年度内1回開催	①年度内1回開催	①年度内1回開催	
				31自治体	②30自治体(延べ60自治体)が参加	②30自治体(延べ90自治体)が参加	②30自治体(延べ120自治体)が参加	②30自治体(延べ150自治体)が参加	②30自治体(延べ180自治体)が参加	
(1)-4	(1)-4-A	「未来協働プラットフォームふくい」における「学生/社会人教育委員会」等での議論に基づき実施したリカレントプログラム数	2件以上(累積値)	1件						
				-	-	1件以上	-	1件以上(累計2件以上)	1件以上(累計3件以上)	
(2)-1	(2)-1-A	各学部の養成人材像を踏まえた調査・分析	実施(毎年度)	実施						
				実施	実施	実施	実施	実施	実施	
(2)-1	(2)-1-B	就職率	概ね96%前後を維持(R9年度)	99.3%						
				概ね96%前後	概ね96%前後	概ね96%前後	概ね96%前後	概ね96%前後	概ね96%前後	
(2)-2	(2)-2-A	高等学校における探究活動の支援回数	46回以上(R9年度)	95回						
				30回	40回	46回	46回	46回以上	46回以上	
(2)-2	(2)-2-B	学内における探究プロジェクトの開催回数	16回以上(R9年度)	14回						
				12回	14回	16回	16回	16回以上	16回以上	
(2)-3	(2)-3-A	就職率	概ね96%前後を維持(R9年度)	99.3%						
				概ね96%前後	概ね96%前後	概ね96%前後	概ね96%前後	概ね96%前後	概ね96%前後	
(3)-1	(3)-1-A	数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)の認定を取得	認定取得(R5年度まで)	認定取得	-	-	-	-	-	
				認定取得	-	-	-	-	-	
(3)-1	(3)-1-B	認定取得した教育プログラム履修者数	200名以上(R9年度)	331名						
				300名	340名(対象科目の受入定員数)	340名(対象科目の受入定員数)	855名(入学定員数)	855名(入学定員数)	855名(入学定員数)	
(3)-2	(3)-2-A	課題解決型、若しくは価値創造型PBLを実装する多職種連携教育	全ての学部(4学部)で構築・実施(R9年度)	実施(医学部)						
				実施(医学部)	実施(医学部)	実施(全学部)	実施(全学部)	実施(全学部)	実施(全学部)	
(3)-2	(3)-2-B	多職種連携教育科目数	6科目以上(R9年度)	5科目						
				6科目	6科目	7科目以上	7科目以上	7科目以上	7科目以上	
(4)-1	(4)-1-A	工学研究科博士前期課程の教育プログラム	①モニタリング ②レビューの実施	実施						
				実施	実施	実施	実施	実施	実施	
				-	-	整備	実施(中間)	整備	実施(最終)	
(4)-1	(4)-1-B	修了までに必修以外の工学研究科共通科目を履修した学生数(工学研究科博士前期課程(改組後))	150名以上(毎年度)	-	(195名)※2023.3.31現在の暫定値					
				-	150名	150名	155名	155名	155名	
(4)-1	(4)-1-C	工学研究科博士前期課程修了生の就職率	概ね96%前後を維持(毎年度)	100%						
				概ね96%前後	概ね96%前後	概ね96%前後	概ね96%前後	概ね96%前後	概ね96%前後	
(4)-2	(4)-2-A	他大学や機関と連携して行う原子力安全工学教育メニューの実施回数	38回以上(累積値)	13回						
				8回	8回(累計16回)	10回(累計26回)	12回(累計38回)	12回(累計50回)	12回(累計62回)	
(4)-2	(4)-2-B	原子力関連分野への就職者数	52人以上(累積値)	13人						
				10人	10人(累計20人)	10人(累計30人)	10人(累計40人)	10人(累計50人)	10人(累計60人)	
(5)-1	(5)-1-A	大学院教師教育・教員養成カリキュラムにおける長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目割合	90%以上(R9年度)	77%						
				77%以上	88%以上	88%以上	88%以上	90%以上	90%以上	
(5)-1	(5)-1-B	長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目における大学院生の学習(能力)評価に参画する立場の異なるステークホルダー数	6名以上(R9年度)	3名						
				3名	3名	4名	5名	6名	6名	

中期計画 番号	評価指標 番号	定量的な指標	目標値	達成状況(目標・実績値)						意欲的
				R4	R5	R6	R7	R8	R9	
(5)-1	(5)-1-C	「理論と実践の往還」及び長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の展開の視点から、すべての科目(授業科目・研修科目)が有機的に編成されたカリキュラムを実施する拠点数(連携大学・自治体)	5拠点以上(R9年度)	3拠点						
				3拠点	4拠点以上	4拠点以上	5拠点以上	5拠点以上	5拠点以上	
(5)-2	(5)-2-A	産学官連携本部や地域共創拠点(嶺南地域共創センター)等の学内の他部局の施設を利用し、他の研究科・教職大学院等と協働して多職種連携した人材育成を行う仕組み(講義の相互乗り入れ、プロジェクトやラウンドテーブル参加等)	構築・適宜改善	検討						
				検討	試行	実施	実施	実施	実施	
(5)-2	(5)-2-B	海外事業所や海外展開する国内企業等との間でオンラインによるヒアリングや議論を行うプログラム件数	12件以上(累積値)	13件						
				2件	2件(累計4件)	2件(累計6件)	2件(累計8件)	2件(累計10件)	2件(累計12件)	
(6)-1	(6)-1-A	小学校・中学校9年間を見通し、児童・生徒主体の学びを担うことのできる教員を養成するカリキュラムや教育プログラム	整備・実施	検討						
				検討	検討	設計	整備	整備	実装	
(6)-1	(6)-1-B	①特別支援学校2種免許取得プログラム ②複数免許取得プログラム	①プログラムの実装 ②プログラムの実装	基盤整備						
				基盤整備	実装	-	検証	-	-	
(6)-1	(6)-1-C	教育学部全体の特別支援学校教諭の免許状取得率	25%以上(R9年度)	15.2%						
				15%以上	15%以上	15%以上	20%以上	25%以上	25%以上	
(6)-2	(6)-2-A	医学・看護学教育の国際認証・分野別認証	認証取得	(医学教育)自己点検評価を実施					-	-
				(医学教育)自己点検評価の実施	医学教育分野別認証を取得	(看護教育)自己点検評価の実施	看護教育分野別認証を取得	-	-	
(6)-2	(6)-2-B	卒業時における学生の達成度自己評価において、「できる」「ある程度できる」と回答した学生の割合	R5年度(医学科)以上(R9年度)	-						
			R4年度(看護学科)以上(R9年度)	(看護学科)92.0%	基準値を設定	(医学科)初年度以上(看護学科)92.1%以上	(医学科)初年度以上(看護学科)92.1%以上	(医学科)初年度以上(看護学科)92.1%以上	(医学科)初年度以上(看護学科)92.1%以上	(医学科)初年度以上(看護学科)92.1%以上
(6)-3	(6)-3-A	地域医療、感染症教育に関する新たな取組件数	R4の数値以上(R9年度)	3件						
				基準値を設定	継続を含む4件以上	継続を含む4件以上	継続を含む4件以上	継続を含む4件以上	継続を含む4件以上	
(6)-3	(6)-3-B	地域医療、感染症に関するコンピテンシー達成度(学生のアンケート結果)	R4の数値以上(R9年度)	(医学科) 地域医療/4.17 感染症/4.04 (看護学科) 地域医療/4.24 感染症/4.17						
				基準値を設定	(医学科) 地域医療/4.18以上 感染症/4.05以上 (看護学科) 地域医療/4.25以上 感染症/4.18以上	(医学科) 地域医療/4.18以上 感染症/4.05以上 (看護学科) 地域医療/4.25以上 感染症/4.18以上	(医学科) 地域医療/4.18以上 感染症/4.05以上 (看護学科) 地域医療/4.25以上 感染症/4.18以上	(医学科) 地域医療/4.18以上 感染症/4.05以上 (看護学科) 地域医療/4.25以上 感染症/4.18以上	(医学科) 地域医療/4.18以上 感染症/4.05以上 (看護学科) 地域医療/4.25以上 感染症/4.18以上	
(7)-1	(7)-1-A	正規留学生数	118名以上(R9年度)	106名						
				118名以上	118名以上	118名以上	118名以上	118名以上	118名以上	
(7)-1	(7)-1-B	正規留学生の満足度(正規留学生を対象としたアンケート)	R4の数値以上(R9年度)	8.89/10点						
				基準値を設定	8.9/10点以上	8.9/10点以上	8.9/10点以上	8.9/10点以上	8.9/10点以上	
(7)-2	(7)-2-A	グローバル人材育成研究センター	設置	-						
				-	-	-	-	-	設置(R9まで)	
(7)-2	(7)-2-B	英語による専門科目数	R4の数値以上(毎年度)	368						
				基準値を設定	369以上	369以上	369以上	369以上	369以上	
(7)-2	(7)-2-C	①学生の国際通用性を評価するグローバル・コンピテンシー指標 ②国際通用性を高める教育(海外留学等)の実施前後のグローバル・コンピテンシー指標	①指標の構築 ②15%以上向上(平均値)	構築	-	-	-	-	-	-
				指標を構築	-	-	-	-	-	
(7)-3	(7)-3-A	海外教員研修留学生及び研修受講生指数	300以上(R9年度)	305						
				200	300	300	300	350	350	
(7)-3	(7)-3-B	海外教員研修留学生と大学院生が協働学習を行う授業	整備・実施	検証						
				検証	設計	試行・検証	整備	実施	検証	
(7)-3	(7)-3-C	海外教員研修留学生及び研修受講生による「長期実践研究報告」において、研修について良好な評価(上方3/5以上)を行った留学生・研修生の割合	60%以上(該当人数/全人数)(R9年度)	56%						
				50%以上	55%以上	60%以上	60%以上	70%以上	80%以上	
(8)-1	(8)-1-A	遠赤外領域研究に関する国内・国際共同研究の新規実施件数	227件以上(累積値)	46件						
				40件	40件(累計80件)	40件(累計120件)	40件(累計160件)	34件(累計194件)	33件(累計227件)	
(8)-2	(8)-2-A	Science Citation Index (SCI) 論文数	130件(累積値)	15件						
				23件	23件(累計46件)	23件(累計69件)	23件(累計92件)	20件(累計112件)	20件(累計132件)	

中期計画 番号	評価指標 番号	定量的な指標	目標値	達成状況(目標・実績値)						意欲的
				R4	R5	R6	R7	R8	R9	
(8)-2	(8)-2-B	①試験研究炉の研究分野に係るセミナー等の開催回数 ②同研究分野の連携協定数	①2回以上(毎年度) ②3件以上(累積値)	7回						
				年間2回	年間2回	年間2回	年間2回	年間2回	年間2回	
(8)-3	(8)-3-A	病態画像研究に関する学術誌への英文論文掲載数	160件以上(累積値)	48件						
				30件	30件(累計60件)	30件(累計90件)	30件(累計120件)	30件(累計150件)	11件(累計161件)	
(8)-4	(8)-4-A	地域イノベーション創出指数	176以上(毎年度)	225						
				185	185	186	189	190	190	
(8)-5	(8)-5-A	当該分野における学術誌への英文論文掲載数	1,756件以上(累積値)	312件						
(8)-5	(8)-5-B	当該分野における研究成果の具体化件数(特許出願数と特許の権利化件数の合計)	92件以上(累積値)	16件						
				16件	16件(累計32件)	16件(累計48件)	16件(累計64件)	16件(累計80件)	13件(累計93件)	
				7件						
(9)-1	(9)-1-A	①義務教育学校における発達障害児を含めたPBLの実施時間数 ②幼稚園における発達障害児を含めた「PBLに繋がる遊びの時間」数	①-1 100時間以上(前期課程) ①-2 70時間以上(後期課程)(毎年度) ②150時間以上(毎年度)	①-1 105~136時間						
				①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	
				②386~388時間						
(9)-1	(9)-1-B	「保護者を交えた支援会議」の実施件数	138件より20%増加(累積値)	34件						
				30件	30件(累計60件)	30件(累計90件)	30件(累計120件)	30件(累計150件)	30件(累計180件)	
(9)-1	(9)-1-C	附属学園に所属する教員の教職大学院への進学者数	18名以上(累積値)	3名						
				3名	3名(累計6名)	4名(累計10名)	4名(累計14名)	4名(累計18名)	2名(累計20名)	
(10)-1	(10)-1-A	①研究者等を対象とした多様なテーマによる臨床研究に関するセミナー・講習会の実施件数 ②研究デザイン設計を含む総合的な統計相談件数	①12回以上(毎年度) ②12回以上(毎年度)	22回						
				12回以上	12回以上	12回以上	12回以上	12回以上	12回以上	
(10)-2	(10)-2-A	シミュレーターを活用した臨床研修の実施回数	30回以上(毎年度)	48回						
				30回以上	30回以上	30回以上	30回以上	30回以上	30回以上	
(10)-2	(10)-2-B	卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラム数	3回以上(毎年度)	4プログラム						
				3プログラム以上	3プログラム以上	3プログラム以上	3プログラム以上	3プログラム以上	3プログラム以上	
(10)-3	(10)-3-A	臨床研究の新規実施件数	1,205件以上(累積値)	226件						
				180件	185件 累計402件	190件	195件 累計804件	200件	205件 累計1206件	
(10)-3	(10)-3-B	不妊治療施設(新設施設)の治療件数	R4の数値以上(毎年度)	2007件						
				基準値を設定	2108件	2208件	2309件	2409件	2509件	
(10)-3	(10)-3-C	①がん遺伝子パネル検査件数 ②遺伝カウンセリング件数	①50件以上(累積値) ②40件以上(累積値)	78件						
				①8件	①8件(累計16件)	①8件(累計24件)	①8件(累計32件)	①9件(累計41件)	①9件(累計50件)	
(11)-1	(11)-1-A	教職協働によるプロジェクト件数	10件以上(累積値)	継続5、新規2						
				継続5、新規2	新規1件以上(累計8件以上)	新規1件以上(累計9件以上)	新規1件以上(累計10件以上)	(累計10件以上)	(累計10件以上)	
(11)-2	(11)-2-A	組織的な「内部統制システムの整備及び運用に関するモニタリング」	実施	実施						
				実施	実施	実施	実施	実施	実施	
(12)-1	(12)-1-A	共用設備の使用件数	全学52,639件以上(累積値)	10,745件						
				9,138件	9,138件(累計18,276件)	9,138件(累計27,414件)	9,138件(累計36,552件)	9,138件(累計45,690件)	9,138件(累計54,828件)	
				(文京: 27,348件)(累積値)	5,825件	(文京: 4,922件)(累計9,844件)	(文京: 4,922件)(累計14,766)	(文京: 4,922件)(累計19,688)	(文京: 4,922件)(累計24,610)	(文京: 4,922件)(累計29,532)
				(松岡: 25,291件)(累積値)	4,920件	(松岡: 4,216件)(累計8,432件)	(松岡: 4,216件)(累計12,648)	(松岡: 4,216件)(累計16,864)	(松岡: 4,216件)(累計21,080)	(松岡: 4,216件)(累計25,296)
(12)-2	(12)-2-A	エネルギー消費原単位値(原油換算値)の削減割合	0.038323kl/m³以下(R9年度)	0.03870kl/m³						
				0.04000kl/m³以下	0.03950kl/m³以下	0.03900kl/m³以下	0.03830kl/m³以下	0.03815kl/m³以下	0.03800kl/m³以下	
(13)-1	(13)-1-A	産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン【追補版】を踏まえた、外部資金の獲得に関する新たな取組	2件以上(累積値)	1件						
				1件以上	1件以上(累計2件以上)	-	-	1件以上(累計3件以上)	-	

中期計画 番号	評価指標 番号	定量的な指標	目標値	達成状況（目標・実績値）						意欲的
				R4	R5	R6	R7	R8	R9	
(13)-1	(13)-1-B	相手先を福井県、嶺南自治体等とする共同研究、受託研究及び受託事業の受入金額	9,129千円以上 （累積値）	6,230千円						
				1,500千円	1,500千円 （累計3,000千円）	1,575千円 （累計4,575千円）	1,575千円 （累計6,150千円）	1,650千円 （累計7,800千円）	1,650千円 （累計9,450千円）	
(14)-1	(14)-1-A	教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価	実施・開示	実施・開示						
				実施・開示	実施・開示	実施・開示	実施・開示	実施・開示	実施・開示	
(14)-2	(14)-2-A	connect Ufukuiの登録者数	2,000人以上 （R9年度）	903人						
				500人以上	1000人以上	1500人以上	2000人以上	2000人以上	2000人以上	
(14)-2	(14)-2-B	connect Ufukui等で配信したニュースに対するステークホルダーの関心度を測定する仕組み	構築	-						
				検討を実施	関心度測定アンケートを実施	関心度測定アンケートを実施	関心度測定アンケートを実施及び中間報告	関心度測定アンケートを実施	関心度測定アンケートを実施及び最終報告	
(14)-2	(14)-2-C	戦略的に分類した各ステークホルダー区分との意見交換会等	実施（毎年度又は隔年）	一部未実施						
				実施	実施	実施	実施	実施	実施	
				① 卒業生との懇談会・ホームカミングデーの実施（毎年度） ・同窓経営者の会総会・例会の実施（毎年度）	未実施					
				② 高等学校との懇談会 ・北陸三県高等学校長との懇談会の実施（毎年度）	実施					
				③ 産業界との懇談会 ・トップ懇談会の実施（毎年度）	実施					
				④ 外部有識者 ・大学改革コンサルタントとの意見交換会の実施（毎年度）	実施					
				⑤ 未来協働プラットフォームふくい部門毎の意見交換会（毎年度）	実施					
				⑥ 在学生との懇談会 ・学部長等と学生との懇談会の実施（隔年度）	-					
				⑦ 福井県内自治体との意見交換会（隔年度）	実施					
				⑧ 報道機関との意見交換会（隔年度）	-					
(15)-1	(15)-1-A	事務局職員のデジタル技術の活用に関する研修会等への参加者数	延べ60名程度 （累積値）	21名						
				10名	10名（累計20名）	10名（累計30名）	10名（累計40名）	10名（累計50名）	10名（累計60名）	
(15)-1	(15)-1-B	AI・RPAなどデジタル技術の導入件数	3件以上 （累積値）	2件						
				1件	1件（累計2件）	1件（累計3件）	1件（累計4件）	1件（累計5件）	1件（累計6件）	
(15)-2	(15)-2-A	情報セキュリティの質の維持・向上に資する研修	12回以上 （累積値）	2回						
				2回	2回（累計4回）	2回（累計6回）	2回（累計8回）	2回（累計10回）	2回（累計12回）	

※ ピンク色の塗りつぶしセルは、当該年度の実績が目標値が未達のもの。

※ 黄色の塗りつぶしセルは、当該年度の実績が目標値を大幅に上回っており、高い評価を得るために、次年度以降の目標値を上方修正することが望ましいもの